ユーザーズ マニュアル

ES10

ご使用の前に

- **ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**
- **「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。**

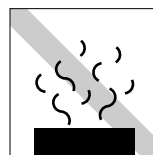
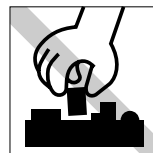
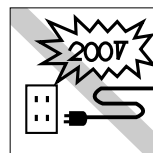
安全にお使いいただくために

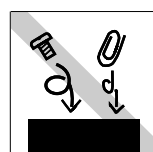
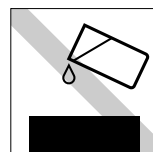
このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

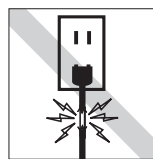
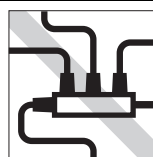
⚠ 警告

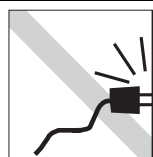
煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、修理センターにご相談ください。
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。

電源は、交流100V以外では使用しないでください。
交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

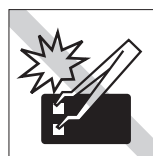
通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、修理センターにご相談ください。

⚠警告

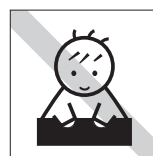
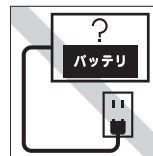
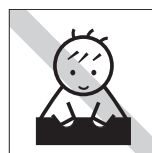
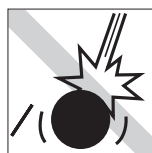
破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。
電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- 電源コードを加工しない。
- 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- 電源コードの上に重いものを載せない。
- 発熱器具の近くに配線しない。

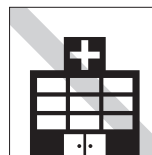
電源コードが破損したら、修理センターにご相談ください。

電源コードのたこ足配線はしないでください。
発熱し、火災の原因となります。
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。

電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。
取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

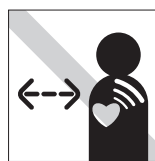
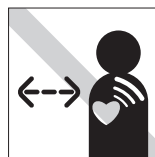
- 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。

本体や付属のバッテリパック類を火中に入れたり、加熱しないでください。
破裂などで火傷の原因となります。

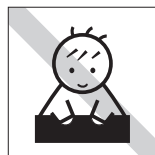
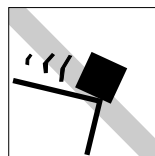
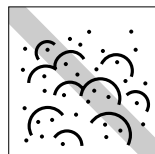
バッテリパックの端子をショートさせないでください。
火傷の原因となります。

付属のACアダプタやバッテリパックの分解や改造をしないでください。
火傷や、化学物質による被害の原因となります。

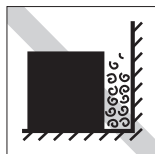
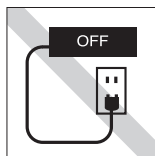
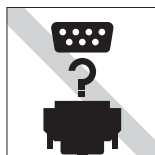
小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリパックは、指定されている以外の充電方法で充電しないでください。
発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。

⚠ 警告	
電源コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリパックを装着したまま本製品を分解しないでください。感電や火傷の原因となります。	
雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。	
小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。 口に入れたりすると窒息する危険があります。 （マウス付属モデル）	
マウスボールは、絶対に投げないでください。 マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。 （マウス付属モデル）	

ワイヤレスLANに関する警告

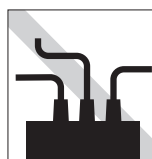
本機にはワイヤレスLAN機能が搭載されています。次の内容をよく理解してから本機をご使用ください。

⚠ 警告	
航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか、電波を停止してください。 電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。	
医療機関の屋内では次のことを守ってください。 ・ 手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。 ・ 病棟内では、本機の電源を切るか、電波を停止してください。 ・ ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか、電波を停止してください。 ・ 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。 ・ 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切るか、電波を停止してください。	

⚠警告

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本製品を22cm以上離して使用してください。
電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

自宅療養など医療機関以外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。

⚠注意

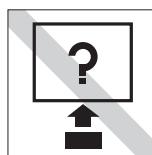
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。

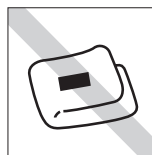
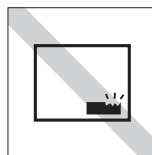
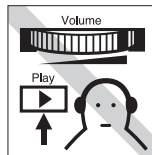
- 押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。
- じゅうたんや布団の上には設置しない。
- 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。

各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。

⚠ 注 意

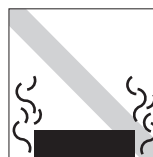
本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- 構内交換機(PBX)
- 2線式でない回線(ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

バッテリパックは、落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

ACアダプタやバッテリパックは、本製品以外には使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。

ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。
低温火傷の原因になります。

ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。
火傷・火災の危険があります。

破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。

⚠ 注意	
メモリの増設・交換は本製品の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。	
液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。 火傷や化学物質による被害の原因となります。 万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。	
ひざの上で長時間使用しないでください。本体底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。	

● 使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

● コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッドの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

● システムの拡張

メモリの増設方法やコンピュータに接続できる装置について説明します。

● BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

● ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

● こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

● 付録

お手入れ方法、仕様などについて説明します。

目　次

システムの拡張

BIOSの設定

ソフトウェアの再インストール

こんなときは

付　録

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。

参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。

説明文が次ページに続くことを示します。

参照ページを示します。

1 2

操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

Ctrl

[ ] で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

[↵] はEnterキーを表します。また、[N] は [N み] のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。

Ctrl + Z

＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。
この例では、Ctrl を押したまま Z を押します。

名称の表記

本書ではコンピュータに関連する製品の名称を次のように略して表記します。

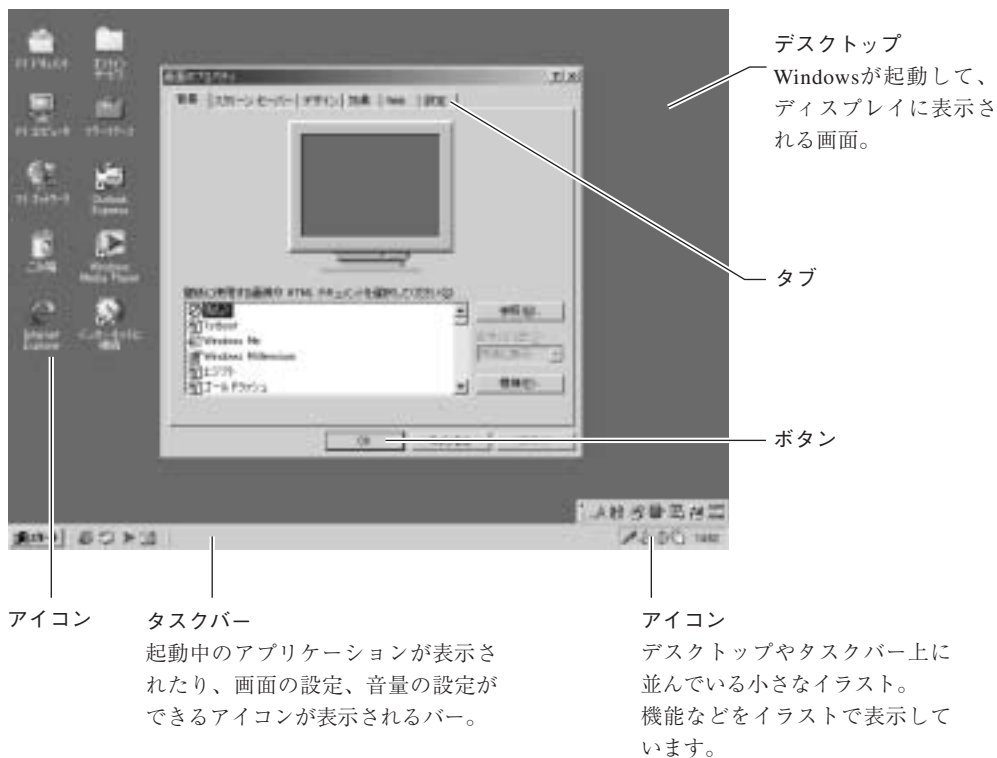
HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書ではオペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition
MS-DOS	Microsoft® MS-DOS® Operating system

Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows 2000)

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

ボタンは、[ ]で囲んで記載します。

例 **スタート** :[スタート]、 OK :[OK]

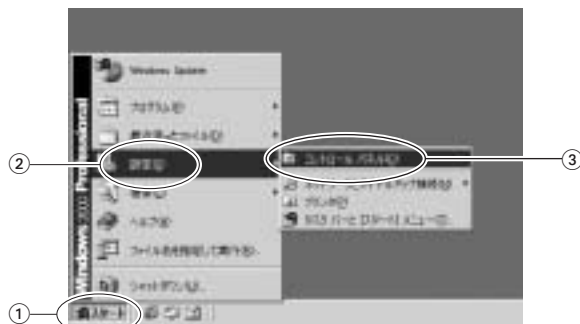
Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

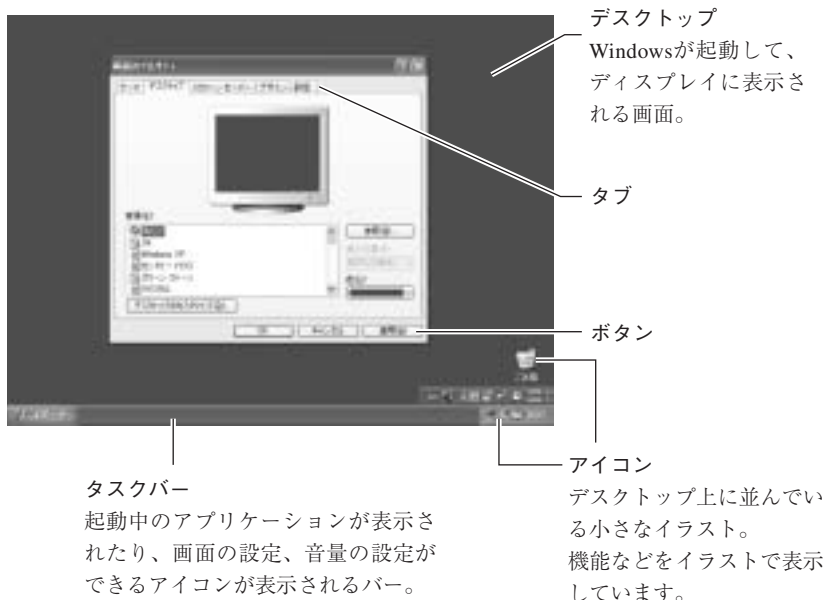
記載例　　　:[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 :① [**スタート**]をクリックします。

② 表示されたメニューから「**設定**」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「**コントロールパネル**」をクリックします。

Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows XP)

本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

※マニュアル中で採用している画面は、主にWindows 2000のものです。Windows XPで表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。

ボタンは[　]で囲んで記載します。

例 [スタート画像]:[スタート]、[OK画像]:[OK]

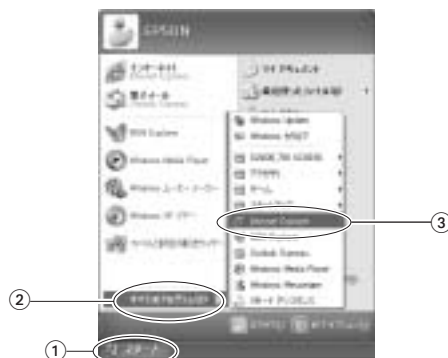
Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

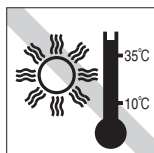
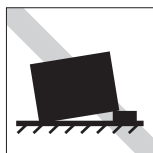
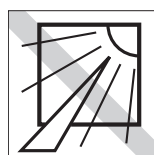
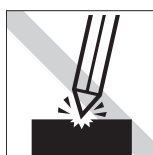
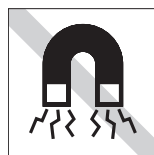
記載例　　:[スタート]–「すべてのプログラム」–「Internet Explorer」をクリックします。

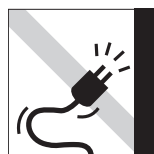
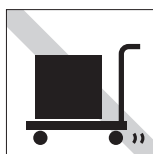
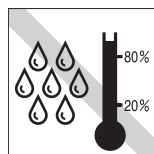
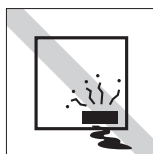
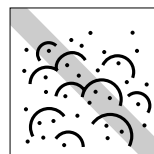
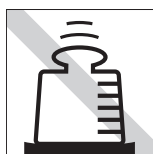
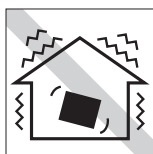
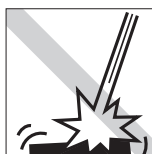
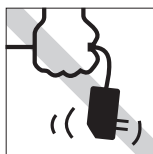
実際の操作 :① [スタート]をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

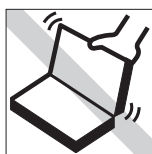
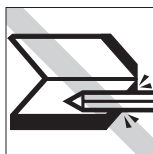
③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

製品保護上の注意

使用・保管時の注意

コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。

温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

不安定な所には設置しないでください。
落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。

直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。
逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

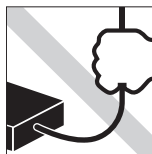
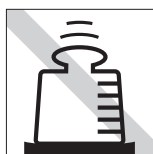
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。

遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。

湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20%～80%です。

本製品を長期間使わないときは、バッテリパックを本機にセットしたままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

本製品の上に重い物を載せたり、カバーを強く押え付けないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

本製品を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。

ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

コンピュータ・バッテリパックは一般ゴミとして廃棄しないでください。廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。

ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破壊しないでください。

本製品のカバー(液晶ディスプレイ)を開けた状態で、カバー部分を持って移動しないでください。

キーボードの上などに、物(ボールペンなど)を挟んだまま、カバー(液晶ディスプレイ)を閉じないでください。

USB FDD(オプション)

オプションのUSB FDDを使用するときは、次の注意事項を必ず守って、正しく取り扱ってください。

落としたり、衝撃を与えないでください。
故障、誤動作の原因になります。

着脱はプラグ部分を持って行ってください。ケーブルを持ってコネクタの着脱を行わないでください。
ケーブルの断線や接触不良の原因になります。

上に物を置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

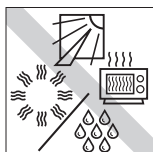
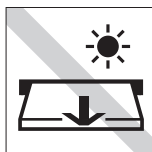
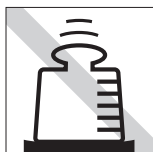
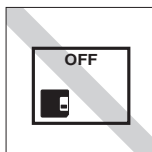
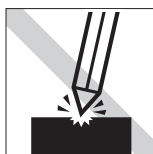
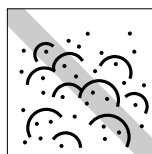
FDD本体をぶらさげた状態で保持することは避けてください。
ケーブルの断線や接触不良の原因になります。

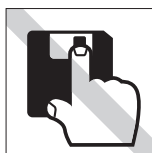
表面を上にして水平に置いて使用してください。裏返しや傾けて使うとエラー発生の原因になります。

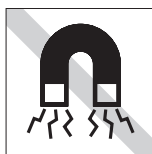
記録メディア

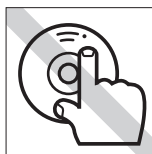
以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

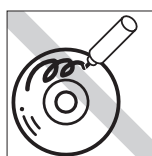
- FD　FD
- CD-ROM･CD-R･CD-RW･DVD-ROMなど　CD

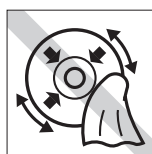
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。

直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温･多湿となる場所には置かないでください。

アクセスLEDが点灯中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を押したり、リセットをしないでください。

上に物を載せないでください。

使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

キズを付けないでください。

ゴミやホコリの多いところでは使用しないでください。また、そのような場所に記録メディアを保管しないでください。

クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。FD

磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。FD

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。FD

信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。CD

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。CD

信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。CD

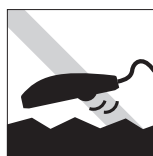
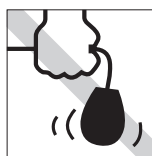
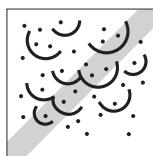
CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。CD

レコードのように回転させて拭かないでください。CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。CD

シールを貼らないでください。CD

マウス（オプション）

オプションのマウスを使用するときは、次の注意事項を必ず守って、正しく取り扱ってください。

落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。

マウスボールを素手で触らないでください。

平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。

持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。

ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用の前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品の確認

まず、梱包品に不足や不良がないかを確認します。

『**梱包品の確認**』

安全にお使いいただくために

正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。必ずお読みください。

 表紙裏面

製品保護上の注意

正しく取り扱っていただくための情報を確認します。必ずお読みください。

 p.18「製品保護上の注意」

ご使用の前に

本機を使用する前に必要な情報を確認します。

 p.24「ご使用の前に」

各部の名称と働き

本機の各部の名称と働きを確認します。

 p.29「各部の名称と働き」

ハードウェアをセットアップしましょう

各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。

 p.34「ハードウェアをセットアップしましょう」

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

電源を入れ、Windowsを初めて起動したときに実行されるWindowsのセットアップを行います。

 p.41「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

電源の切り方

Windowsを終了し、本機の電源を切ります。

 p.52「電源の切り方」

ご使用前の確認事項

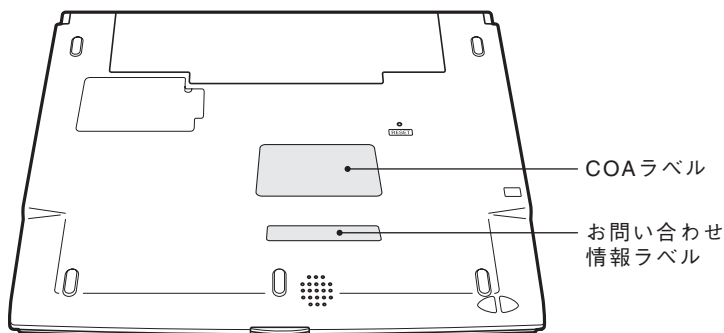
本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

● お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

● COAラベル

「COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)」は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。絶対にはがさないでください。

本機の特長

メモリ容量

Micro SDRAMを装着して、最大512MBまで増設が可能です。

表示装置

12.1型TFT XGA液晶ディスプレイを搭載しています。外付けディスプレイにも接続できます。

CPU性能

モバイルインテルCeleron LVプロセッサを搭載しています。

PCカードスロット

PC Card Standard準拠CardBus対応のPCカードスロットを装備しています。

ネットワーク機能

- 100Base-TX対応のLANコネクタを装備しています。
- IEEE802.11bに対応したワイヤレスLAN機能を搭載しています。

CFカードスロット

コンパクトフラッシュ(CF)カード用のスロットを装備しています。

電源

ACアダプタ、またはバッテリパックを使用します。

ポインティングデバイス

スクロール機能に対応したタッチパッドを搭載しています。

そのほか

- モデム機能を搭載しています。
- USB2.0機能を搭載しています。
- IEEE1394機能を搭載しています。

オペレーティングシステム

Windows 2000、またはWindows XPをインストール済みです。

添付されているソフトウェア

本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時のシステム構成によってはこのほかにも添付されているソフトウェアがあります。
本機では、Windowsやデバイスドライバを再インストールするためのリカバリイメージが、HDDに登録されています。

表中記号の見方

:購入時には、HDDにインストールされています。

:購入時には、インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

リカバリイメージに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
● Windows Windowsは、最新のものがインストールされています。	✓	✓
● インテル830MGチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。	✓	✓
● ディスプレイドライバ Windowsを高解像度･多色で表示するためのドライバです。	✓	✓
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	✓	✓
● FAXモデムドライバ FAXモデム機能を使用するためのドライバです。	✓	✓
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのデバイスドライバです。	✓	✓
● ネットワークドライバ ネットワーク機能(有線LAN)を使用するためのドライバです。	✓	✓
● ワイヤレスLANドライバ ワイヤレスLAN機能を使用するためのドライバです。	✓	✓
● ワイヤレスLAN設定ユーティリティ ワイヤレスLANに関する各種設定を行うためのユーティリティです。	✓	※
● ブロードバンドチェンジャー ネットワークの設定を、接続先にあわせて切り替えるためのユーティリティです。		✓

※ Windows XPが標準で機能を持っています。

リカバリイメージに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
● Norton AntiVirus2003 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。		
● Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類をそのまま再現するPDFファイルの表示や印刷ができるソフトウェアです。		
● Bootable CD Creator※ リカバリイメージをCD-RにコピーしてリカバリCDを作成するためのユーティリティです。		

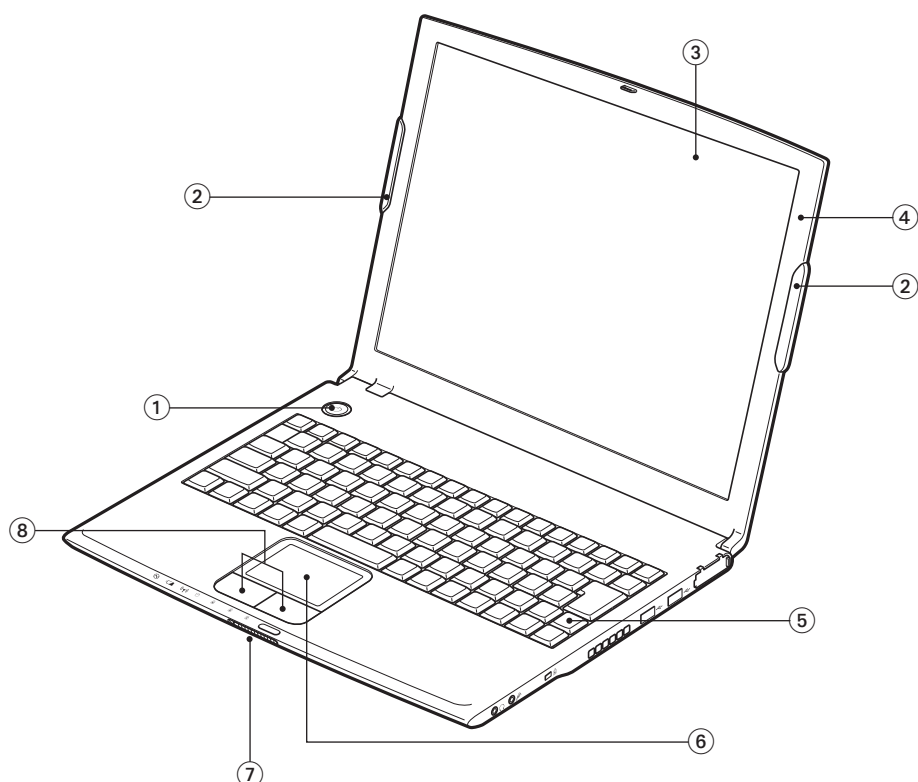
※ Bootable CD CreatorでリカバリCDを作成するには、オプションの薄型ドライブが必要です。

専用のCDが添付されているソフトウェア※

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
● Symphomovie（Symphomovieインストールモデル） ビデオ編集のためのソフトウェアです。 CD名：「Symphomovie CD-ROM」		
● マウスウェア（ホイール付きUSBマウス添付モデル） マウスのより細かい設定を行うためのユーティリティです。 CD名：「マウスドライバCD」		

※ 購入時のシステム構成によっては、上記以外のCD-ROMが添付されている場合があります。
なお、本機でCDからインストールを行うには、オプションの薄型ドライブが必要です。

各部の名称と働き

前面

① 電源スイッチ ⏻
本機の電源の入/切を行います。また、スタンバイや休止状態からの復帰にも使用できます。

② ワイヤレスLANアンテナ
ワイヤレスLANで通信を行うためのアンテナです。

③ LCD画面
入力した文字や、作業内容を表示します。

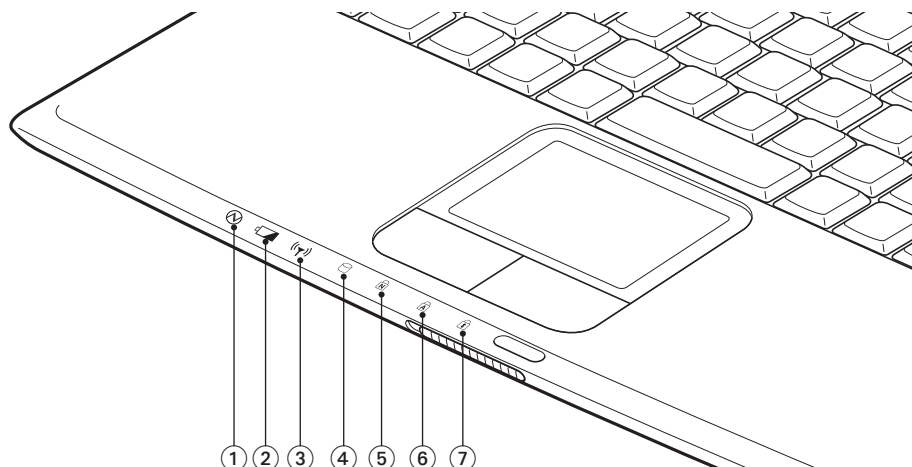
④ LCDユニット
LCD画面を含めた画面部分の総称です。

⑤ キーボード
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

⑥ タッチパッド
指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。

⑦ LCDラッチ
LCDユニットを開くときにスライドします。

⑧ クリックボタン
マウスの左右ボタンに相当します。

ステータスLED

① 電源LED

電源状態を示します。

緑点灯	通常モード
緑点滅	スタンバイモード
消　灯	電源切断時または休止状態

② バッテリ充電LED

バッテリの充電状態を示します。

p.64「バッテリの充電」

③ ワイヤレスLAN LED

緑点灯	アンテナが有効
消　灯	アンテナが無効

④ アクセスLED

HDDアクセス中に緑色に点灯します。

⑤ Num Lock LED

Num Lockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

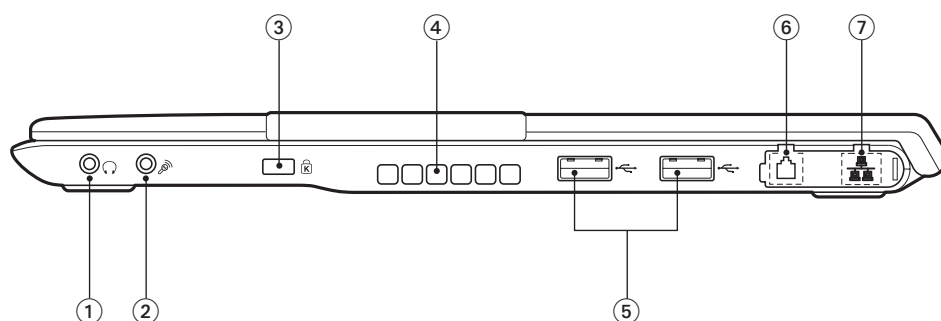
⑥ Caps Lock LED

Caps Lockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、Shiftキーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

⑦ Scroll Lock LED

Scroll Lockキーの設定状態を表示します。

アクセスLEDが点灯しているときに電源を切ったり、コンピュータをリセットしないでください。データが破壊されるおそれがあります。

右側面

① ヘッドフォン出力コネクタ
ヘッドフォンやアンプ内蔵スピーカなどを接続します。

② マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

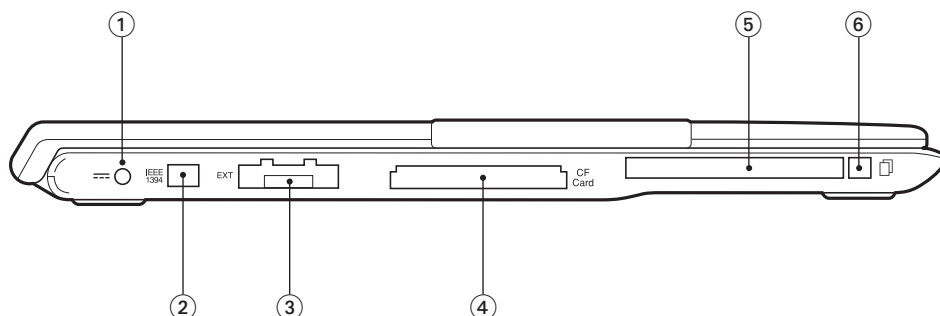
③ セキュリティロックスロット
市販の盗難防止用ケーブル（ワイヤー）を接続します（ケンジントン社製セキュリティロックに対応しています）。

④ 通風孔
コンピュータ内部で発生する熱を逃したり、冷やしたりします。

⑤ USB2.0コネクタ
USB対応機器を接続します。

⑥ モデムコネクタ
電話回線を接続します。

⑦ LANコネクタ
ネットワークを接続します。

左側面

① ACアダプタコネクタ ⎓
付属のACアダプタを接続します。

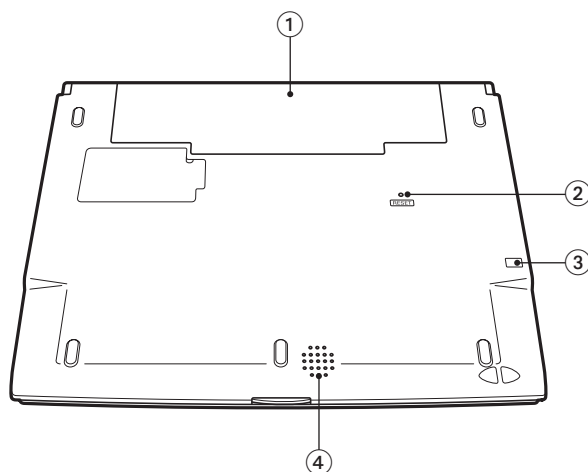
② IEEE1394コネクタ IEEE 1394
IEEE1394機器を接続します(4ピン)。

③ VGAコネクタ EXT
添付の専用VGAケーブルを使用して外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

④ CFカードスロット CF Card
CompactFlash Standard規格準拠のCFカードをセットして使用します。

⑤ PCカードスロット
PC Card Standard規格準拠のPCカードをセットして使用します。

⑥ PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

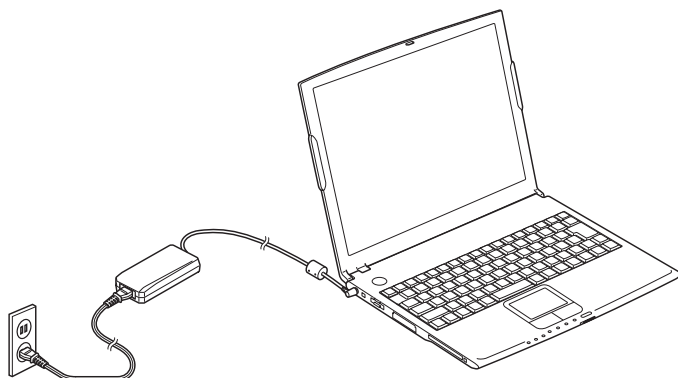
底面

① バッテリパック
バッテリパックが装着されています。
（3600mAhバッテリパックをお使いの場合、形状は異なります。）

② リセットホール
コンピュータのリセットを行います。

③ CFカードイジェクトボタン
CFカードを取り出すときに押します。

④ 内蔵スピーカ（モノラル）
警告音や音声などを鳴らします。

ハードウェアをセットアップしましょう

本機を、基本的なシステム構成でセットアップする手順を説明します。プリンタなどの周辺機器を接続する場合はWindowsのセットアップ終了後に周辺機器のマニュアルを参照して接続とセットアップを行ってください。

設置における注意

● 本機の底面は熱くなるため、ひざの上に置いて長時間使用しないでください。熱による低温火傷の危険があります。
● 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
● 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
・ じゅうたんや布団の上には設置しない。
・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

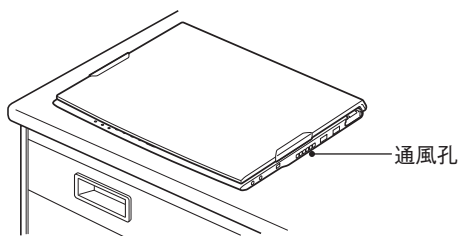
各種コードやバッテリパック装着時の注意

● ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
● 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
● 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
・ 電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
・ 電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

● 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

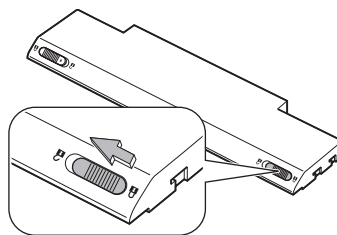
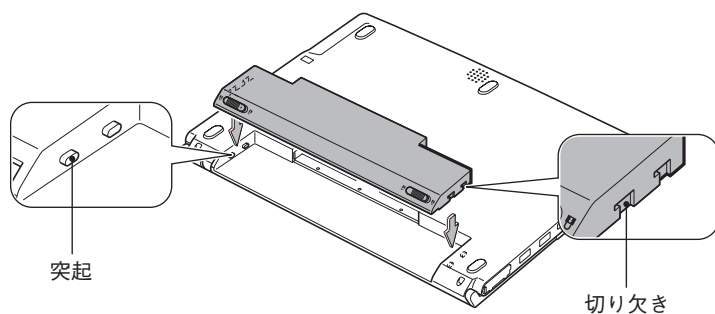
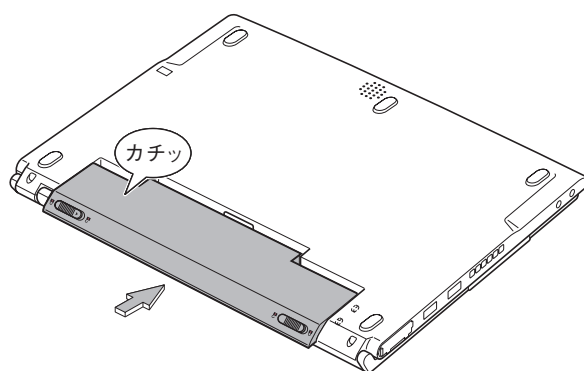
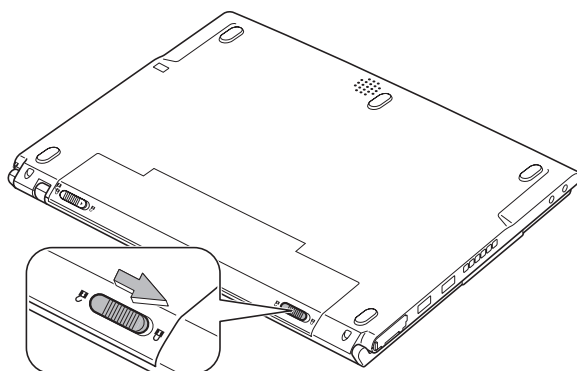
設置する

1 本機を設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。

右側の通風孔をふさがないようにしてください。

バッテリパックを装着する

ここでは1800mAhバッテリパックを使って説明しています。3600mAhバッテリパックをお使いの場合は、形状が異なりますが、手順は同様です。

2 バッテリパックを装着します。

1. コンピュータの底面部を上にして置きます。
2. バッテリパックの右側のレバーを、ロック解除位置( )まで矢印の方向へスライドさせます。

❸ バッテリパックの左右の切り欠きをコンピュータの突起に合わせて差し込みます。

❹「カチッ」と音がするまで、バッテリパックを矢印の方向に押し込みます。

バッテリパックの右側のレバーを矢印の方向へスライドさせて、ロック位置(🔒)で固定します。

本機はバッテリパックだけで使用できます。ただし、出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

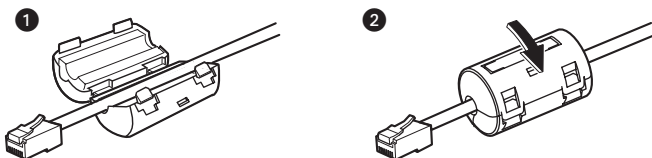
p.58「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

ネットワークに接続をする

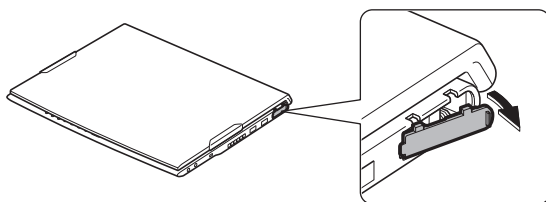
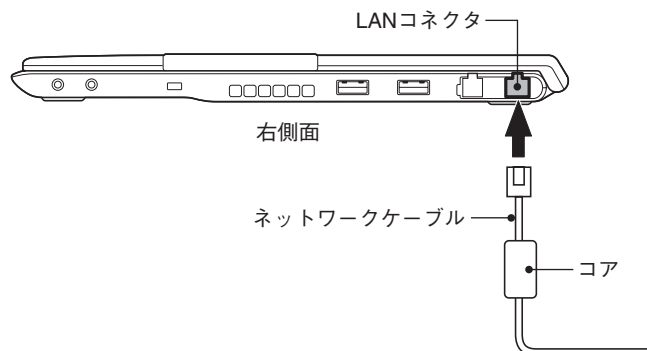
ワイヤレスLAN機能を使用してネットワークに接続する場合は、ネットワークケーブルを接続する必要はありません。

3 ネットワーク機能(有線LAN)を使用する場合は、市販のネットワークケーブルにコアを装着します。

❶ コンピュータに接続する側のコネクタにできるだけ近い位置に添付のコア(ネットワークケーブル用)を取り付けます。
コアにネットワークケーブルを通します。
(コアは、コンピュータから電波が漏れるのを防ぐための部品です。)

❷「カチッ」と音がするようにコアを閉じます。

4 ネットワークケーブルをLANコネクタに接続します。

ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。

❶ LANコネクタのカバーを開けます。
ネットワークケーブルを外した場合は、必ずカバーをもとどおりに閉じておいてください。

❷ ネットワークケーブルをLANコネクタにカチッと音がするまで差し込みます。

電話回線への接続をする

● FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

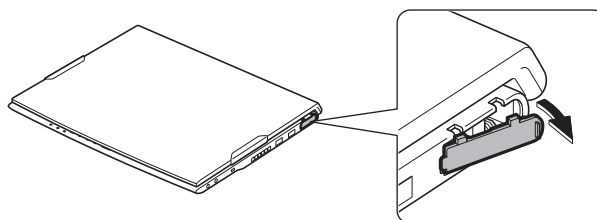
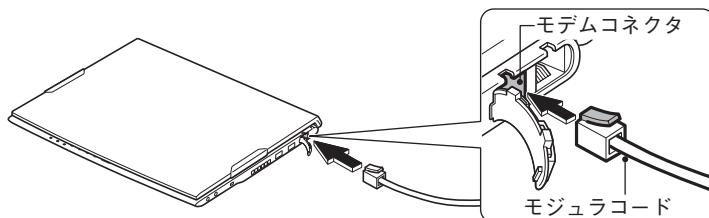
・ 構内交換機(PBX)

・ 2線式でない回線(ホームテレホンやビジネスホンなど)

・ ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

5 FAXモデム機能を使用する場合は、電話回線への接続を行います。

❶ モデムコネクタのカバーを開けます。

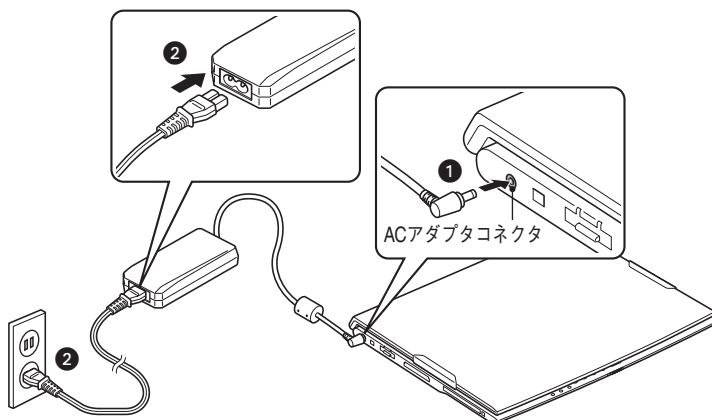
モジュラコードを外した場合は、必ずカバーをもとどおりに閉じておいてください。

❷ 付属のモジュラコードをモデムコネクタにカチッと音がするまで差し込みます。

❸ モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。

ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

6 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

❶ ACアダプタのプラグ部を本体左側面のACアダプタコネクタ（⎓）に接続します。

❷ 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。

ACアダプタを接続して使うときも、必ずバッテリパックをセットした状態で使ってください。

LCDユニットを開ける

本機はLCDユニットを開くとキーが入力できる状態までせり上がるポップアップ式のキーボードを搭載しています。LCDユニットを90度以上開くと、キーボードが完全にポップアップし、キーが入力できる状態になります。

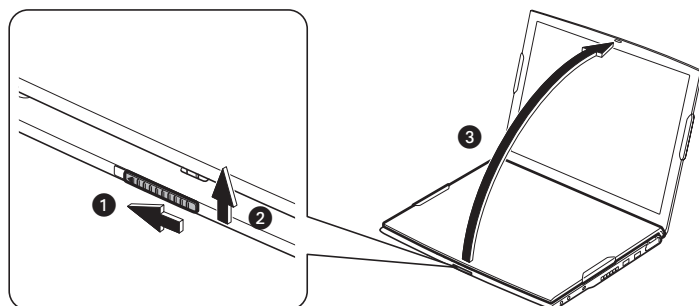
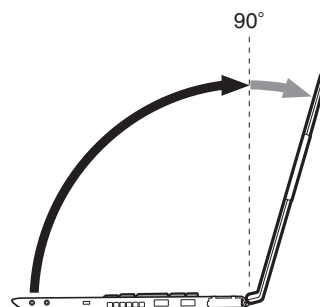
キーボードが完全にポップアップしていない状態でキーを押すと、故障の原因になります。

7 LCDユニットを開きます。

❶ LCDラッチを左側へスライドさせます。

❷ LCDラッチをスライドさせた状態で、LCDユニットを1cmほど開きます。

❸ キーボード側を押さえながら、LCDユニットをゆっくりと開きます。

キーボード側を押さえながら開かないと、本体が持ち上がってしまいます。

❹ LCDユニットは、必ず90度以上開いてから見やすい角度に調整してください。

これでハードウェアのセットアップは終了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

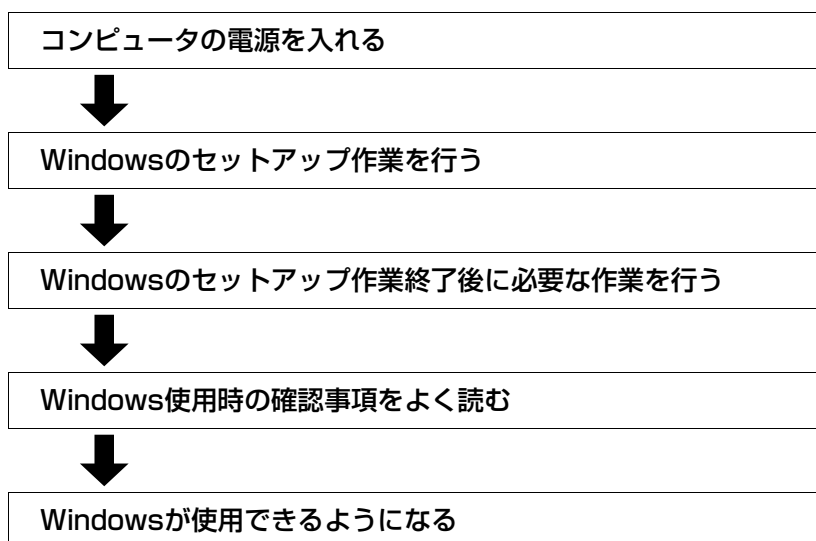
作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。

コンピュータの電源を入れる

Windowsのセットアップ作業を行う

Windowsのセットアップ作業終了後に必要な作業を行う

Windows使用時の確認事項をよく読む

Windowsが使用できるようになる

電源を入れる前に

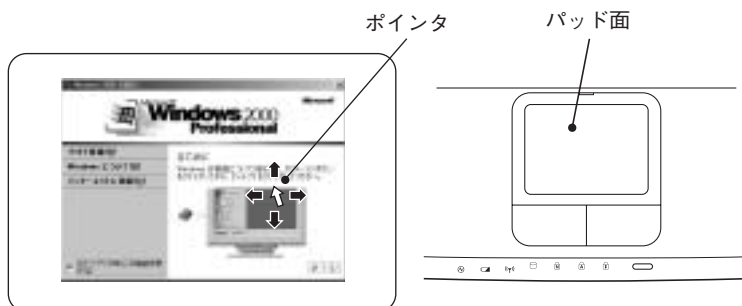
Windowsのセットアップ

「Windowsセットアップ」は、コンピュータが届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って簡単に行うことができます。

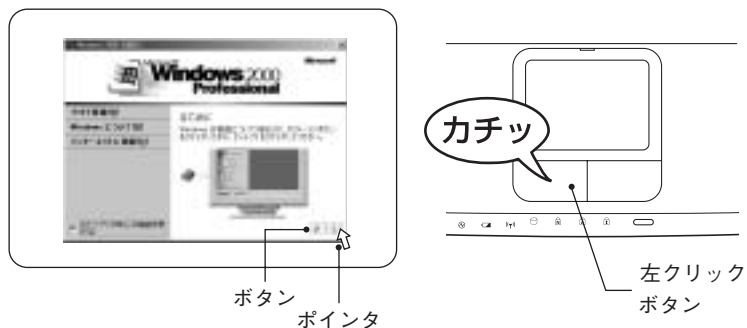
タッチパッドの使い方

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

● **ポインタを動かす**

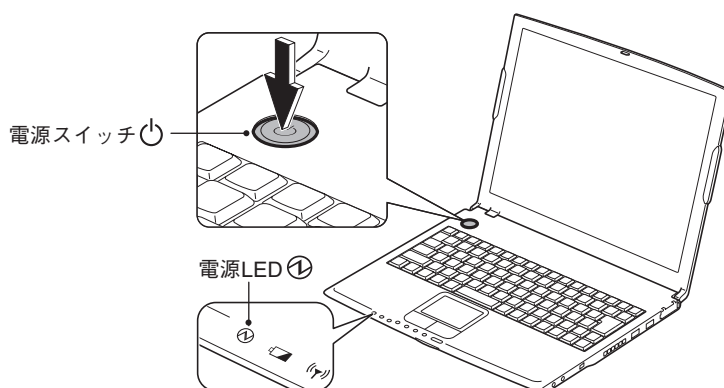
人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。

● **ボタンをクリックする**

❶ 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。

❷ 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。
この動作を「クリック」と言います。
ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は次のとおりです。

1 **電源スイッチを押して、本機の電源を入れます。電源LEDが点灯します。**

電源を入れたときに電源LEDが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認し、正しく接続し直してください。

2 **画面に「EPSON DIRECT」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。**

続いてWindowsのセットアップを行います。

- Windows 2000インストールモデル

  p.44「Windows 2000のセットアップ」

- Windows XPインストールモデル

  p.46「Windows XPのセットアップ」

次の調節をして画面を見やすくします。

- 角度　LCDパネルを前後に動かします。
- 画面の明るさ　Fn+F7（▲☼）：明るくなります。
  Fn+F6（▼☼）：暗くなります。

Windowsのセットアップ

Windows 2000のセットアップ

Windows 2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 2000セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

Windows 2000 セットアップウィザードの開始

↓

ライセンス契約

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。

※「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

↓

ソフトウェアの個人用設定

ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。

※ 名前を入力後 を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

↓

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

↓

日付と時刻の設定

「日付と時刻」で現在の日時を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

↓

Windows 2000 セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動する]をクリックするとコンピュータが再起動します。

2 Windows 2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これで「Windows 2000セットアップ」は終了です。

続けてp.48「セットアップ終了後の作業」に移ります。

Windows XPのセットアップ

Windows XPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1 **電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。**

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

↓「このコンピュータの名前」を入力します。このコンピュータをネットワークに接続して使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って入力してください。

パスワードの設定

↓ Windows XP Professionalをお使いの場合は、パスワードを管理者の指示に従って入力します。

インターネットへの接続

↓ ここでは接続を行いませんので[省略]をクリックします。

ユーザー登録

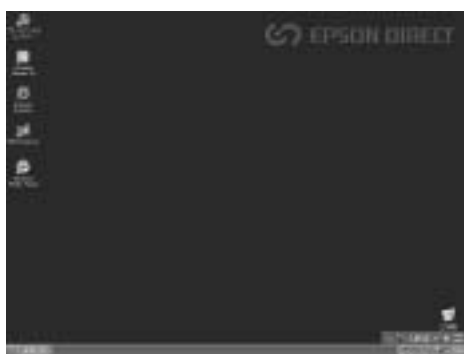
↓ ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択します。

コンピュータを使用するユーザーの指定

↓ このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

インストールの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2 **Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「Windows XPセットアップ」は終了です。**

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると上記の画面が表示されます。

続けてp.48「セットアップ終了後の作業」に移ります。

ユーザー登録とライセンス認証(アクティベーション)について

- セットアップ中にスキップした、ユーザー登録を行う場合は、[スタート]−「ファイル名を指定して実行」−「REGWIZ □/R」(□はスペース)を実行し、ウィザード画面の指示に従ってください。ユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは弊社で行っています。
- 弊社より提供されたWindows XP(購入時にコンピュータにインストールされているもの、および「リカバリイメージ」や「リカバリCD」から再インストールを行ったもの)は、ライセンス認証を行う必要はありません。

セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

Norton AntiVirus2003のインストール

「Norton AntiVirus2003」は、コンピュータウィルスを検索し駆除するためのソフトウェアです。購入時には「Norton AntiVirus2003」がインストールされていません。

必ず「Norton AntiVirus2003」のインストールを行ってください。

p.140「コンピュータウィルスの検索・駆除」

ネットワークに接続する

ネットワーク機能(有線LAN)やワイヤレスLAN機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

p.146「ネットワーク(有線LAN)を使う」
p.148「ワイヤレスLAN(無線LAN)を使う」

本機では、ネットワーク機能(有線LAN)とワイヤレスLAN機能を同時に使用した場合の動作については、保証していません。

FAXモデムの設定

FAXモデムを使ってインターネットへ接続する場合は設定を行います。

p.117「インターネットに接続するには」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項の確認を行ってください。
Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータの電源を入れるときには、次の点に注意してください。

- **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。**
  省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。
  p.134「省電力機能を使う」
- **電源を入れ直すときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。**
  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- **周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。**
  コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合にはキーボード操作で音量を調節します。

Fn+F3(▼🔈):音量が小さくなります。
Fn+F4(▲🔈):音量が大きくなります。

省電力機能

本機では、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、キーボードの操作でもとに戻ります。

p.134「省電力機能を使う」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、次のフォルダ名を指定してください。

Windows 2000 ： C:￥I386（Iはアルファベット）
Windows XP ： C:￥WINDOWS￥I386（Iはアルファベット）

これらのフォルダは、デバイスドライバのインストール時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

DRIVERSフォルダについて

Cドライブの「DRIVERSフォルダ」には、本機のデバイスドライバやユーティリティをインストールするためのデータが登録されています。このフォルダは絶対に削除しないでください。

CDやFDなどのメディア使用時は

本機は、CD-ROMドライブなどの薄型ドライブやFDDを搭載していません。次のような場合には、本機専用オプションのUSB接続薄型ドライブやUSB FDDが必要です。

- Symphomovie インストールモデルで、アプリケーションの再インストールを行う場合
- Office XPインストールモデルで、アプリケーション使用時に添付のCDの内容を参照する場合やアプリケーションの再インストールを行う場合
- 「Bootable CD Creator」を使用して、リカバリCDを作成する場合
- 市販のアプリケーションや周辺機器などに添付されているCDやFDなどを使用する場合
- CDやFDのメディアを使用して、データ交換を行う場合

SBSIの実行について(Windows XPのみ)

「ステップバイステップインタラクティブ(以降SBSI)」を実行すると、Windows XPの使い方の詳細をデスクトップ上で見ることができます。「SBSI」の実行は、[スタート]−「すべてのプログラム」−「アクセサリ」−「Microsoftインタラクティブトレーニング」−「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。

- 電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。
- アクセスLED点灯中に電源を切ると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。
- 本機は電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり、コンセントに接続されていると、コンピュータ内部には微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。

Windows 2000の終了と電源の切り方

必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

1 **[スタート]－「シャットダウン」をクリックします。**

2 **「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。**
Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。

3 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

Windows XPの終了と電源の切り方

必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

1 **[スタート]－「終了オプション」をクリックします。**

2 **「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る]をクリックします。**

Windows XPが終了し、自動的に電源が切れます。

3 **接続している周辺機器の電源を切ります。**

Windows XP終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]－[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- プログラムがハングアップ(キーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。
ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsのリセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

Windows 2000： [スタート]－「シャットダウン」－「再起動」を選択
Windows XP　： [スタート]－[終了オプション]－[再起動]をクリック

リセットできないときは

プログラムがハングアップしてしまい、リセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl+Alt+Deleteを押してリセットする

コンピュータがリセットできないときは...

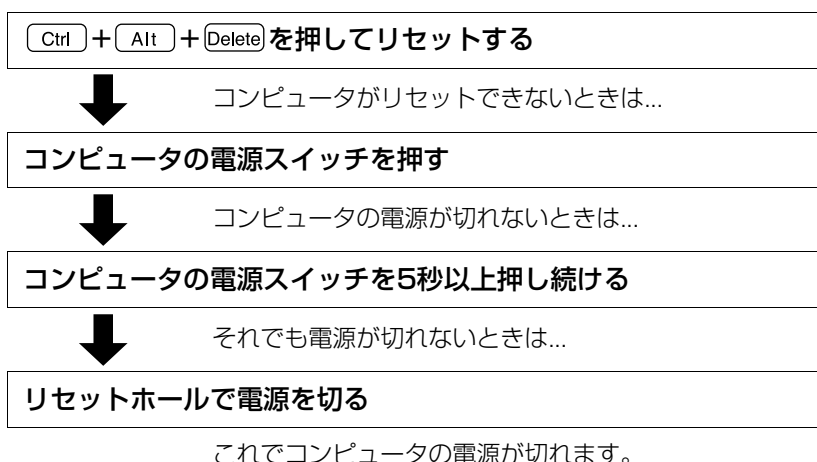
コンピュータの電源スイッチを押す

コンピュータの電源が切れないときは...

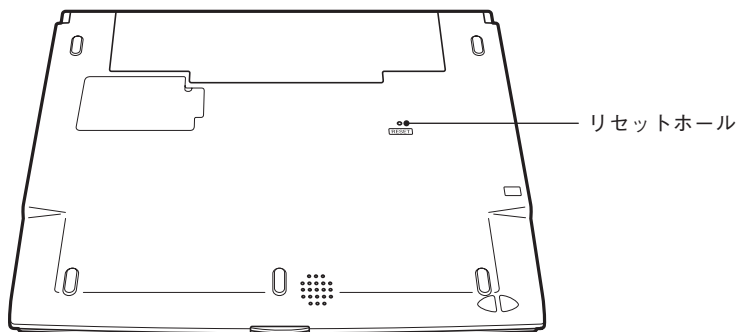
コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

それでも電源が切れないときは...

リセットホールで電源を切る

これでコンピュータの電源が切れます。

リセットホールで電源を切る方法

本体底面にあるリセットホール(RESET)に丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。

リセットホールはプログラムがハングアップして前ページの方法でも電源が切れないときに使用してください。

コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッドの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックを使って使用することができます。

- ACアダプタや、バッテリパックの分解や改造をしないでください。火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。
- バッテリパックを火中に入れたり、加熱しないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- 小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックは、指定されている以外の充電方法で充電しないでください。発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。

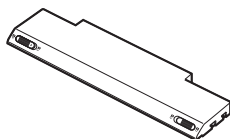
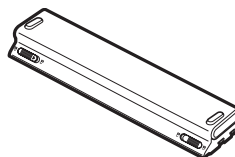
- 連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ACアダプタやバッテリパックは本機以外には使用しないでください。火傷･火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷･火災の危険があります。
- 破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷･火災の危険があります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。本体底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- バッテリパックは落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

制限

- ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリパックを装着して本機を使用してください。
- バッテリパックを使用しているときは、電源が入っている状態でACアダプタを抜き差しすることができますが、動作中はなるべくACアダプタを抜かないでください。電源が切れている状態で抜いてください。
- ACアダプタを頻繁に抜き差しすることは避けてください。
- ACアダプタを長時間接続して使用すると、ACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。

ACアダプタの接続方法は、p.39「ハードウェアをセットアップしましょう」の手順6をご覧ください。

バッテリパックを使う

バッテリパック（以降バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。バッテリを使用すれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用します。
本機で利用できるバッテリパックは、1800mAhバッテリパック、3600mAhバッテリパックの2種類です。

〈1800mAhバッテリパック〉

〈3600mAhバッテリパック〉

使用可能時間

バッテリだけで使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

使用可能時間（満充電の場合）	1800mAhバッテリ	3600mAhバッテリ
	連続約2.5時間*	連続約5.0時間*

*JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

バッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力機能の使用で消費電力を抑えると、使用可能時間を延ばすことができます。

p.134「省電力機能を使う」

バッテリ使用時の注意

- 省電力モードのまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力モードに入っているときも電力が消費されています。

p.134「省電力機能を使う」

- バッテリは本機の電源を切っていても自然放電によって電力が消費されています。長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリは温度が10～30℃の環境で使用すると使用時間や寿命を延ばすことができます。10℃以下の場所に放置していたバッテリは性能が低下しています。10～30℃の温度範囲の場所でしばらく慣らしてから使用することをおすすめします。
- バッテリの特性上、残量が正しく表示されず、使用中に急激に残量が減ってしまうことがあります。バッテリが急に終わって困らないようにバッテリ使用後は常に充電をすることをおすすめします。

バッテリ残量の確認

バッテリの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。

p.65「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

本機では残量の確認を次の方法で行うことができます。

- タスクバーの「バッテリ」アイコンの上にマウスポインタをあわせる。

- プロパティ画面を開いて確認する。

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「電源メーター」タブ

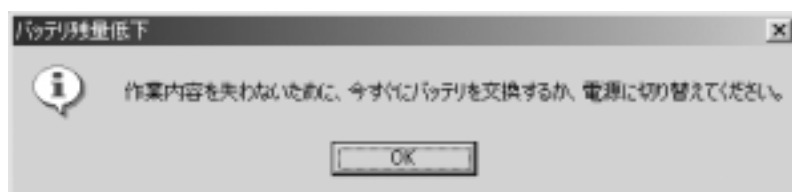
Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源メーター」タブ

〈Windows 2000の場合〉

バッテリ残量が少なくなったら

低バッテリの通知

残量が少なくなると、本機は次のように通知(警告)します。直ちに下記の対処を行ってください。完全放電してシャットダウン(電源切断)してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

● バッテリ残量が約10%*になるとバッテリ低下メッセージが表示されます。

〈Windows 2000の場合〉

そのまま放置すると、残量約3%*でスタンバイモードに入ります。スタンバイモード中も電力を消費しています。

*この設定は、次ページの「バッテリアラームの設定」で変更することができます。

● シャットダウンする直前には、次ページの「バッテリアラームの設定」の内容にかかわりなく、バッテリ充電LED( )が赤く点滅し、警告音が鳴ります。

対処方法

バッテリ残量の低下が通知されたら、直ちに次のいずれかの処置を行ってください。

● **ACアダプタを接続する**

電源を入れたままACアダプタを接続します。バッテリ充電LED( )が点灯します。

● **電源を切る**

作業中のデータを保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。

交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

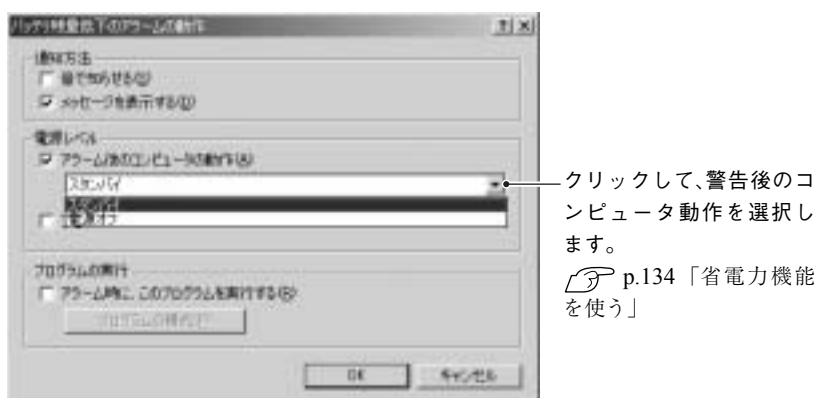
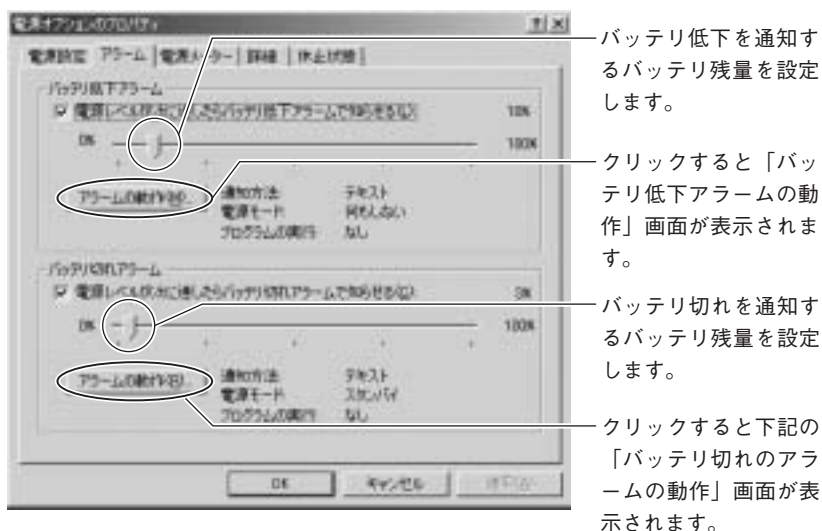
ACアダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリアラームの設定

バッテリ残量が低下したときの通知方法を次のプロパティ画面から変更できます。

Windows 2000： ［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「アラーム」タブ

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「アラーム」タブ

クリックして、警告後のコンピュータ動作を選択します。

p.134「省電力機能を使う」

〈Windows 2000の画面〉

バッテリの充電

ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に充電が行われます。

バッテリ充電LED（▭）の表示は、次のとおりです。

充電状態	LEDの表示
充電中	橙点灯
満充電	緑点灯
充電不可	橙点滅

LEDが橙色に点滅しているときは、バッテリが正しく装着されていない可能性があります。本機の電源を切り、いったんACアダプタとバッテリを取り外し、バッテリを装着し直してから、再度ACアダプタを接続してみてください。

ACアダプタが接続されていてもLEDが消灯しているときは、バッテリの温度が高くなっています。この場合は、温度が下がると充電が再開されます。

低バッテリ状態からバッテリの満充電までの時間は、次のとおりです。

コンピュータの動作状態	充電時間	
	1800mAhバッテリ	3600mAhバッテリ
電源切断時	約2.5時間	約3時間
電源が入っている状態	約3時間*	約4時間*

*コンピュータの使用状況により差があります。

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。
温度が10～30℃の環境で充電すると、最も効率のよい充電ができます。

充電後の処理

バッテリが満充電状態になったあと、本機を使用しない場合は安全のためにACアダプタを外しておきます。

バッテリ残量が正しく表示されないときは

バッテリの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。

満充電にしてもバッテリ容量がすぐに低下するような場合は、バッテリのリフレッシュを行ってみてください。

バッテリのリフレッシュ

バッテリのリフレッシュは、次の手順で行います。

1 **コンピュータの電源を入れて、F2を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**

p.183「BIOS Setupユーティリティの起動」

バッテリが完全放電すると、コンピュータがシャットダウンします。バッテリのリフレッシュは、「BIOS Setupユーティリティ」画面を表示した状態で行います。

2 **ACアダプタが接続されている場合は、ACアダプタを外します。**

3 **Fn+F7(▲☼)キーを数回押して、画面の明るさを最大にします。バッテリの残量が完全になくなって電源が切れるまで放置します。**

満充電からバッテリの残量が完全になくなるまでの時間は、通常は次のとおりです。

1800mAhバッテリパック　:約1.7時間
3600mAhバッテリパック　:約3.4時間

4 **ACアダプタを接続して、満充電になるまで充電します。**

所要時間は次のとおりです。満充電になると、バッテリ充電LEDが緑色に点灯します。

1800mAhバッテリパック　:約2.5時間
3600mAhバッテリパック　:約3時間

5 **コンピュータの電源を入れて手順1～4を繰り返し、バッテリパックを放電し、満充電します。**

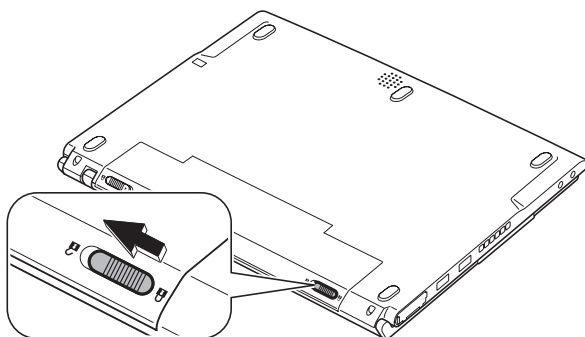
バッテリの寿命

バッテリは、消耗品です。バッテリのリフレッシュを行っても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。新しいバッテリに交換してください。

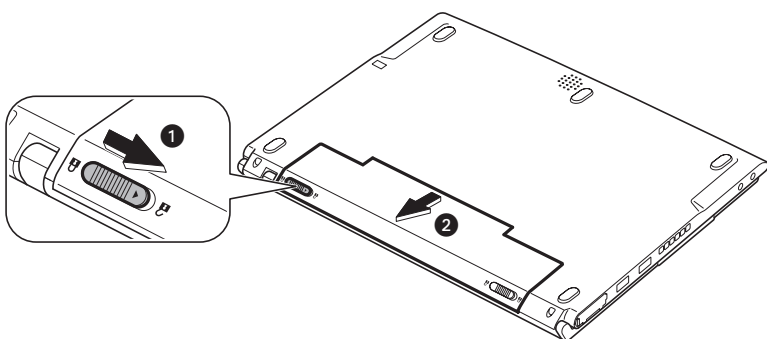
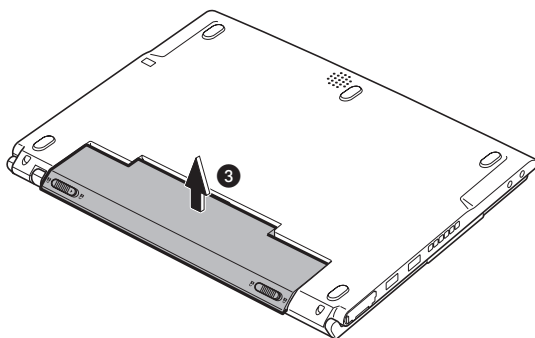
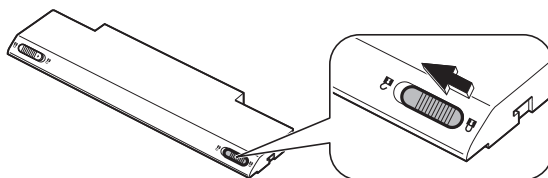
バッテリの交換

バッテリを複数使用して長時間使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。

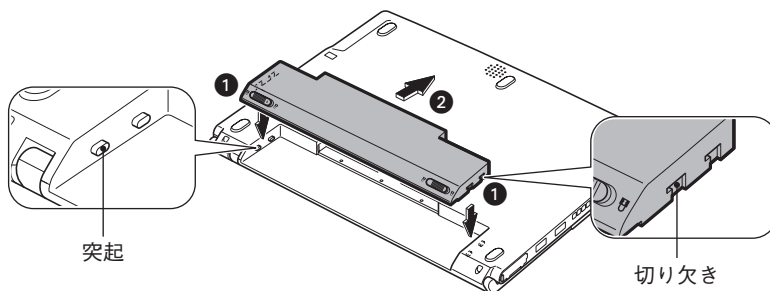
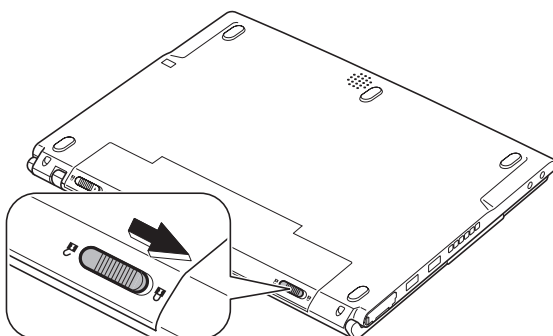
ここでは、1800mAhバッテリパックを交換する手順について説明します。3600mAhバッテリパックの場合、形状は異なりますが手順は同様です。

1. **本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**
2. **本機の底面部を上にして置きます。**
3. **バッテリの右側のレバーを、解除位置( )まで矢印の方向へスライドさせます。**

4 バッテリを取り外します。

❶ 左側のレバーを右へスライドさせます。

❷ レバーをスライドさせたまま、バッテリを手前に引きます。

❸ バッテリをまっすぐに持ち上げて取り外します。

5 新しいバッテリの右側のレバーを、解除位置( )まで矢印の方向へスライドさせます。

6 新しいバッテリを取り付けます。

❶ バッテリの切り欠きをコンピュータの突起に合わせて差し込みます。

❷「カチッ」と音がするまで、バッテリを矢印の方向に押し込みます。

7 バッテリの右側のレバーを矢印の方向へスライドさせて、ロック位置（🔒）で固定します。

バッテリ保管上の注意

●小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリの保管はバッテリの端子部が金属類に触れないように布などの絶縁物に包み、高温･多湿の場所をさけてください。保管したバッテリは、自然放電していることがあります。次回使用するときは、必ず充電してから使用してください。コンピュータを保管するときは、必ずコンピュータ本体からバッテリを取り外してください。取り付けたままで長期間放置すると、バッテリが液もれしたり、バッテリと本体の接点が腐食することがあります。

使用済みバッテリの取り扱い

使用済みのリチウムイオン(Li-ion)バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、バッテリがショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

不要なバッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

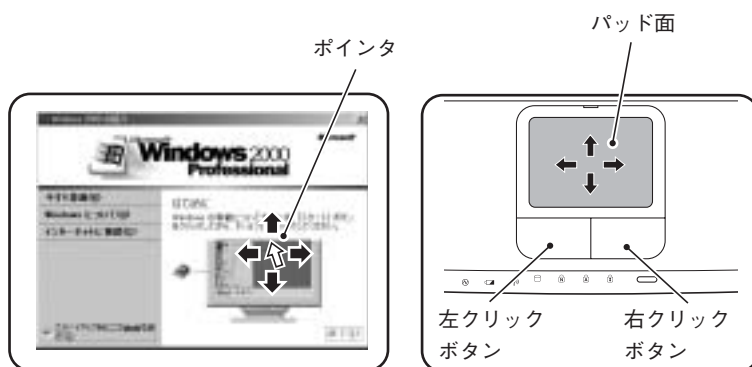
タッチパッドを使う

本機には、マウスと同じ働きをするタッチパッドが装備されています。

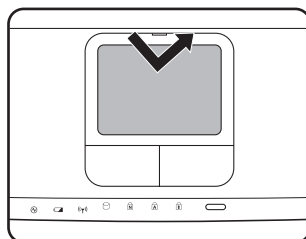
タッチパッドの操作

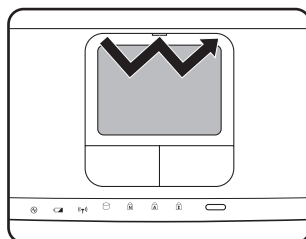
タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。
パッド面は、ポインタを移動させる働きのほかに、左クリックボタンの働きもします。ボタンを押す代わりにパッド面を軽くたたくことにより左ボタンに割り当てられた処理を行うことができます。

ポインタの移動

人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1本の指で操作してください。一度に2本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたままLCDユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することがあります。

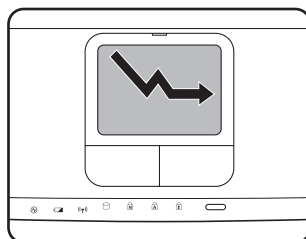
クリック

クリックは、機能や項目を選択するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

ダブルクリック

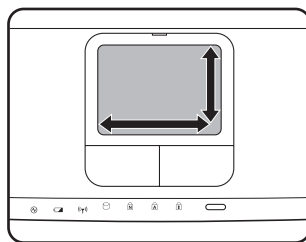
ダブルクリックは、プログラムを起動するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。

ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップは、アイコンを移動したり、ウィンドウの位置や大きさを変えるときなどによく使われる方法です。

ポインタを画面上の対象に合わせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。

左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。

スクロール

スクロールバーのある画面を操作しているとき、パッド面で指を動かして画面をスクロールすることができます。

上下のスクロールは、パッドの右端に指を触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部に指を触れて左右に動かします。

タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うとタッチパッドがより操作しやすくなります。

タッチパッドユーティリティの各種設定を行うには、タスクバーの次のアイコンをダブルクリックします。

〈Windows XPの場合〉

Windows 2000の場合

「マウスのプロパティ」画面の各タブで各種設定を行います。

〈Windows 2000の場合〉

各タブの設定方法については、タッチパッドユーティリティのオンラインヘルプをご覧ください。

Windows XPの場合

「マウスのプロパティ」画面の「デバイス設定」タブをクリックして[設定]ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。

〈Windows XPの場合〉

マウスを使う

（オプション）

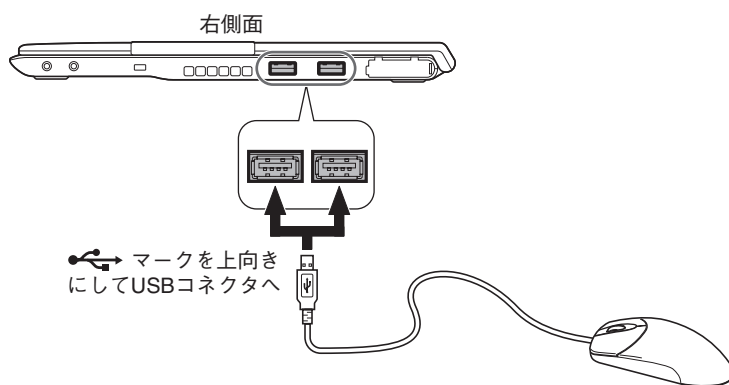
本章では、オプションのホイール付きUSBマウスについて説明します。
オプションのホイール付きUSBオプティカルミニマウスをお使いの場合は、ミニマウスに添付のマニュアルをご覧ください。

マウスを使用する前に、必ずp.18「製品保護上の注意」の「マウス」をお読みになり、取り扱い上の注意を確認してください。

マウスの接続

マウスの接続方法は次のとおりです。

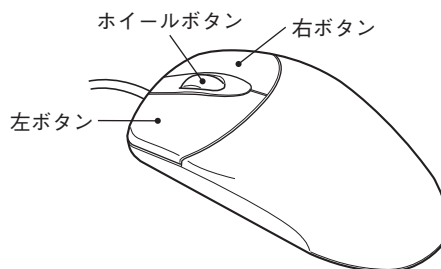
マウスのUSBコネクタの向きを合わせて、本機のUSB( )コネクタに差し込みます。

USB コネクタは右側面に2個あり、どちらにも接続できます。
接続は、本機の電源が入った状態で行えます。

マウス使用時のBIOS設定

マウスとタッチパッドは同時に使用できます。マウスのみを使用する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の「Advanced」メニュー画面－「Internal Pointing Device」でタッチパッド機能を「Disabled」（無効）に設定します。タッチパッドを再び使用する場合は、設定を「Enabled」（有効）に戻してください。

p.181「BIOSの設定」

マウスの操作

- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。
- マウスの操作では省電力モードから復起しません。

マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック：マウスカーソルを画面上の対象に合わせてボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック：マウスカーソルを画面上の対象に合わせてボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ：マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態でマウスを移動し、離します。
- スクロール：ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスウェアのインストール

ホイール付USBマウスにはマウスウェアが添付されています。
マウスウェアを使用すると、マウス操作のより細かい設定を行うことができます。マウスウェアは、購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

- タッチパッドとマウスを同時に使用する場合は、マウスウェアをインストールしないで、そのまま使用してください。
- マウスウェアをインストールすると、タッチパッドユーティリティの機能の一部が使用できなくなります。

- **オプションの薄型ドライブをお使いの場合**
  マウスウェアは、「マウスドライバCD」に登録されています。「マウスドライバCD」からインストールを行います。

- **オプションの薄型ドライブがない場合**
  本機とマウスを同時購入の場合、本機のD:￥MOUSEフォルダには、「マウスドライバCD」と同じ内容が登録されています。このフォルダからマウスウェアのインストールを行います。このフォルダを削除するとマウスウェアのインストールができなくなるので、絶対に削除しないでください。

マウスウェアのインストールは、あらかじめタッチパッドドライバを削除してから行います。

タッチパッドドライバの削除

タッチパッドドライバを削除する手順は、次のとおりです。

1 [スタート]－「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」をクリックします。

Windows 2000の場合は、[スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

2 「Synaptics TouchPad」を選択して、[変更と削除]をクリックします。

Windows 2000の場合は、[変更／削除]をクリックします。

3 以降は画面の指示に従って、タッチパッドドライバを削除したあと、コンピュータを再起動します。

コンピュータが再起動すると、タッチパッドドライバの削除は終了です。

マウスウェアのインストール

マウスウェアをインストールする手順は、次のとおりです。

1 「マウスドライバCD」を薄型ドライブにセットします。
正しくセットされると自動的に「設定言語の選択」画面が表示されます。
[OK]をクリックします。

自動的に「設定言語の選択」画面が表示されない場合は、[スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「E:¥SETUP」(薄型ドライブがEドライブの場合)と入力して[OK]をクリックします。

<u>薄型ドライブがない場合</u>

オプションの薄型ドライブがない場合は、[スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に「D:¥MOUSE¥SETUP」と入力して[OK]をクリックします。

2 「インストール先の選択」と表示されたら、[次へ]をクリックします。

3 「プログラムフォルダの選択」と表示されたら、[次へ]をクリックします。

4 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で[完了]をクリックします。

5 Windows が再起動するとマウスが検出されて、次のメッセージが表示されます。[はい]をクリックしてマウスの設定を行います。

「新しいホイールマウスがUSBポート上で検出されました。…」

これでマウスウェアのインストールは終了です。

再びタッチパッドを使用する場合は

マウスウェアをインストール後、タッチパッドを再び使用する場合は、マウスウェアを削除してから、タッチパッドドライバを再インストールしてください。

マウスウェアの削除

マウスウェアを削除する手順は、次のとおりです。

1 [スタート]−「コントロールパネル」−「プログラムの追加と削除」をクリックします。

Windows 2000の場合は、[スタート]−「設定」−「コントロールパネル」−「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

2 「Mouse Ware…」を選択して、[変更と削除]をクリックします。

Windows 2000の場合は、[変更/削除]をクリックします。

3 画面の指示に従って、マウスドライバを削除したあと、コンピュータを再起動します。

コンピュータが再起動すると、マウスドライバの削除は終了です。

タッチパッドドライバのインストール

タッチパッドドライバをインストールする手順は、次のとおりです。

1. [スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

2. 名前に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
   Windows 2000 ： C:¥DRIVERS¥W2K¥TOUCHPAD¥SETUP
   Windows XP ： C:¥DRIVERS¥WXP¥TOUCHPAD¥SETUP

3. 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

4. 「重要」画面の内容を確認し、[次へ]をクリックします。

5. 「ファイルコピーの開始」画面の内容を確認し、[次へ]をクリックします。

6. ドライバのインストールが開始し、しばらくすると「セットアップ完了」画面が表示されます。

7. 画面の指示に従って、Windowsを再起動します。

8. Windowsが再起動したら、[スタート]－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

9. 名前に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
   Windows 2000 ： C:¥DRIVERS¥W2K¥TOUCHPAD¥ALWHEEL.REG
   Windows XP ： C:¥DRIVERS¥WXP¥TOUCHPAD¥ALWHEEL.REG

10. 「･･･をレジストリへ追加しますか？」と表示されたら、[はい]をクリックします。

11. 「･･･の情報が正しくレジストリに入力されました」と表示されたら、[OK]をクリックします。

12. [スタート]メニューからWindowsを再起動します。
    Windowsが再起動すると、タッチパッドドライバのインストールは完了です。

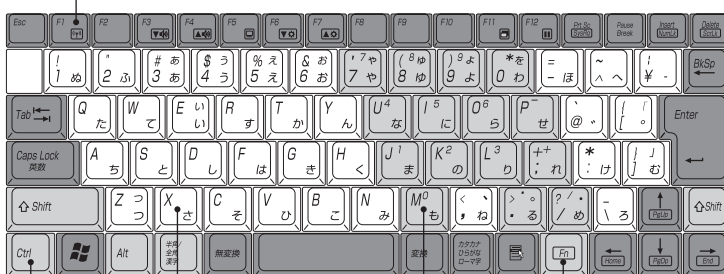
キーボードを使う

本機のキーボードは、日本語対応85キーボードです。

キーの種類と役割

入力キー

85個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

機能キー
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。具体的な働きなどについては使用するソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

制御キー
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

数値キー
文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字・演算子などを入力します。Fn+Num Lkキーを押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

Fnキー

文字キー
英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

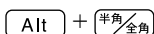
文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ(キーの上面)に印字された文字が入力されます。入力モードによって入力される文字が異なります。

- **直接入力モード**：キートップのアルファベットをそのまま入力します。
- **日本語入力モード**
  - **ローマ字入力**：キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
  - **かな入力**：キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え

直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。

【Alt】+【半角/全角】

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

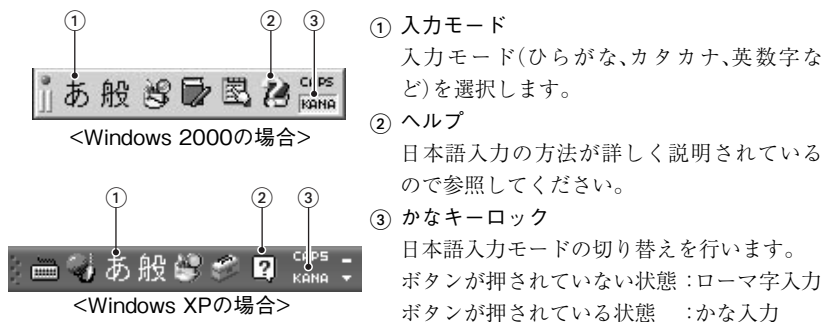
MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったりヘルプを参照します。

<Windows 2000の場合>

<Windows XPの場合>

① **入力モード**
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。

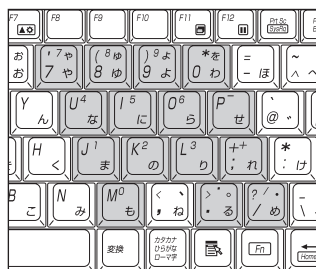
② **ヘルプ**
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。

③ **かなキーロック**
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態：ローマ字入力
ボタンが押されている状態　：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

数値やアルファベットの入力

数値キー入力モード

【Fn】＋【Num Lk】を押すと、Num Lock LED Ⓝが点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。

数値キーモード

アルファベット入力モード

【Shift】＋【Caps Lock】を押すと、Caps Lock LED Ⓐが点灯して、アルファベットが大文字で入力できます。小文字で入力するには【Shift】を押しながら入力します。

Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに枠囲みで印字されている機能キーは Fn キーと組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
Fn + F1	ワイヤレスLANのアンテナの有効/無効を切り替えます。 p.148「ワイヤレスLAN(無線LAN)を使う」
Fn + F3	スピーカ音声のボリュームを小さくします。 p.49「音量の調節」
Fn + F4	スピーカ音声のボリュームを大きくします。 p.49「音量の調節」
Fn + F5	外付けディスプレイ(CRT)を接続しているときに表示装置を切り替えます。キーを押すたびにLCD、CRT、LCD+CRTに表示が切り替わります。 p.106「表示装置の切り替え方法」
Fn + F6	LCD画面を暗くします。 p.103「明るさの調整」
Fn + F7	LCD画面を明るくします。 p.103「明るさの調整」
Fn + F11	LCD画面のON/OFFを切り替えます。 p.104「LCD画面表示のOFF」
Fn + F12	省電力モードに移行します。購入時の状態では、スタンバイモードに移行します。p.137「実行方法」
Fn + Num Lk	数値キー入力モードに切り替えます。 p.83「数値キー入力モード」
Fn + ScrLk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
Fn + End	行の最後に移動します。

そのほかのキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー名	機　能
(Windowsキー)	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
(アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

USB FDDを使う
（オプション）

本機にはオプションのUSB FDDを接続して使用することができます。
FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機のFDDでは、次のFDが使用できます。

- 3.5型2HD　：1. 44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD　：720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

USB FDDは、必要なときだけ接続して使うことができます。また、BIOSの設定を変更すると、FDから起動することもできます。

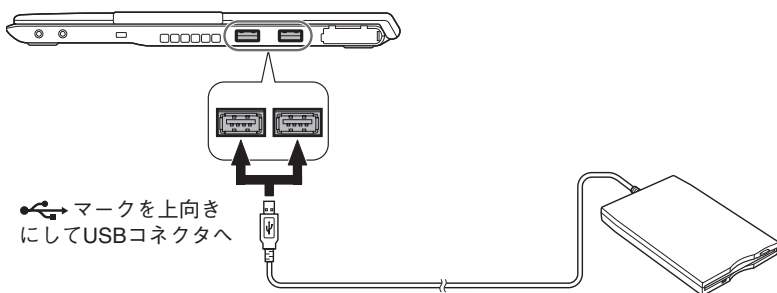
p.194「Bootメニュー画面」

USB FDDを使う前に、必ずp.18「製品保護上の注意」の「USB FDD」をお読みになり、取り扱い上の注意を確認してください。

FDDの接続

接続

1 **FDDのUSBコネクタの向きを合わせて、本機右側面のUSB( )コネクタに差し込みます。**

USBコネクタは2個あり、どちらにも接続できます。
接続は、本機の電源が入った状態でも行うことができます。

FDDは表面を上にして水平に置いてください。

2 認識されると、タスクバーに次のアイコンが表示されます。

〈Windows 2000〉

〈Windows XP〉

取り外し

USB FDD の取り外しは、次の方法で行います。

Windows 2000の場合

1 タスクバーに表示されている次のアイコンをダブルクリックします。

2 USB FDDを選択して、[停止]をクリックします。

3 「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

4 「・・・は安全に取り外すことができます。」と表示されたら、[OK]をクリックして、FDDのUSBコネクタを抜きます。

Windows XPの場合

1 タスクバーに表示されている次のアイコンをクリックします。

2 「USB Floppy - ドライブを安全に取り外します」を選択しクリックします。

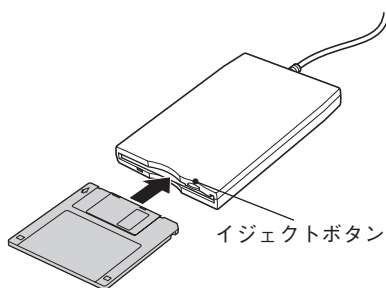
3 「ハードウェアの取り外し」画面が表示されたら、FDDのUSBコネクタを抜きます。

FDのセットと取り出し

- アクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。
- コンピュータの電源を切る場合やコンピュータをリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

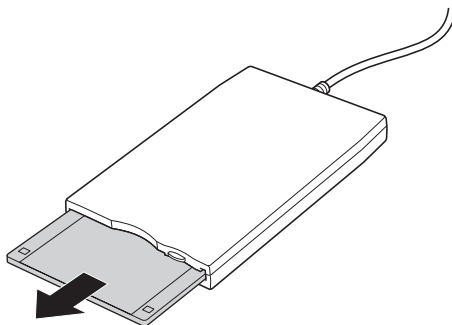
セット方法

1 ラベル面を上に向け、FDD に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

2 正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。

取り出し方法

1 FDD アクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

FDDアクセスランプ

2 FD が飛び出しますので、静かに引き抜きます。

FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や、登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。

- FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
- Windows XPでは720KBのFDをフォーマットできません。

フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。

Windows 2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したまま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、FDを入れ替えて下記手順3〜6を繰り返してください。

1. FDDにFDをセットします。
2. 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。(Windows XPでは、[スタート]−「マイコンピュータ」をクリックします。)
3. 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
4. フォーマットの種類などを設定して[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は[OK]をクリックします。

5 **「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。**

続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順4～5をくり返します。

6 **[閉じる]をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。**

データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

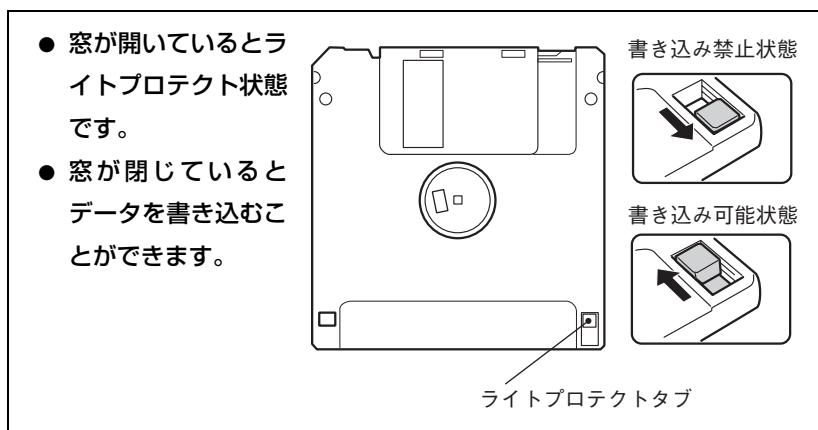
ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくと安心です。

- **窓が開いているとライトプロテクト状態です。**
- **窓が閉じているとデータを書き込むことができます。**

書き込み禁止状態

書き込み可能状態

ライトプロテクトタブ

HDD(ハードディスクドライブ)を使う

HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。

- 誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。
  - ・HDDを分解しないでください。
  - ・HDD アクセスランプ点灯中に、電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊されるおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、ショックから守るようにしてください。

データのバックアップ

HDD内に重要なデータを作成したら、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

購入時のHDD領域について

本機は、HDDを1基搭載しています。購入時のHDDの領域は、次のように設定されています。

Cドライブ	10GB	NTFS（Windowsがインストールされています）
Dドライブ	残りの領域	NTFS
リカバリイメージ	約2GB*	Windowsを再インストールするためのリカバリイメージが登録されています。Windows上では、この領域は表示されません。

*リカバリイメージの容量は、システム構成により異なります。

Windowsの再インストールを実行すると、Cドライブは購入時の状態に戻ります。アプリケーションで作成したデータや消去したくないデータなどはDドライブに登録することをおすすめします。

- Cドライブの領域を変更することはできません。
- リカバリイメージが登録されている領域は、Windows 上から削除することはできません。ただし、次のような場合には、HDDからのリカバリを実行できなくなることがありますのでご注意ください。
  - ・別のOSをインストールした場合
  - ・HDDのブート領域の情報を変更できるような市販のアプリケーションを使用して、ブート領域を書き換えた場合
  - ・MS-DOSの「FDISK□/MBR」（□はスペース）コマンドを実行した場合

薄型ドライブを使う（オプション）

オプションのUSB接続のCD-R/RWドライブやコンボドライブを使用すると、CD-ROM、CD-RやDVD-ROMなどのメディアを使用できます。ドライブの接続方法や使用方法などは、ドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

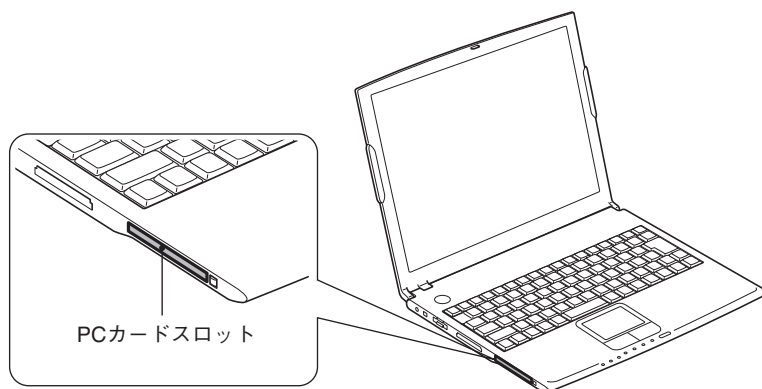
リカバリCD作成について

本機では、オプションの薄型ドライブを使用して、HDDのリカバリイメージをCD-Rにコピーして、リカバリCDを一度だけ作成することができます。リカバリCDはWindowsを再インストールするために使用します。
本機では、通常HDDのリカバリイメージを使用して約15分でWindowsの再インストールを行うことができます。リカバリCDを使用してリカバリを実行すると約1時間かかるため、リカバリCDは必要に応じて作成してください。

p.208「リカバリCDの作成」

なお、リカバリCDを作成する前に、HDDのリカバリイメージからリカバリを実行すると、リカバリCDを作成することができなくなりますので、ご注意ください。

PCカードを使う

本機の左側面には、CardBus対応のPCカードスロットが装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したTypeIIのPCカードを装着することができます。

- PC カードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PC カードに添付のマニュアルをご覧ください。
- FAXモデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に、電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力機能を無効にしてください。

  p.134「省電力機能を使う」
- PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴りません。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。

PCカードのセットと取り外し

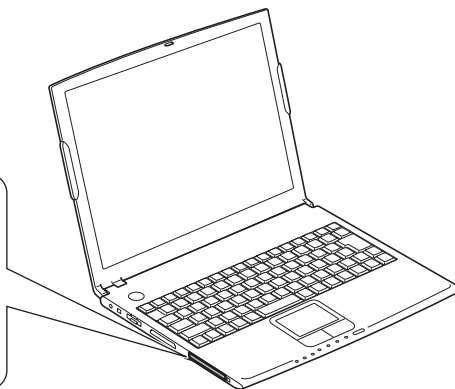
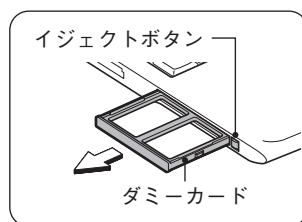
制限

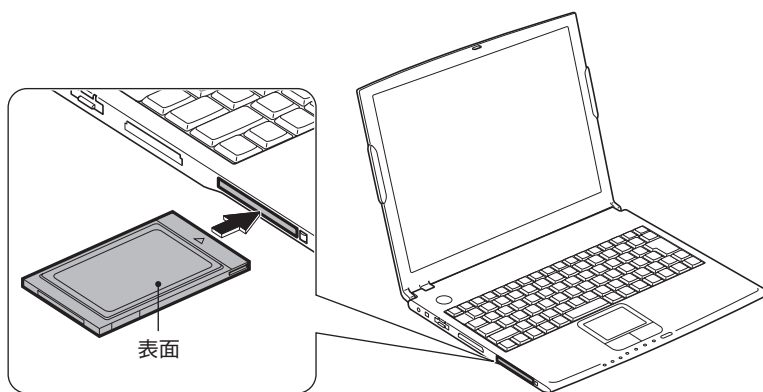
- PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- PCカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力モード時はPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

PCカードのセット

PCカードは、次の手順でセットします。

1 **スロットにダミーカードがセットされている場合は、p.97「PCカードの取り外し」を参照してダミーカードを取り外します。**

ダミーカードはPCカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2 PCカードをPCカードスロットに挿入します。

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。

3 コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4 認識されるとPCカードが使用できます。

正しくPCカードがセットされると認識音が鳴り、タスクバーに「PCカード」アイコンが表示されます。

<Windows 2000>

<Windows XP>

PCカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中に「Windows CD-ROM」を要求された場合は、p.50「デバイスドライバをインストールするときは」を参照して、フォルダを指定してください。

PCカードの内容の確認

タスクバーにある「PCカード」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの(安全な)取り外し」画面で[プロパティ]をクリックすると、PCカードの内容を確認することができます。

PCカードの取り外し

PCカードは、次の手順で取り外します。

本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。火傷に注意して取り外してください。

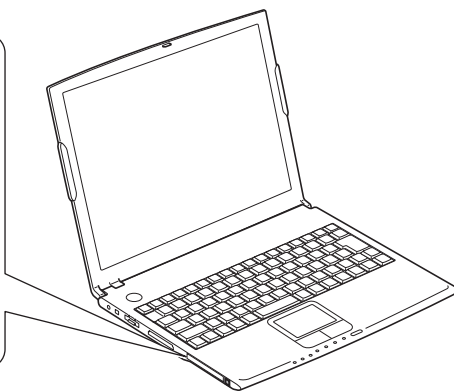
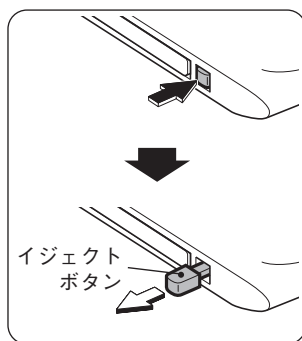
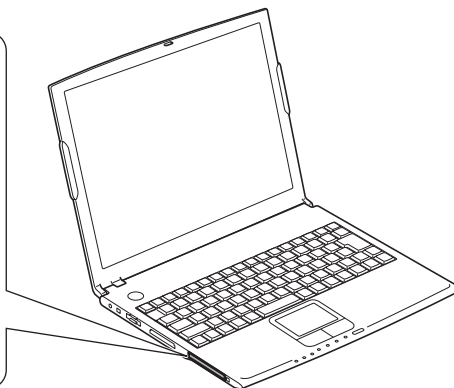
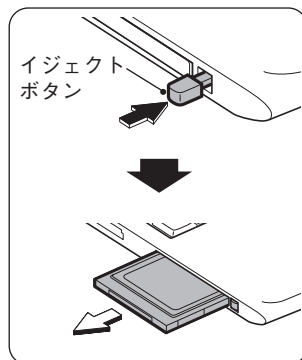
1 **「PCカードの終了処理」を行うか、またはコンピュータの電源を切ります。**

● PCカード終了処理

❶ タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。

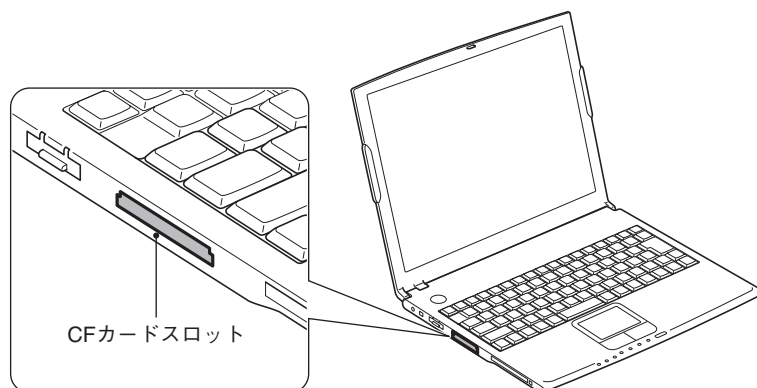
❷ 取り外すPCカードを選択して[停止]をクリックします。

❸ 画面の指示にしたがいます。「安全に取り外すことができます。」と表示されたら、PCカードの終了処理は完了です。

2 **イジェクトボタンを押すと、イジェクトボタンが出ます。**

3 **再びイジェクトボタンを押します。**

4 **PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。**

取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。PCカードをセットしない場合はダミーカードをセットしておきます。

コンパクトフラッシュカードを使う

本機の左側面にはコンパクトフラッシュカードスロットが装備されています。本機では、CompactFlash Standardに準拠したType IおよびType IIのコンパクトフラッシュカード(以降CFカード)を装着することができます。
CFカードは、コンピュータの電源が入っている状態で抜き差しすることができます。

CFカードのセットと取り外し

CFカードのセット

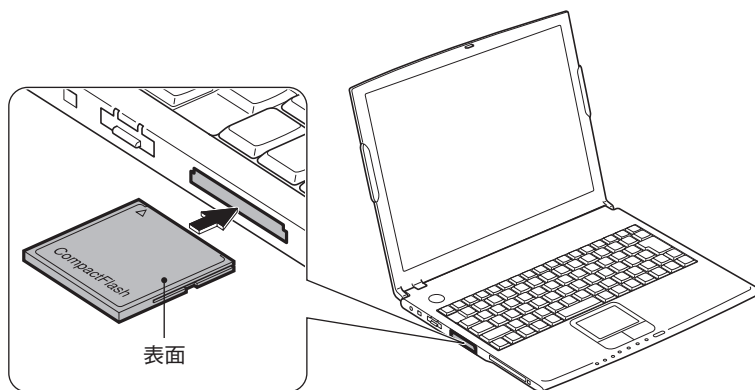
- CFカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。CFカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- CFカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力モード時はCFカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

CFカードは、次の手順でセットします。

1 **CFカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、p.101「CFカードの取り外し」を参照してダミーカードを取り外します。**

ダミーカードはCFカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2 CFカードをCFカードスロットに挿入します。

CFカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。

3 コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4 認識されるとCFカードが使用できます。

正しくCFカードがセットされると認識音が鳴り、タスクバーに「PCカード」アイコンが表示されます。

CFカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中に「Windows CD-ROM」を要求された場合は、p.50「デバイスドライバをインストールするときは」を参照して、フォルダを指定してください。

CFカードの取り外し

CFカードは、次の手順で取り外します。

本機にセットされていたCFカードは、高温になっている可能性があります。火傷に注意して取り外してください。

1 **「CF カードの終了処理」を行うか、またはコンピュータの電源を切ります。**

● CFカード終了処理

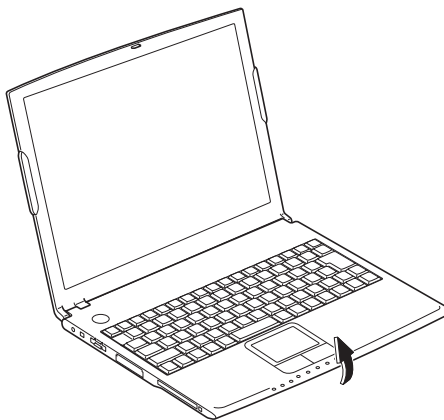
❶ タスクバーのPCカードアイコンをクリックします。

❷ 取り外すCFカードを選択して[停止]をクリックします。

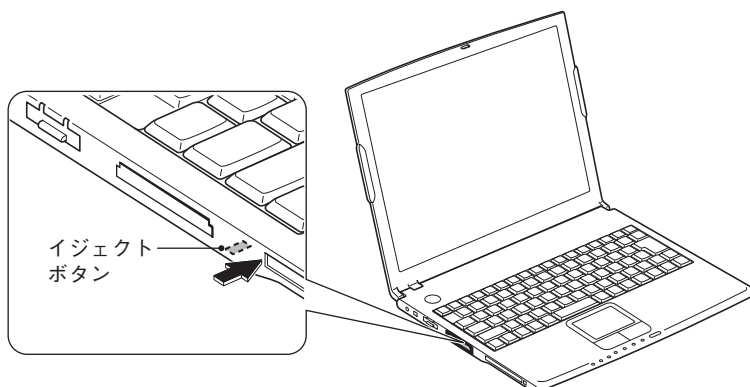
❸ 画面の指示に従います。「安全に取り外すことができます。」と表示されたら、CFカードの終了処理は完了です。

2 **パソコンの前面を少し持ち上げます。**

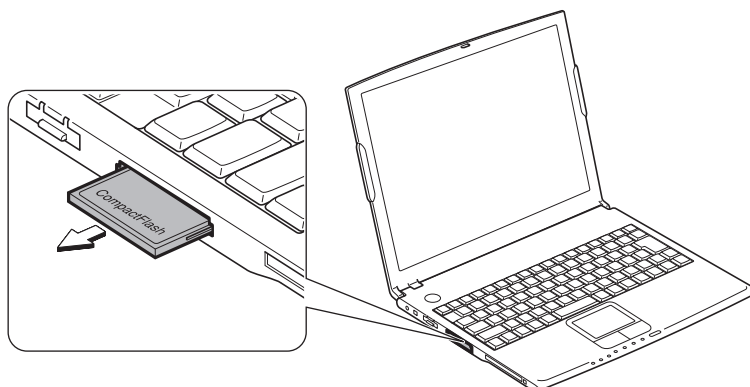
CFカードのイジェクトボタンは本機の底面にあります。

コンピュータの基本操作

3 CFカードを取り出します。

❶ 本機底面のイジェクトボタンを奥側へスライドさせます。

CFカードが少し出てきます。

❷ CFカードをまっすぐに引き抜きます。

取り外したCFカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

CFカードを取り外したあとは、ダミーカードをセットしておきます。

表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。
本機で表示可能な表示装置は次のとおりです。

- LCDユニット（本体）
- 外付けディスプレイ（アナログタイプのみ）

LCDユニット

本機は、12.1型TFT XGA LCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるもので故障ではありません。

- 液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windows の背景の模様や色、壁紙などによってちらついてみえることがあります。この現象は市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景が中間色の場合に発生しやすくなります。

明るさの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状態
Fn + F7 ▲☼	明るくなる
Fn + F6 ▼☼	暗くなる

LCD画面表示のOFF

本機を使用していない間、バックライトを消灯したりLCD画面の電源を切ることで消費電力を抑えることができます。手順は次のとおりです。

● Fn ＋ F11 を押す ：LCD画面の電源を切ります。もう一度押すと、LCD画面の電源が入ります。

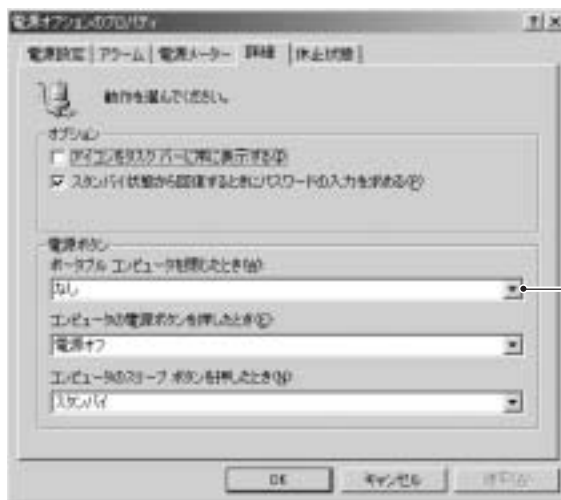
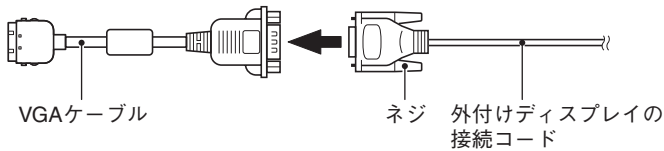
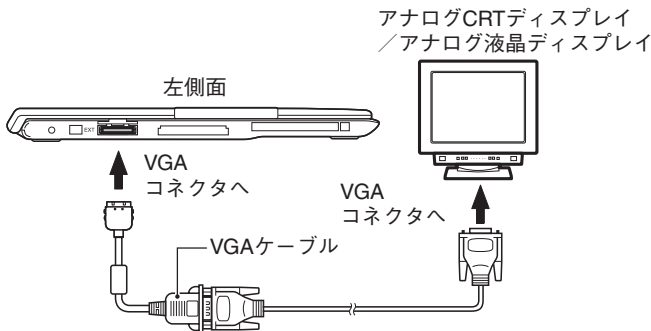
● LCDユニットを閉じる ：バックライトを消灯します。再びLCDユニットを開くとバックライトが点灯します。本機ではLCDユニットを閉じたときの動作を設定できます。

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じたときに、バックライトを消す、スタンバイモードや休止状態に移るなどの動作を設定できます。初期値は「バックライトを消す」です。

設定は次のプロパティ画面から行います。

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「詳細」タブ

Windows XP ：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「詳細設定」タブ

〈Windows 2000の場合〉

外付けディスプレイ

ディスプレイの接続

本機では、添付のVGAケーブルを使用して、外付けディスプレイ(アナログタイプのみ)を接続して使用できます。ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

1 **本機と外付けディスプレイの電源を切ります。**

2 **外付けディスプレイの接続コードをVGAケーブルに接続します。**

3 **本機左側面のVGAコネクタのカバーを開けます。**

使い終わったあとは必ずカバーを元どおり閉じておいてください。

4 **VGAケーブルを本機のVGAコネクタ(EXT)に接続します。**

5 **本機と外付けディスプレイの電源を入れます。**

ビデオプロジェクタへの接続

本機にビデオプロジェクタを接続して表示することができます。接続方法や表示装置の切り替え手順は、外付けディスプレイの場合と同様です。プロジェクタに添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

外付けディスプレイに表示するには

本機に外付けディスプレイを接続したときは、次のような組み合わせで画面を表示することができます。

- LCD画面のみ
- 外付けディスプレイのみ
- LCD画面と外付けディスプレイ
  両方に同じ画面を表示したり、マルチモニタ機能を使用して、大きな1つの画面をLCD画面と外付けディスプレイで分割して仮想的に並べて表示することができます。
  p.108「マルチモニタ機能」

表示装置の切り替え方法

表示装置の切り替えは、次の方法で行います。

- キーボードで操作する
  Fn ＋ F5 （ ）を押すたびに表示装置が切り替わります。表示は次の組み合わせで行うことができますが、接続している表示装置を自動的に認識するため、接続していない表示装置には切り替わりません。
  表示装置の組み合わせ
  - LCD画面のみに表示
  - 外付けディスプレイのみに表示
  - LCD画面と外付けディスプレイに表示（同じ内容を表示）

- マルチモニタ機能への切り替えはキーボードで操作できません。
  p.108「マルチモニタ機能」
- 動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードの操作で表示装置の切り替えができないことがあります。

● 画面で操作する

表示装置を切り替えるには、タスクバーにある次の「Intel(R) Graphics Technology」アイコンをクリックし、表示されるメニューの「グラフィックオプション」-「出力先」から選択します。

<Intel(R) Graphics Technologyアイコン>

表示装置	出力先
LCD画面のみ	「ノートブック」
外付けディスプレイのみ	「PCモニタ」
LCD画面＋外付けディスプレイ（同じ内容を表示）	「Intel Dual Display Clone」-「PCモニタ＋ノートブック」
LCD画面＋外付けディスプレイ（マルチモニタ機能）	「拡張デスクトップ」をクリック p.108「マルチモニタ機能」

マルチモニタ機能

マルチモニタ機能を使用すると、本機のLCD画面と外付けディスプレイを仮想的に上下左右に並べて表示できます。このため、2つのアプリケーションを別々の画面で表示することができます。

マルチモニタ機能の設定は、次の手順で行います。

1 **タスクバーの アイコンをクリックします。**

2 **「グラフィックオプション」−「グラフィックのプロパティ」をクリックします。**

「Intel(R) Extreme Graphics Controllerのプロパティ」画面が表示されます。

3 **「拡張デスクトップ」をクリックし、「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」を設定します。**

「ノートブック」はLCD画面、「PCモニタ」は外付けディスプレイに表示します。

「プライマリデバイス」には、[スタート]やタスクバーが表示されます。

4 **[OK]をクリックします。**

確認画面がプライマリデバイス側のディスプレイに表示されます。

5 **確認画面で[OK]をクリックします。**

解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度や表示色数の変更や、そのほか表示に関する設定について説明します。変更時には、Windowsのヘルプも参照してください。

セーフモードでの起動

本機のディスプレイ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.221「LCDの不具合」

解像度や表示色の変更方法

Windows 2000の場合

1 ［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「画面」アイコンをダブルクリックします。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「画面の領域」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。

4 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

Windows XPの場合

1 [スタート]－「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。

2 「画面の解像度」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。

3 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。
LCDと外付けディスプレイと同時表示にした場合は、同じ設定でしか表示できません。
マルチモニタ機能を使用する場合は、LCDと外付けディスプレイで別の解像度で表示できます。

p.106「外付けディスプレイに表示するには」

制限

- 下記以外の設定を選択することもできますが、それらの設定に関しては動作保証していません。
- 接続する外付けディスプレイの仕様により、下記の解像度や表示色を設定できない場合があります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

Windows 2000の場合

LCDまたは外付けディスプレイのみに表示/マルチモニタ機能使用時

表示装置	表示色 / 解像度	256色	HighColor（16ビット）	TrueColor（32ビット）
LCD / 外付けディスプレイ	640×480ドット	○	○	○
LCD / 外付けディスプレイ	800×600ドット	○	○	○
LCD / 外付けディスプレイ	1024×768ドット	○	○	○
外付けディスプレイ	1280×1024ドット	○	○	○
外付けディスプレイ	1600×1200ドット	○*	○*	○*

*マルチモニタ機能使用時は、外付けディスプレイをプライマリデバイスとして設定している場合のみ表示可能

LCDと外付けディスプレイに同時表示

表示装置	表示色 / 解像度	256色	HighColor（16ビット）	TrueColor（32ビット）
LCD/外付けディスプレイ	640×480ドット	○	○	○
	800×600ドット	○	○	○
	1024×768ドット	○	○	○

Windows XPの場合

LCDまたは外付けディスプレイのみに表示/マルチモニタ機能使用時

<table>
<tr><th colspan="2">表示装置</th><th>表示色
解像度</th><th>中
（16ビット）</th><th>最高
（32ビット）</th></tr>
<tr><td rowspan="5">外付けディスプレイ</td><td rowspan="3">LCD</td><td>640×480ドット</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>800×600ドット</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>1024×768ドット</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td></td><td>1280×1024ドット</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td></td><td>1600×1200ドット</td><td>○*</td><td>○*</td></tr>
</table>

*マルチモニタ機能使用時は、外付けディスプレイをプライマリデバイスとして設定している場合のみ表示可能

LCDと外付けディスプレイに同時表示

<table>
<tr><th>表示装置</th><th>表示色
解像度</th><th>中
（16ビット）</th><th>最高
（32ビット）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">LCD/
外付けディスプレイ</td><td>640×480ドット</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>800×600ドット</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>1024×768ドット</td><td>○</td><td>○</td></tr>
</table>

サウンド機能を使う

本機には、サウンド機能が搭載されています。

● ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵スピーカ

本機の底面には、スピーカ(モノラル)が内蔵されています。この内蔵スピーカを使って、音源からの音声を出力することができます。

p.33「底面」

音量の調節

スピーカの音量の調節は次の方法で行います。

Fn + F3 (▼): 音量が小さくなります。
Fn + F4 (▲): 音量が大きくなります。

PCカードや、アプリケーションによっては前述の方法では音量調節ができないものがあります。詳しくはPCカードや、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

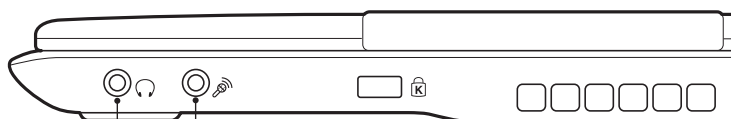
音を鳴らしたり、録音したりするには

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。
サウンドユーティリティは[スタート]-「(すべての)プログラム」-「アクセサリ」-「エンターテイメント」フォルダに登録されています。

外部オーディオ機器などの接続

本機の右側には、オーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

スピーカの接続

スピーカを接続すると内蔵スピーカの機能は自動的に無効になります。

マイク入力コネクタ
マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

ヘッドフォン出力コネクタ
スピーカやヘッドフォンなどを接続して内蔵スピーカから出力される音声を外部に出力するためのコネクタです。

FAXモデムを使う

本機には56Kbps(V.90対応)の通信速度に対応したFAXモデムが搭載されています。

- FAX モデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。
  - ・構内交換機(PBX)
  - ・2線式でない回線(ホームテレホンやビジネスホンなど)
  - ・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

お使いになる前に

使用回線について

本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

- ダイヤル回線(パルス): 回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- プッシュ回線(トーン): 押しボタン電話機のように、「ピ･ポ･パ･･」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

- **PBXやホームテレホン回線への接続**

  本機のFAXモデムは、構内交換機(PBX)やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線およびISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックに接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。

● **キャッチホンサービスについて**

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.90*通信方式により、最大受信速度(プロバイダなどの相手側から本機側への方向)は、56000bps、最大送信速度(本機からプロバイダなどの相手側への方向)は、33600bpsになります。

ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。

*V.90　：ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格

データ通信やFAX通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やFAX機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

ATコマンドについて

本機のモデム機能では、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、次のフォルダの「index.html」をご覧ください。

C:¥DRIVERS¥MODEM

修理交換

FAXモデムの修理交換の際は、修理センターまでお問い合わせください。

インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。FAXモデムを使用してインターネットに接続する場合の作業の流れは次のとおりです。

電話回線の接続

本機のFAXモデムコネクタと電話回線を接続します。

 p.38「電話回線への接続」

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。

 p.120「ダイヤル情報の設定」

プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するには、インターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。
契約方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。

❶オンラインで契約する。

電話回線を使用してプロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、画面の指示に従って情報を入力していくと、インターネット接続のための設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐにインターネットを使えますが、支払いについてはクレジットカード決済になります。

❷ハガキや電話で申し込み、契約する。

プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとにインターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

p.120「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

回線接続前の設定（Windows XPのみ）

Windows XPで使用する場合に必要な設定をします。

 p.125「回線接続前の設定（Windows XPのみ）」

接続

インターネットに接続します。ブラウジング（インターネット閲覧）や、メール交換が可能になります。

本書では、ブラウジングソフトとして「Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）」、メールソフトとして「Outlook Express（アウトルックエクスプレス）」を使用することを前提に記載しています。

 p.127「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」

モデムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデムを使わずに、次の方法でインターネットに接続することができます。

- ISDN回線を利用する
  FAXモデムの代わりにTA（ターミナルアダプタ）を使用します。接続方法はTAの取扱説明書をご覧ください。
- ネットワークを利用する
  インターネットに接続されたLANなどに接続します。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルやネットワーク管理者の指示に従ってください。
- ケーブルテレビの回線を利用する
  詳しくはCATV会社にお問い合わせください。
- ADSLを利用する
  詳しくはADSLサービス会社にお問い合わせください。

プロバイダの選択

プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びます。不明点はプロバイダにご確認ください。

インターネットにかかる費用

インターネットを利用する場合に発生する費用は以下のとおりです。

- 初期費用：プロバイダへ契約時に支払います。
  入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。
- 基本料金：月または年ごとにプロバイダへ支払います。
  通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。
- 追加課金：基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。基本料金で使用できる時間を超えると、分あたりいくらという追加料金が加算されます。
- 通話料金：プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。契約している電話会社へ支払います。
  アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合もあります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。

インターネットを使う上での注意

インターネットや電子メールを利用すると、簡単に情報が得られたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないこともあります。次の点に気をつけて使用してください。

- インターネット上の情報は、すべてが正しいとは限りません。正しい情報であることを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- メールは途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。
- メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。

● ウィルスに感染したメールを受信したり、気づかずに送信してしまうことがあります。

 p.140「コンピュータウィルスの検索･駆除」

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1 ダイヤル情報の設定画面を表示します。

Windows 2000 ：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」

Windows XP ：［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」

2 「登録名」、「国名/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います(ダイヤルアップ接続の設定)。本書の手順は設定方法の一例です。プロバイダから設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
接続ユーザー名	ユーザ名、コネクションID 、PPPログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID 、ID番号、接続アカウント、ダイアルアップログイン名
接続パスワード	PPPパスワード、パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mailアカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mailアカウント、アカウント名
メールパスワード	Mailパスワード、パスワード、初期パスワード
受信メールサーバ	メールサーバ、受信メールサーバ(POP3)
送信メールサーバ	メールサーバ、送信メールサーバ(SMTP)

ダイヤルアップ接続の設定をする(Windows 2000)

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1. [スタート]－「プログラム」－「アクセサリ」－「通信」－「インターネット接続ウィザード」をクリックします。

2. 「インターネット接続ウィザードの開始」が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、･･･」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。

3. 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。

4. 「ステップ1:インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、アクセスポイント電話番号を入力します。

5 **プロバイダからDNS(ネーム)サーバのアドレスを指定されている場合は[詳細設定]をクリックして次の設定を行います。**

❶「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。

❷「ISP による DNS(ドメインネームサービス)アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。

❸「プライマリDNSサーバー」、「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ネーム)サーバのアドレスを入力し、[OK]をクリックします。

6 **「ステップ1」画面で[次へ]をクリックします。**

7 **「ステップ2:インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、[次へ]をクリックします。**

8 **「ステップ3:コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、[次へ]をクリックします。**

9 **「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。**

10 **プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。**

❶「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、[次へ]をクリックします。

❷「電子メールアドレス」を入力して[次へ]をクリックします。

❸「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して[次へ]をクリックします。

❹「アカウント名」と「パスワード」を入力して[次へ]をクリックします。

11 **「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら[完了]をクリックします。**

「今すぐインターネットに…」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動して、「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。

p.127「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」に進みます。

ダイヤルアップ接続の設定をする(Windows XP)

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1. [スタート]－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「通信」－「新しい接続ウィザード」をクリックします。
2. 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
3. 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で[次へ]をクリックします。
4. 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
5. 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
6. 「接続名」と表示されたら、アクセスポイントの名前を入力して[次へ]をクリックします。
7. 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、アクセスポイントの電話番号を入力して[次へ]をクリックします。
8. 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して[次へ]をクリックします。
9. 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
10. [スタート]－「接続」－「(手順6で設定したアクセスポイントの名前)」をクリックします。
11. [プロパティ]をクリックします。

12 **プロバイダからDNS(ネーム)サーバのアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。**

❶「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル(TCP/IP)」の[プロパティ]をクリックします。

❷「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。

❸「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ネーム)サーバのアドレスを入力し、[OK]をクリックします。

13 **「全般」タブ-「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて[OK]をクリックします。**

14 **[キャンセル]をクリックします。**

p.125「回線接続前の設定(Windows XPのみ)」に進みます。

回線接続前の設定(Windows XPのみ)

Windows XPでは回線に接続する前に、次の設定を行います。

- 接続に関する設定
- Outlook Expressの初期設定

接続に関する設定

接続に関する設定は次のとおりです。

- 接続方法の設定
  Internet Explorerを起動した際に、電話回線を使用してインターネットに接続するように設定をします。
- 切断画面の設定
  Internet Explorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する設定は、次の手順で行います。

1. **[スタート]−「コントロールパネル」−「ネットワークとインターネット接続」−「インターネットオプション」−「接続」タブをクリックします。**
2. **「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。**
   (接続方法の設定)
3. **[設定]−[詳細設定]をクリックします。**
4. **「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて[OK]をクリックします。**(切断画面の設定)
5. **「(接続先の名前)の設定」画面で[OK]をクリックします。**
6. **「インターネットのプロパティ」画面で[OK]をクリックします。これで接続に関する設定は終了です。**

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressを初めて起動した際には、メールアドレスなどいくつかの情報を入力する必要があります。オンライン契約ではこの設定が必要ない場合があります。

初期設定は、次の手順で行います。

1. [スタート]－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」をクリックします。
2. 「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して[次へ]をクリックします。
3. 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して[次へ]をクリックします。
4. 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して[次へ]をクリックします。
5. 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して[次へ]をクリックします。
6. 「設定完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。

初期設定をあとから行う

「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。
「ツール」メニュー－「アカウント」－[追加]－「メール」

Internet Explorerと Outlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

● Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

● Outlook Express（アウトルックエクスプレス）
メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

起動方法

起動方法は、次のとおりです。

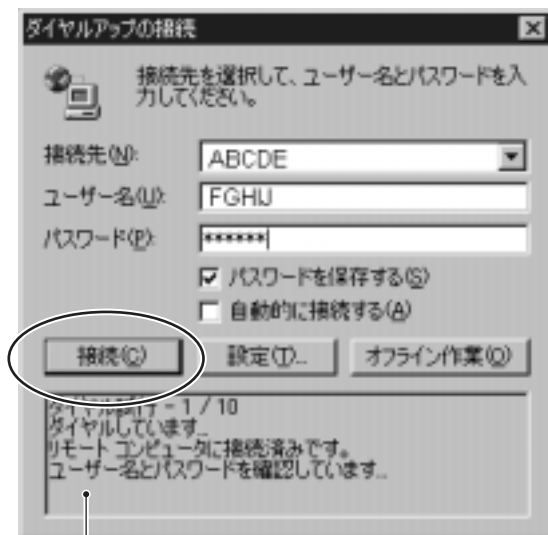
1 ソフトウェアを起動します。

● Internet Explorer
［スタート］－「（すべての）プログラム」－「Internet Explorer」

● Outlook Express
［スタート］－「（すべての）プログラム」－「Outlook Express」
Outlook Expressを起動したときに、「オンラインに切り替えますか？」と表示されることがあります。インターネットに接続する場合は、［はい］をクリックします。
Windows XPで初期設定を行っていない場合は、初期設定を行います。
p.126「Outlook Expressの初期設定」

2 「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。「接続先」「ユーザー名」「パスワード」を入力します。

自動的に入力されている項目もあります。

3 入力内容を確認して[接続]をクリックします。

［接続］をクリックすると接続状態が表示されます

4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。

● ダイヤルアップネットワークから接続する

インターネットへの接続は次の方法でも行えます。

Windows 2000：[スタート]－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」－「(接続先の名前)」をダブルクリック

Windows XP　：[スタート]－「接続」－「(接続先の名前)」をクリック

この場合は、接続完了後にソフトウェアを起動します。

● メールソフトウェア使用時のインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

終了方法

Internet Explorerの場合

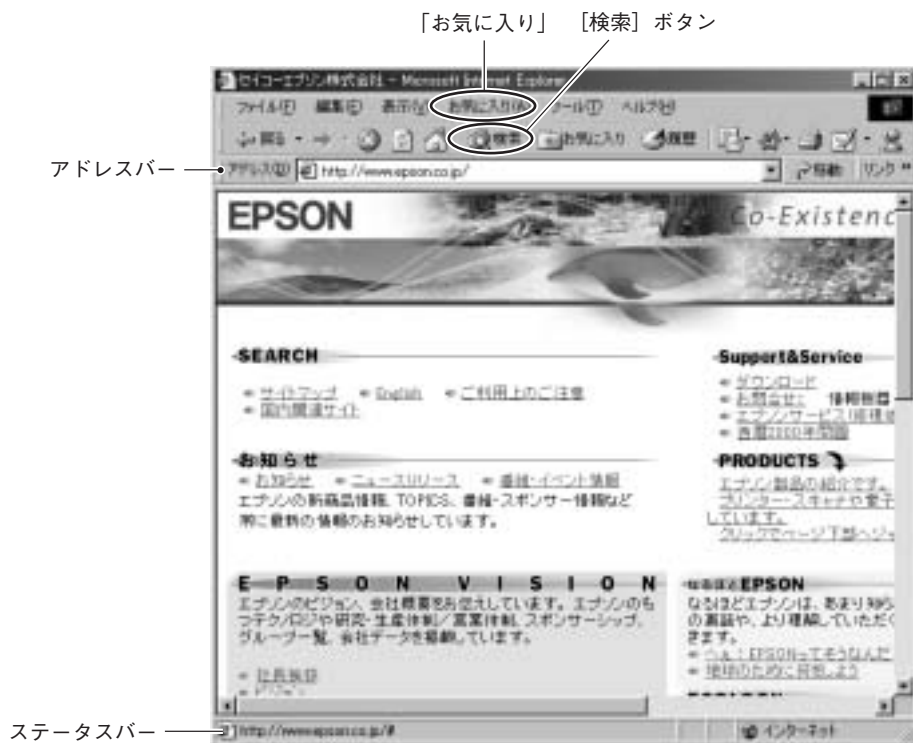
Internet Explorerの終了方法は、次のとおりです。

1. 画面右上の☒をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
2. 「自動切断」画面が表示されます。[今すぐ切断する]をクリックします。

Outlook Expressの場合

Outlook Expressの終了方法は、次のとおりです。

1. インターネットに接続している場合は、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。
2. 「オフライン状態にする前に、モデム回線を切断しますか」と表示されたら[はい]をクリックします。
3. 画面右上の☒をクリックして、「Outlook Express」を終了します。

Internet Explorerの使い方

※画面の内容は予告なく変更する場合があります。

● 見たいホームページを開くには

・アドレスバーにアドレス(URL)を入力して［↵］を押します。

・キーワードを使って検索します。[検索]ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

● 「お気に入り」にページを登録する

よく見るページは「お気に入り」に登録しておくと、すぐにアクセスできます。

・登録:「お気に入り」−「お気に入りの追加」をクリックして登録します。

・登録したお気に入りにアクセスする:「お気に入り」をクリックすると、一覧が表示されます。

● リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でマウスポインタが から に変わる場所があります。そこでクリックすると、リンク先のページ（ステータスバーに表示されているアドレス）にアクセスできます。

Outlook Expressの使い方

使い方

接続の状態を表示します。
オンライン：インターネットに接続しています。
オフライン：インターネットに接続していません。

メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときはインターネットに接続されている必要はありません。Outlook Express使用時にインターネットを切断するには、「ファイル」－「オフライン作業」をクリックします。

メールを送信する（オンラインの場合）

1. [新しいメール]（Windows XPでは[メールの作成]）をクリックしてメール作成画面を表示します。
2. 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
3. [送信]ボタンをクリックします。

メールを送信する（オフラインの場合）

1. 上記手順「メールを送信する（オンラインの場合）」1、2を参照して、メールを作成します。
2. [送信]をクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。
   複数のメールを作成し、一度に送信することができます。
3. [送受信]をクリックして、「…オンラインに切り換えますか？」と表示されたら[はい]をクリックします。
4. 「ダイヤルアップ接続」画面で[接続]をクリックします。
   接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。

インターネットに接続されていない場合は、[送受信]をクリックすると接続作業が行われます。

2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくと、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

1 [アドレス]をクリックします。

2 [新規作成]をクリックして、「新しい連絡先」をクリックします。

3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

省電力機能を使う

省電力機能を使うと消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけで使用する場合は、省電力機能を使うことで使用可能時間を延ばすことができます。
本章ではWindowsの省電力機能について説明しています。

省電力機能の種類

省電力機能には、次のモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- **HDD/ディスプレイの電源を切る**
  HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。
- **スタンバイ**
  作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます(使用環境により復帰時間は異なります)。
- **休止状態**
  作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

ローバッテリ省電力機能

本機はローバッテリ省電力機能により、バッテリ残量が低下したときに上記の省電力モードに移行します。

初期値は、次のとおり設定されています。

項目	Windows 2000	Windows XP
バッテリ残量低下を通知するバッテリ残量	10%	11%
バッテリ切れを通知するバッテリ残量	3%	5%
バッテリ切れのコンピュータの動作	スタンバイモードに移行する	

バッテリ残量低下時の通知方法や、通知する残量の設定を変更することができます。

p.63「バッテリアラームの設定」

電源LEDの表示

省電力モードの状態は、電源LEDの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源LEDの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

休止状態を有効にする

「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」にチェックを付けると休止状態が有効になります。

休止状態の設定は、次の画面で行います。

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電源オプション」－「休止状態」タブ

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「休止状態」タブ

〈Windows 2000の場合〉

省電力機能使用時の制限

省電力機能を使用する際には、次のような制限事項があります。省電力機能を使用する前に、必ず確認してください。

- 周辺機器を接続している場合やアプリケーションを起動している場合などに、省電力機能が動作しないことがあります。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。
- NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。

  ・再起動する。

  ・省電力モードを無効にする。
- 省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書やデータなど)は保存しておいてください。
- FAX モデム、ネットワーク機能などを使って通信を行っている場合は、省電力モードに移行しないでください。通信が切断されることがあります。
- サウンド機能を使って録音･再生している場合に、省電力モードに移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。
- 省電力モード時に PC カードや CF カードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)は保存しておいてください。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源が切れたり、省電力モードに移行したりします。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows 2000 : [スタート]―「設定」―「コントロールパネル」―「電源オプション」

Windows XP　 : [スタート]―「コントロールパネル」―「パフォーマンスとメンテナンス」―「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。

〈Windows 2000の場合〉

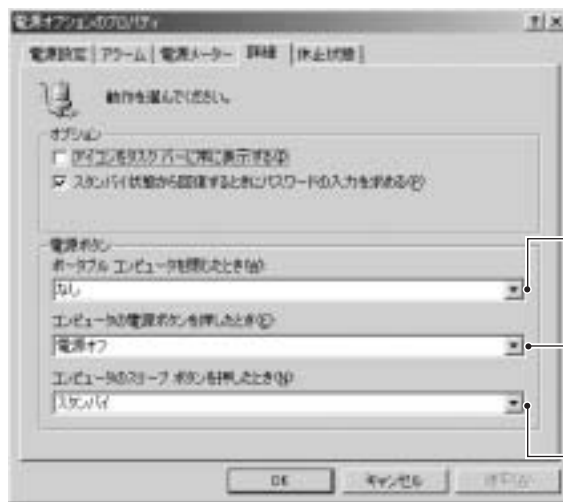
直ちに実行

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

- ［スタート］−「シャットダウン(終了オプション)」から選択、実行する。
- LCDユニットを閉じる。
- 電源スイッチを押す。
- Fn + F12 (Ⅱ)を押す。

「LCDユニットを閉じる」、「電源スイッチを押す」、「Fn + F12 を押す」方法で、どのモードに移行するかの設定は、詳細(設定)タブで行います。

購入時の設定は、次のとおりです。

・ LCDユニットを閉じる: なし(バックライトの消灯)
・ 電源スイッチを押す: シャットダウン
・ Fn + F12 を押す: スタンバイ

〈Windows 2000の場合〉

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源LED	復帰方法
HDD、モニタの電源が切れている状態	緑点灯	● タッチパッド、キーボードを操作する(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ	緑点滅	● 電源スイッチを押す。 ● キーボードを操作する。
休止状態	消　灯	● 電源スイッチを押す。

オプションのホイール付きUSBマウスの操作では、省電力モードから復起しません。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機にはコンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2003」が添付されています。購入時には「Norton AntiVirus 2003」がインストールされていませんので、インストールを行ってください。

p.141「インストールする前に」

コンピュータウィルスとは

第三者のプログラムやデータベースに対して意図的に何らかの被害を及ぼすように作られたプログラムです。外部とデータをやり取りすることで感染する危険があります。インターネットや電子メールの普及とともに、コンピュータウィルスに感染する可能性はますます高くなってきています。

ウィルスの被害に遭わないために

コンピュータウィルスの被害に遭わないために、次の内容を実施することをおすすめします。

- ウィルス検出ソフトを使用し、データファイルは常に最新のものを使用する。
- メールの添付ファイルはウィルスチェックをしてから開く。
- 外部から持ち込まれたFDやダウンロードしたファイルはウィルスチェックをしてから使用する。
- 万一のウィルス被害に備えてデータのバックアップを取る。

ウィルスに感染してしまったら

コンピュータウィルスに感染してしまった場合は、感染被害の拡大と再発の防止のため、「情報処理振興事業協会」に届出を出してください。

詳しくは、「情報処理振興事業協会」の下記アドレスを参照してください。

http://www.ipa.go.jp

インストールする前に

Norton AntiVirus2003をインストールする前に、ウィルス定義ファイルについて必ずご確認ください。

ウィルス定義ファイルとはウィルス情報が登録されているファイルです。Norton AntiVirus2003は、ウィルス定義ファイルを使用して、お使いのコンピュータにウィルスが侵入しないように、常に監視します。新種のウィルスからお使いのコンピュータを守るためには、最新のウィルス定義ファイルに更新していく必要があります。

更新するためには

ウィルス定義ファイルの更新は、Norton AntiVirus2003のLiveUpdate 機能を使用して行います。LiveUpdate 機能を使用するためには、インターネットへの接続環境が必要です。
LiveUpdate 機能についての詳細は、Norton AntiVirus2003のヘルプ、またはオンラインマニュアルをご覧ください。
p.145「Norton AntiVirus2003の使い方」

更新期限について

ウィルス定義ファイルの更新には期限が定められています。本コンピュータに添付のNorton AntiVirus2003は製品版ではありませんので、更新期限は、Norton AntiVirus2003をインストールしてから90 日間になります。90 日間は、無償でウィルス定義ファイルを更新することができます。
90 日経過以降にウィルス定義ファイルを更新する場合は、Symantec 社に更新サービスの継続を申し込み、更新権を購入してください。
更新権を購入する際は、次のアドレスをご覧ください。

http://shop.symantec.co.jp/AttachmentKey.asp

更新権が無効になる場合

更新権を購入してウィルス定義ファイルの更新サービスを継続していても、次のような場合には、更新権が無効になります。継続して使用するには、再度更新権を購入する必要があります。あらかじめご了承ください。

- Windowsを再インストールする
- Windowsをアップグレードする
- リストア(システムを復元)する

ウィルス定義ファイルの更新についての詳細は、Symantec社のホームページでもご覧いただけます。

http://www.symantec.co.jp

Norton AntiVirus2003のインストールとセットアップ

Norton AntiVirus2003では、インストールを行ったあとに、セットアップを行います。これらの作業は、「コンピュータの管理者(Administrator)」権限があるユーザー名でログオンして行ってください。

インストール

Norton AntiVirus2003のインストール手順は、次のとおりです。

1. [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
2. 名前に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
   C:¥DRIVERS¥NAV2003¥SETUP
3. 「Norton AntiVirus2003 Installation Wizardへようこそ」と表示されます。[次へ]をクリックします。
4. 「宛先フォルダ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
5. 「アプリケーションのインストール準備をする」と表示されたら、[次へ]をクリックします。インストールが始まります。
6. 「Readme 情報」と表示されたら、内容を確認して、[次へ]をクリックします。

7 「Norton AntiVirus2003は、正常にインストールされました。」と表示されたら、[終了]をクリックします。

8 [スタート]メニューからコンピュータを再起動します。コンピュータが再起動すると、Norton AntiVirus2003のインストールは終了です。

セットアップ

Norton AntiVirus2003のインストールが終了したら、セットアップを行います。セットアップ手順は、次のとおりです。

1 [スタート]−「(すべての)プログラム」−「Norton AntiVirus」−「Norton AntiVirus2003」をクリックします。

2 「Norton AntiVirus 情報ウィザード」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

3 「使用許諾契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。

4 「更新サービス」と表示されたら、内容をよくお読みになり[次へ]をクリックします。
ここでは、ウィルス定義ファイルの更新に関する重要な内容が表示されます。必ずお読みください。

5 「インストール後のタスク」と表示されます。実行したい各項目にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
LiveUpdateを実行する場合は、インターネット接続環境が必要です。インターネット接続環境が整っていない場合は、チェックを外します。

6 「概略」と表示されたら、「インストール後のタスク」と「設定」の内容を確認して[完了]をクリックします。

7 手順5 で設定したタスクが実行されます。以降は、画面の指示に従ってセットアップを行ってください。タスクが終了すると、Norton AntiVirus2003のセットアップは終了です。

Norton AntiVirus2003使用時の注意

Norton AntiVirus2003がインストールされている状態で、新しくデバイスドライバやソフトウェアをインストールすると、インストール中に「警告」画面が表示されることがあります。このような場合は、下記を参照して対処してください。

● 弊社より提供のドライバやソフトウェアをインストールしている場合

インストール作業を続行してください。メッセージ内の「処理」欄から、「スクリプト全体を1回許可する」を選択し、[OK]をクリックして、インストール作業を続行します。

弊社より提供のドライバやソフトウェアには、主に次のようなものがあります。

・本機のリカバリイメージに登録されているドライバやソフトウェア

・弊社ホームページよりダウンロードしたドライバやソフトウェア

● 弊社製以外のドライバやソフトウェアをインストールしている場合

インストールを中止してください。その後、ドライバやソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

弊社製以外のドライバやソフトウェアには、主に次のようなものがあります。

・弊社以外から購入した製品に添付されているドライバやソフトウェア

・ホームページ上のソフトウェア

Norton AntiVirus2003の使い方

Norton AntiVirus2003の詳しい使用方法や操作方法などについては、Norton AntiVirus2003のヘルプやオンラインマニュアルをご覧ください。

● Norton AntiVirus2003のヘルプ

「Norton AntiVirus2003」を起動して「ヘルプ」をクリックすると、ご覧いただけます。

● オンラインマニュアル

次のフォルダに、PDFファイルで登録されています。マイコンピュータやエクスプローラなどでPDFファイルを開いてご覧ください。

C:¥DRIVERS¥NAV2003¥MANUAL

PDFファイルをコピーする

デスクトップ上にオンラインマニュアルをコピーしておくと、以降はPDFファイルのアイコンをダブルクリックするだけで、マニュアルを見ることができます。

ネットワーク(有線LAN)を使う

ネットワーク機能(有線LAN)について説明します。ワイヤレスLAN機能を使用する場合は、p.148「ワイヤレスLAN(無線LAN)を使う」をご覧ください。

本機では、ネットワーク機能(有線LAN)とワイヤレスLAN(無線LAN)を同時に使用した場合の動作について、保証していません。

ネットワークコネクタを使う

本機右側面には、10Base-T/100Base-TXに対応したネットワーク機能が標準で搭載されています。本機のLANコネクタを使用してネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバ)などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、ネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。

- NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  ・再起動する。
  ・省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。

Windows XPの場合、設定したネットワーク環境をブロードバンドチェンジャーに登録することができます。自宅や会社など複数のネットワークに接続する場合は、利用状況に応じて、ネットワーク設定を切り替えることができます。

p.165「ブロードバンドチェンジャーを使う」

リモートブート機能について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、リモートブート機能を使用できます。

● リモートブート

リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにOSがインストールされていなくても、ネットワークを介して、サーバー上からOSをインストールすることができます。

リモートブートを行う場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ワイヤレスLAN(無線LAN)を使う

ワイヤレスLAN機能について説明します。ネットワーク機能(有線LAN)を使用する場合は、p.146「ネットワーク(有線LAN)を使う」をご覧ください。

本機では、ネットワーク機能(有線LAN)とワイヤレスLAN(無線LAN)を同時に使用した場合の動作について、保証していません。

本機には、IEEE802.11bに準拠したワイヤレスLAN機能が搭載されています。ワイヤレスLAN(無線LAN)とは、電波などを利用して通信を行うネットワークのことです。

本章では、ワイヤレスLAN機能を使用して、次のようなネットワークに接続する方法について説明します。

- アクセスポイント(以下、AP)と呼ばれる機器を経由して、複数のコンピュータが接続可能なネットワークに接続する場合(ワイヤレスLAN環境が構築されている場合)
- 2台のコンピュータ同士を接続する場合

- NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・再起動する。
  - ・省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。
- ワイヤレスLAN機能は、リモートブートに対応していません。

ワイヤレスLAN機能をお使いの前に

- 航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか、電波を停止してください。
  電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本製品を22cm以上離して使用してください。
  電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 医療機関の屋内では次のことを守ってください。
  - 手術室、集中治療室(ICU)、冠状動脈疾患監視室(CCU)には、本機を持ち込まないでください。
  - 病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
  - 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 自宅療養など医療機関以外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。

特長

本機に搭載しているワイヤレスLANの特長は、次のとおりです。

・ 無線通信で使用する周波帯域は2.4GHzです。

・ 最大11Mbpsでのデータ転送が可能です。

電波に関する注意事項

ワイヤレスLANをお使いの前に、下記の電波に関する注意事項をお読みください。

- 本機のワイヤレスLAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。従って、本機のワイヤレスLAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- 本機のワイヤレスLAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - ・本機を分解/改造する
  - ・本機の裏面に貼ってある証明ラベルをはがす

- 本機のワイヤレスLAN機能は、電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください(環境により電波が届かない場合があります)。

  ※ 2.4GHz付近の電波を使用している無線装置など他製品の近くで使用すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。

- 本機のワイヤレスLAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、下記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあります。
  - ・産業・科学・医療用機器
  - ・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    - ① 構内無線局(免許を要する無線局)
    - ② 特定小電力無線局(免許を要しない無線局)

  万一、本機のワイヤレスLAN機能から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、ワイヤレスLAN機能の使用チャンネルを速やかに変更して、電波干渉をしないようにしてください。

セキュリティの確保

ワイヤレスLANは電波を使用して通信するため、第三者に電波を傍受され、ネットワークに不正に進入される恐れがあります。このため、お使いになる前に、セキュリティの確保を行う必要があります。ワイヤレスLANでは、セキュリティを確認するために、WEPキーを設定できます。

WEPキー

WEPキーとは、ネットワーク内の通信を暗号化して行うかどうかを設定するパスワードのようなものです。WEPキーを設定すると、ネットワーク内のデータ通信が暗号化され、データが傍受されにくくなります。
WEPキーを使用すると、通信速度のパフォーマンスは低下しますが、プライバシーを守るためには、設定することをおすすめします。

ワイヤレスLAN(無線LAN)の各種設定

ワイヤレスLAN設定ユーティリティ(Windows 2000のみ)

Windows 2000インストールモデルの場合、ワイヤレスLAN設定ユーティリティを使用すると、WEPキーの登録などができます。
ワイヤレスLAN設定ユーティリティを起動するには、タスクバーの「ワイヤレスLANアイコン」をクリックします。

＜ワイヤレスLANアイコン＞

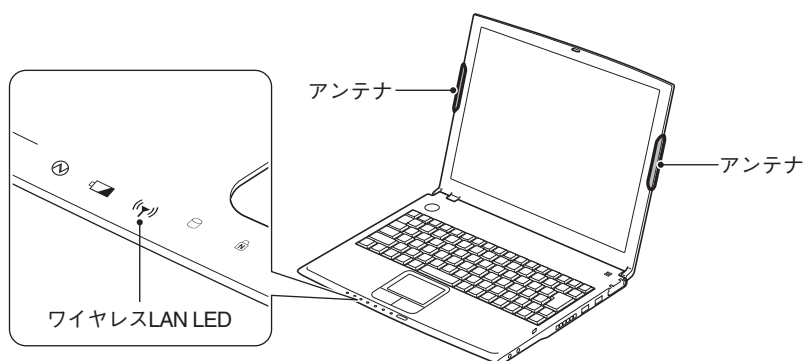
*アイコンの形状は、ネットワークや電波の状態によって異なります。

ワイヤレスLANアンテナの設定

ワイヤレスLAN機能を使用する場合は、ワイヤレスLANアンテナを有効にします。購入時は、ワイヤレスLANアンテナは無効の設定になっています。

ワイヤレスLANアンテナの有効／無効の切り替えは Fn + F1 ((Y)) で行います。

ワイヤレスLANの状態は、ワイヤレスLAN LED（((Y))）で確認します。

ワイヤレスLANの状態	ワイヤレスLAN LED
アンテナが有効	緑点灯
アンテナが無効	消灯

電波の使用を禁止された区域などでは、ワイヤレスLANのアンテナからの電波を停止してください。

構築されたワイヤレスLAN環境を利用する場合

APとの接続方法

ここでは、APを経由して、すでに構築されたワイヤレスLAN環境に接続する方法を説明します。

ワイヤレスLANのアンテナが無効の設定になっている場合は、Fn+F1でアンテナを有効に設定してから行ってください。

p.152「ワイヤレスLANアンテナの設定」

なお、ワイヤレスLAN環境に接続するには、AP側での設定や、Windows上でのIPアドレス、ワークグループ名などの設定が必要です。これらの設定は、APに添付のマニュアルやネットワーク管理者の指示に従って行ってください。

● Windows 2000の場合

AP側にWEPキーが設定されていない場合は、自動的に接続可能なAPを検出して接続します。AP側でWEPキーを設定している場合は、次の手順でWEPキーをあらかじめ登録してください。

1. **タスクバーの「ワイヤレスLANアイコン」をクリックします。**
2. **「設定」タブ－「ワイヤレスLAN設定名」に任意の名前を入力します。**
3. **「ネットーワーク名(ESS ID)」を入力します。**
   ネットワーク名とは、接続するワイヤレスLANのグループ名のことです。AP側で設定しているネットワーク名を入力します。
4. **「暗号キー(WEP)の設定」から「40bit/64bit」または「128bit」を選択します。**
   APに登録されている文字数により選択してください。
5. **「キーの形式」を指定します。「英数字(ASCII)を使用」、「16進数を使用」から選択します。**
6. **「使用する暗号キー」に、暗号化するときに使用する暗号キーを、キー0～3から指定します。**

7 **手順6で指定したキー(キー0～3)にWEPキーを入力します。**

WEPキーは､最大で4個まで登録できます。

8 **[適用]をクリックします。**

9 **[隠す]をクリックして｢ワイヤレスLAN設定ユーティリティ｣画面を閉じます。**

これでWEPキーの登録は終了です。

● Windows XPの場合

Windows XP ではじめてネットワークに接続する際は、次の設定を行ってください。

1 **[スタート]－「接続」－「すべての接続の表示」をクリックします。**

2 **「ワイヤレスネットワーク接続」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「利用できるワイヤレスネットワークの表示」をクリックします。**

3 **「ワイヤレスネットワーク接続」画面の「利用できるワイヤレスネットワーク」項目で接続したいネットワークを選択します。**

WEPキーが登録されている場合と、されていない場合で設定できる項目が異なります。

APにWEPキーが登録されている場合

❶「ネットワークキー」にWEPキーを入力します。

❷「ネットワークキーの確認入力」にもう一度WEPキーを入力して、[接続]をクリックします。

APにWEPキーが登録されていない場合

「セキュリティで保護されていなくても･･･」にチェックを付けて、[接続]をクリックします。

これでAPとの接続の設定は終了です。

Windows XPの場合、設定したネットワーク環境をブロードバンドチェンジャーに登録することができます。自宅や会社など複数のネットワークに接続する場合は、利用状況に応じて、ネットワーク設定を切り替えることができます。

p.165「ブロードバンドチェンジャーを使う」

チャンネルの切り替え

本機のワイヤレスLAN機能から発信する電波が、ほかのワイヤレスLANの環境と干渉してしまった場合は、APで使用チャンネルを変更してください。使用チャンネルの変更方法は、お使いになるAPにより異なります。詳しくは、お使いのAPに添付のマニュアルをご覧ください。
本機は、変更したAPのチャンネルを自動的に検出するため、特に設定を変更する必要はありません。

MACアドレスの確認

MACアドレスとは、各ネットワーク製品に割り当てられている固有の番号のことです。AP側にMACアドレスを登録しておけば、登録されていないMACアドレスからのアクセスはAP側で受け付けません。

本機のワイヤレスLAN機能のMACアドレスは、次の場所で確認できます。

● Windows 2000の場合

タスクバーのワイヤレスLANアイコンをクリックして、ワイヤレスLAN設定ユーティリティを表示します。「状態」タブ－「MACアドレス」で確認します。

● Windows XPの場合

[スタート]－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システム情報」をクリックして、「システム情報」画面を表示します。右側の画面で「コンポーネント」－「ネットワーク」－「アダプタ」をクリックします。左側の画面の次の項目の「MACアドレス」で確認します。

LAN-Express IEEE802.11 PCI Adapter

コンピュータ間で通信を行う場合

本機のワイヤレスLAN機能を使用して、ワイヤレスLAN機能を持つ別のコンピュータと通信を行うことができます。
ここでは、ワイヤレスLAN機能を使用して、2台のコンピュータ間で通信を行うようにIPアドレスやワークグループ名などを設定する方法を説明します。
設定は次の順番で行います。

❶ TCP/IPアドレスの設定
❷ コンピュータ名とワークグループの設定
❸ ワイヤレスLAN設定ユーティリティの設定(Windows 2000のみ)

通信する2台のコンピュータで、それぞれ設定を行ってください。

ワイヤレスLANのアンテナが無効の設定になっている場合は、Fn+F1でアンテナを有効に設定してから行ってください。

p.152「ワイヤレスLANアンテナの設定」

Windows 2000の場合

Windows 2000でコンピュータ間で通信を行うように設定する手順は、次のとおりです。

● TCP/IPアドレスの設定
次の手順で、TCP/IPアドレスを設定します。

1 [スタート]−「設定」−「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続 2」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。

3 「全般」タブ−「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックして選択して、[プロパティ]をクリックします。

4 **「次のIPアドレスを使う」をチェックを付け、IPアドレスとサブネットマスクに次のとおり入力します。**

IPアドレス:

192.168.1.2から192.168.1.254の間で通信相手と同じアドレスにならないように設定してください。

サブネットマスク:

255.255.255.0と入力します

「デフォルトゲートウェイ」には、何も入力しません。

5 **[OK]をクリックして、開いているすべての画面を閉じます。**

● コンピュータ名とワークグループの設定

次の手順で、「コンピュータ名」と「ワークグループ」を設定します。

「コンピュータ名」とは、コンピュータを識別するための名前です。それぞれのコンピュータで違う名前をつけてください。「ワークグループ」は、接続するコンピュータ同士で同じ名前を設定してください。

1 **[スタート]−「設定」−「コントロールパネル」−「システム」をダブルクリックします。**

2 **「システムのプロパティ」画面−「ネットワークID」タブ−[プロパティ]をクリックします。**

3 **「識別の変更」画面で「コンピュータ名」に任意のコンピュータ名を、「ワークグループ」にワークグループ名を入力します。**

4 **[OK]をクリックして、「識別の変更」画面を閉じます。**

5 **「・・・ワークグループへようこそ。」と表示されたら[OK]をクリックします。**

6 **「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」と表示されたら[OK]をクリックします。**

7 **[OK]をクリックして、「システムのプロパティ」画面を閉じます。**

以降は、画面のメッセージに従ってコンピュータを再起動します。

● ワイヤレスLAN設定ユーティリティの設定

次の手順で、「ネットワーク名」や「WEPキー」などを設定します。

1 **タスクバーの「ワイヤレスLANアイコン」をクリックします。**

2 **「ワイヤレスLAN設定ユーティリティ」画面－「設定」タブをクリックします。**

3 **「ワイヤレスLAN設定名」に任意の名前を入力します。**

4 **「ワイヤレスLAN通信モード」項目の「パソコン間」にチェックを付け、「ネットワーク名(ESSID)」に任意のネットワーク名を入力します。**

「ネットワーク名」は、通信する相手側でも同じ名前に設定してください。

WEPキーを設定する場合は、次の設定を行ってください。

❶「暗号キー(WEP)の設定」から「40bit/64bit」または「128bit」を選択します。

APに登録されている文字数により選択してください。

❷「キーの形式」を指定します。「英数字(ASCII)を使用」、「16進数を使用」から選択します。

❸「使用する暗号キー」に、暗号化するときに使用する暗号キーを、キー0～3から指定します。

❹手順❸で指定したキー(キー0～3)にWEPキーを入力します。

WEPキーは、最大で4個まで登録できます。

❺[適用]をクリックします。

5 **[隠す]をクリックして「ワイヤレスLAN設定ユーティリティ」画面を閉じます。**

これで、ワイヤレスLAN設定ユーティリティの設定は終了です。

Windows XPの場合

Windows XPでコンピュータ間で通信を行うように設定する手順は、次のとおりです。

● TCP/IPアドレスの設定

次の手順で、TCP/IPアドレスを設定します。

1 **[スタート]－「接続」－「すべての接続の表示」をクリックします。**

2 **「ワイヤレス ネットワーク接続」アイコンを右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」を選択します。**

3 **「全般」タブ－「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックして選択して、[プロパティ]をクリックします。**

4 **「次のIPアドレスを使う」をチェックを付け、IPアドレスとサブネットマスクに次のとおり入力します。**

IPアドレス：

192.168.1.2から192.168.1.254の間で通信相手と同じアドレスにならないように設定してください。

サブネットマスク：

255.255.255.0と入力します

「デフォルトゲートウェイ」には、何も入力しません。

5 **[OK]をクリックします。**

6 **「ワイヤレスネットワーク」タブ－[詳細設定]をクリックします。**

7 **「コンピュータ相互(ad hoc)のネットワークのみ」にチェックを付け、[閉じる]をクリックします。**

8 **「優先するネットワーク」項目の[追加]をクリックます。**

9 **「アソシエーション」タブの「ネットワーク名(SSID)」に任意のネットワーク名を入力します。**

「ネットワーク名」は、通信する相手側でも同じ名前に設定してください。

WEPキーを設定する場合は、次の設定を行ってください。

❶「データの暗号化(WEP有効)」にチェックを付けます。
❷「ネットワーク認証(共有モード)」にチェックを付けます。
❸「キーは自動的に提供される」のチェックを外します。
❹「ネットワークキー」と「ネットワークキーの確認入力」に WEP キーを入力します。
❺「キーのインデックス(詳細)」で WEP キーを 1 〜 4 のいずれに割り当てるかを指定します。
キーは最大4個まで登録できます。

10 **[OK]をクリックして、「詳細設定」画面を閉じます。**

11 **[OK]をクリックして「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面を閉じます。**

● コンピュータ名とワークグループの設定

次の手順で、「コンピュータ名」と「ワークグループ」を設定します。
「コンピュータ名」とは、コンピュータを識別するための名前です。それぞれのコンピュータで違う名前をつけてください。「ワークグループ」は、接続するコンピュータ同士で同じ名前を設定してください。

1 **[スタート]−「コントロールパネル」−「パフォーマンスとメンテナンス」−「システム」をクリックします。**

2 **「システムのプロパティ」画面−「コンピュータ名」タブ−[変更]をクリックします。**

3 **「コンピュータ名」に任意のコンピュータ名を、「ワークグループ」にワークグループ名を入力します。**

4 **[OK]をクリックして、「コンピュータ名の変更」画面を閉じます。**

5 **「･･･ワークグループへようこそ。」と表示されたら[OK]をクリックします。**

6 **「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」と表示されたら[OK]をクリックします。**

7 **[OK]をクリックして、「システムのプロパティ」画面を閉じます。**
以降は、画面のメッセージに従ってコンピュータを再起動します。
コンピュータが再起動したら、設定は終了です。

Windows XPの場合、設定したネットワーク環境をブロードバンドチェンジャーに登録することができます。自宅や会社など複数のネットワークに接続する場合は、利用状況に応じてネットワーク設定を切り替えることができます。

p.165「ブロードバンドチェンジャーを使う」

ワークグループへの接続

ワイヤレスLANの通信範囲内に2台のコンピュータを設置すると、自動的に設定されているワークグループに接続します。ワークグループに接続している通信先コンピュータを確認する方法は、次のとおりです。

- Windows 2000の場合
  [マイネットワーク]－[近くのコンピュータ]をダブルクリックすると、同じワークグループに接続しているコンピュータが表示されます。

- Windows XPの場合

1 **[スタート]－[マイコンピュータ]をクリックします。**

2 **「マイコンピュータ」画面が表示されたら、画面左側の「その他」項目－「マイネットワーク」をクリックします。**

3 **「ネットワークタスク」項目−「ワークグループのコンピュータを表示する」をクリックします。**

同じワークグループに接続しているコンピュータが表示されます。

ファイルやフォルダを共有する

ファイルやフォルダを共有するように設定すると、接続している相手側のコンピュータのファイルやフォルダを参照できるようになります。詳細については、Windowsのヘルプを参照してください。

ネットワーク機能の切り替え

本機右側面のネットワークコネクタを使用した有線LANに接続を切り替えたい場合は、ワイヤレスLAN機能を無効に設定する必要があります。また、有線LANの接続を、ワイヤレスLANの接続に切り替える場合も同様です。

本機では、ネットワーク機能(有線LAN)とワイヤレスLAN機能(無線LAN)を同時に使用した場合の動作について、保証していません。

ネットワーク機能(有線LAN)を使う

本機背面のLANコネクタにネットワークケーブルを接続します。ケーブルを外すと、ネットワーク機能は無効になります。

ワイヤレスLAN機能(無線LAN)を使う

ワイヤレスLANアンテナを有効にすると、ワイヤレスLAN機能を使用できます。使用しない場合は、アンテナを無効に設定してください。

p.152「ワイヤレスLANアンテナの設定」

ブロードバンドチェンジャーを使う（Windows XPのみ）

ブロードバンドチェンジャーを使うと、利用環境に応じてネットワークの設定を保存することができます。本機を会社や自宅、外出先で使ったりする場合などに、簡単に利用環境を切り替えることができます。

ブロードバンドチェンジャーを使用する際は、ネットワークに接続できる状態で行ってください。

ネットワーク設定の取り込み

まず、ブロードバンドチェンジャーにネットワーク設定を取り込みます。

登録できるネットワーク設定は、最大20までです。

設定を取り込む手順は、次のとおりです。取り込みを行うネットワークに接続できる状態で行ってください。

1. **［スタート］－「すべてのプログラム」－「ブロードバンドチェンジャー」－「ブロードバンドチェンジャー」をクリックします。**
   確認画面が表示された場合は、［OK］をクリックします。

2. **「ブロードバンドチェンジャー」画面で［get］をクリックします。**

コンピュータの基本操作

3 「アイコンとネットワーク名の登録」画面が表示されたら、ボタンに割り付けるアイコンを選択し、ネットワーク名称を入力して[OK]をクリックします。

ネットワーク環境の切り替え

> ネットワーク環境を取り込んだあとに、ハードウェアやソフトウェアの構成を変更したときは、登録したネットワーク設定を正常に切り替えられない場合があります。その場合は、いったん設定を削除してから再度取り込みを行ってください。

登録したネットワーク環境を切り替える手順は、次のとおりです。

1 **[スタート]－「すべてのプログラム」－「ブロードバンドチェンジャー」－「ブロードバンドチェンジャー」をクリックします。**

確認画面が表示された場合は、[OK]をクリックします。

2 **「ブロードバンドチェンジャー」画面で、利用したいネットワーク環境のアイコンをクリックします。**

3 **[OK]をクリックします。**

選択したネットワーク環境の設定に切り替わります。

設定の変更や削除

ネットワーク設定の変更や削除を行うには、「ブロードバンドチェンジャー」画面で、変更または削除したいアイコンを右クリックします。
設定を変更する場合は「設定の確認・変更」、削除する場合は「設定内容の削除」をクリックします。

そのほかの機能

USBコネクタを使う

本機右側面にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。2個のコネクタは同じ機能ですので、どちらのコネクタを使用してもかまいません。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器のマニュアルをご覧ください。

接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器のマニュアルをご覧ください。

転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コントローラに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

IEEE1394コネクタを使う

本機右側面にはIEEE1394コネクタ(4ピン)が用意されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、タスクバーにアイコン(「PCカード」アイコンなど)が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

ビデオ編集をする（Symphomovieインストールモデル）

「Symphomovie」を使用すると、デジタルビデオからの画像の取り込み、編集を行うことができます。デジタルビデオとの接続や、編集方法などSymphomovieの詳しい使用方法は、『Symphomovieユーザーズマニュアル』をご覧ください。

なお、「Symphomovie」の再インストールを行う場合は、添付のCD-ROMからインストールするためオプションの薄型ドライブが必要です。

システムの拡張

メモリの増設方法やコンピュータに接続できる装置について説明します。

拡張できる装置

本機内部には、次の装置を増設･交換して、機能を拡張することができます。

メモリモジュール

本機には256MBの内蔵メモリと、増設用メモリスロット1本が用意されています。増設用メモリスロットはタッチパッドの下にあります。最大512MB(256MB内蔵メモリ+256MB増設メモリ)までメモリを拡張できます。

p.173「メモリモジュールの増設」

メモリモジュールの増設

メモリモジュールの増設作業はコンピュータ内部の精密部品に触れる可能性があるので十分に注意して作業を行ってください。

メモリモジュールの増設

本機には256MBのメモリが内蔵されています。また、増設用のメモリスロットが1本用意されていて、メモリを増設または交換することができます。
本機に搭載可能な最大メモリ容量は512MB(256MB内蔵メモリ+256MB増設メモリ)です。

本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリの容量を差し引いて表示されます。

メモリを増設する場合は、下記仕様と一致するMicro DIMMを、弊社のオプション一覧より選択してください。

- PC133 Micro DIMM(Micro SDRAM使用、144ピン)
- メモリ容量*　128MB、256MB
- Non ECC

*今後、新しい容量のメモリを取り扱う場合があります。

最新のオプション一覧は、ホームページに掲載しています。下記URLのホームページをご覧ください。

http://www.epsondirect.co.jp

作業時の注意

Micro DIMMを増設、交換する場合は、次の点に注意してください。

- 電源コンセントに電源プラグを接続したまま、あるいはバッテリパックをセットしたままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。

- Micro DIMMの増設・交換は本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所(ぐらついた机の上や、傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

- 本機は電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電源が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外し、バッテリを抜いてください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。Micro DIMMやコンピュータに静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。
- Micro DIMMを持つときは、Micro DIMMの端子部や素子に触れないでください。Micro DIMMの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。Micro DIMMが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- Micro DIMMを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- Micro DIMMの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの増設

メモリの増設は、次の手順で行います。

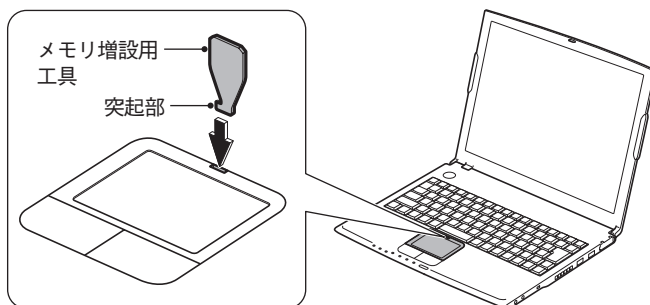
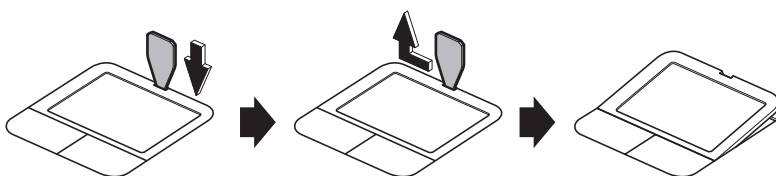
Micro DIMMの取り付け

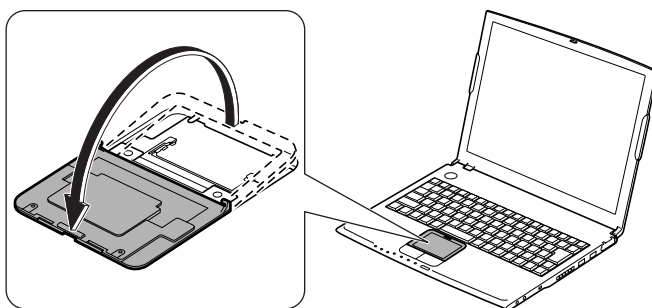
1. **本機の電源を切ります。**
2. **接続しているすべてのケーブルを外します。**
3. **本機底面を上にして置き、バッテリを取り外します。**

    p.66「バッテリの交換」
4. **本機のLDCユニット側を上にして置き、LCDユニットを開きます。**

5 タッチパッドを取り外します。

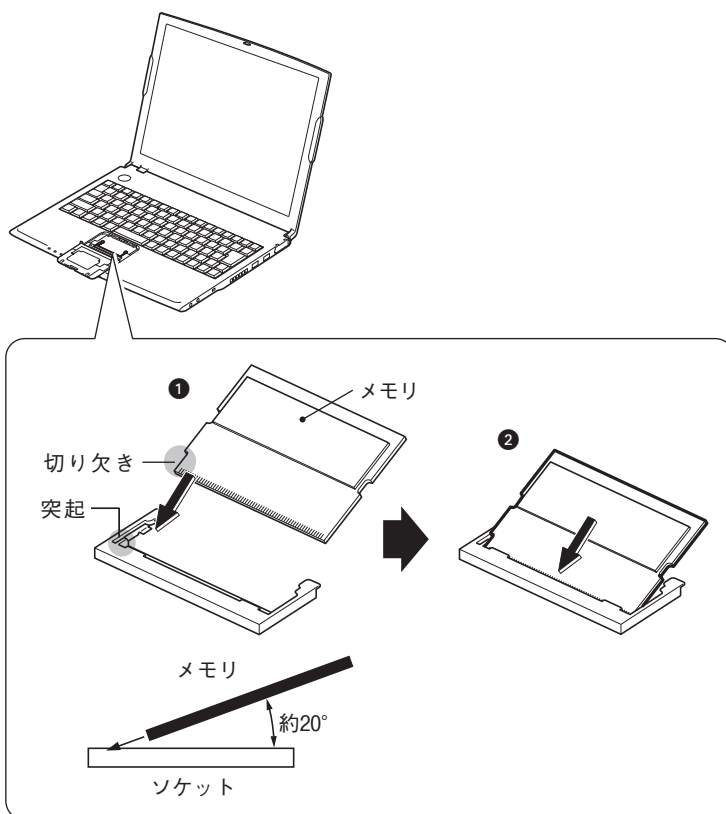
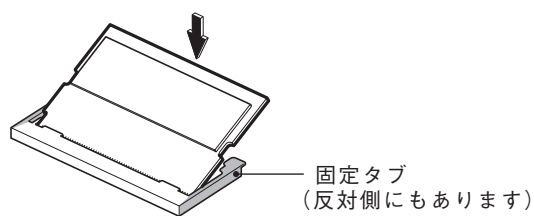
❶ 本機に添付のメモリ増設用工具の突起部を左側にして、タッチパッドの切り欠きに差し込みます。

切り欠きには、添付のメモリ増設用工具以外のものは差し込まないでください。

❷ メモリ増設用工具をゆっくり押し込み、左にスライドさせてから持ち上げて、タッチパッドが少し開いた状態にします。

❸ メモリ増設用工具の突起部をタッチパッドに引っかけながら持ち上げ、手前に倒します。

タッチパッドを無理に引っ張らないように注意しながら、ゆっくりと手前に倒してください。

6 Micro DIMMを差し込みます。

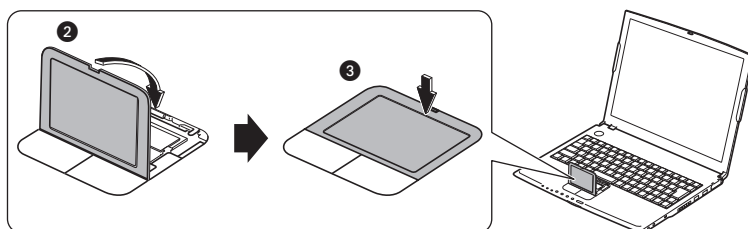
❶ 切り欠きを突起に合わせます。

❷ Micro DIMMを約20度の角度でメモリソケットに差し込みます。

この際、Micro DIMMの端子部や素子に触れないようにしてください。

7 Micro DIMMを静かに倒します。正しく装着すると「カチッ」と音がします。

8 タッチパッドを取り付けます。

❶ タッチパッドを垂直に起こします。

❷ タッチパッドをゆっくりとキーボード側に倒します。

❸ タッチパッドがロックするまで押し込みます。

9 コンピュータを使用できるように取り外したバッテリと、ケーブル類をもとに戻します。

p.66「バッテリの交換」

10 「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、総メモリ容量を確認します。

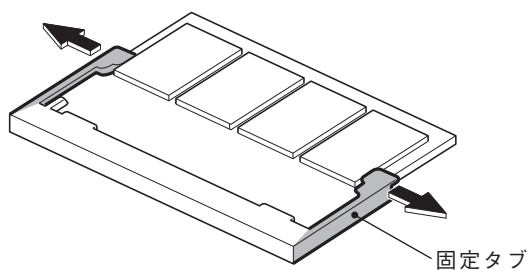
❶ コンピュータの電源を入れて、F2 を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

p.183「BIOS Setupユーティリティの起動」

❷ 「Mainメニュー画面」ー「Extended Memory」で総メモリ容量を確認します。

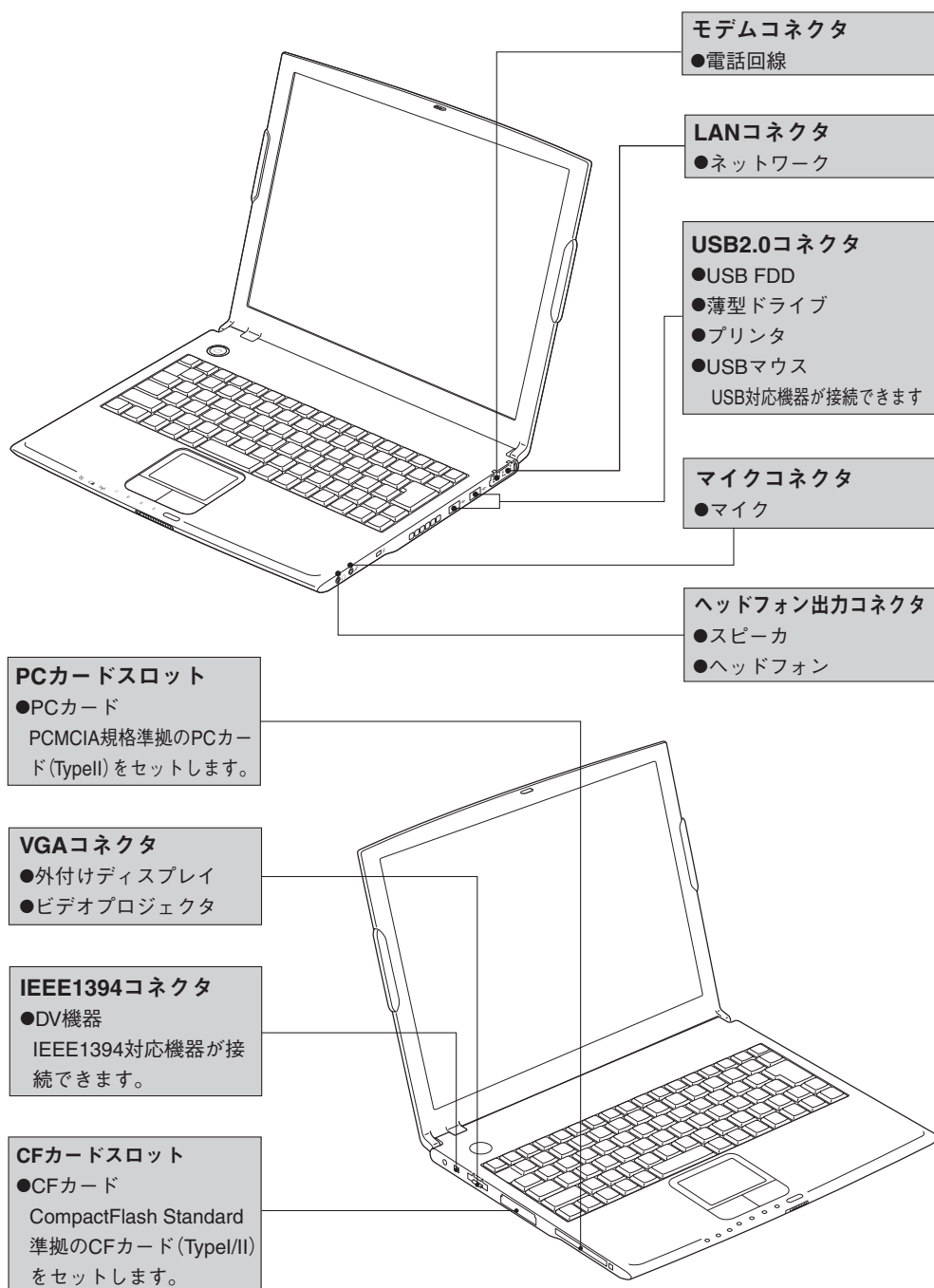
本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。装着している総メモリ容量から、ビデオメモリで使用するメモリ容量を引いた容量が表示されます。
装着した容量だけ、メモリ容量が増えていれば作業は完了です。「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。容量が増えていない場合は、Micro DIMMが正しく装着されていないことが考えられます。電源を切ってから装着し直してください。

メモリの取り外し

1 **ソケットの固定タブを外側に広げるとMicro DIMMが起き上がります。**

2 **起き上がったMicro DIMMの両端を持って静かに引き抜きます。**

取り外したMicro DIMMは静電防止袋に入れて保管してください。

外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- マウスを使う場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。

設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。修理センターまでご連絡ください。

- 設定値を変更して、動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなった場合に備えて、必ず購入時の設定と変更後の設定値を記録しておいてください。

  p.196「BIOS Setup ユーティリティの設定値」
- 設定を変更後に、万一動作が不安定になった場合は、「Load Setup Defaults」（初期値に戻す）または「Discard Changes」（前回保存した設定値に戻す）を実行することでもとの値に戻すことができます。

  p.186「設定値をもとに戻すには」
- エプソンダイレクト製以外のBIOSを使用すると、Windowsが正常に動作しなくなる場合があります。エプソンダイレクト製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。

BIOS Setupユーティリティの操作

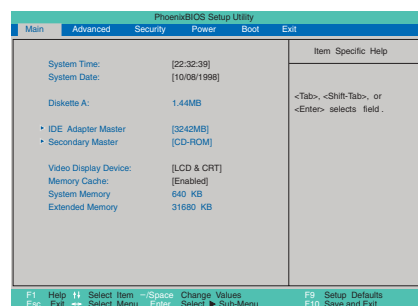
BIOS Setupユーティリティの起動

1 **コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。**

2 **黒い画面の下の方に次のメッセージが表示されている間にキーボードの F2 を押します。**

表示される時間は短いです。

Press F2 to enter SETUP
このメッセージが表示されている間に F2 を押さないとWindowsが起動します。

3 **「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。**

BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

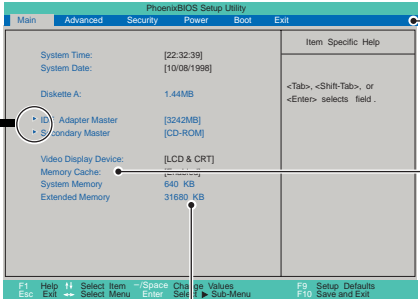
仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら F2 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して終了します。

p.187「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

操作は、次の順番で行います。

①「処理メニュー」を選択 → ②「設定項目」を選択 → ③「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。なお、各設定項目の説明は、p.188「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

＜メニュー画面＞

PhoenixBIOS Setup Utility

Main Advanced Security Power Boot Exit		Item Specific Help
System Time:	[22:32:39]	<Tab>, <Shift-Tab>, or <Enter> selects field.
System Date:	[10/08/1998]	
Diskette A:	1.44MB	
▸ IDE Adapter Master	[3242MB]	
▸ Secondary Master	[CD-ROM]	
Video Display Device:	[LCD & CRT]	
Memory Cache:	[Enabled]	
System Memory	640 KB	
Extended Memory	31680 KB	

F1 Help ↑↓ Select Item −/Space Change Values F9 Setup Defaults
Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▸ Sub-Menu F10 Save and Exit

①「処理メニュー」を選択

[→] [←] で変更します。

起動直後は、「Main メニュー画面」が表示されています。

②「設定項目」を選択

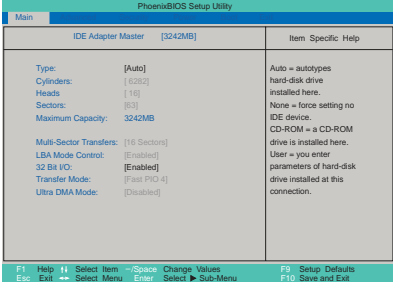
[↑] [↓] で変更します。

③「設定値」を選択

黒字表示されていると、設定変更可能です。

[ ] (スペースキー)/[Fn]+[-] を押すと値が変わります。

[↵] を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

↓

＜選択ウィンドウ＞

選択ウィンドウ内の設定値を [↑] [↓] で変更し、[↵] で設定します。

AwardBIOS Setup Utility

Main		Item Specific Help
Primary IDE	[FUJITSU MHM2100AT]	<Enter> to select how many sectors per block the drive supports
Type:	[Auto]	
Cylinders:	[102	
Head	[240]	
Sector	[63]	
CHS Capacity	792	
Maximum LBA Capcity	1005	
Multi-Sector Transfers	[Max	
SMART Monitoring	[Disa	
PIO Mode	[4]	
ULTRA DMA Mode	[2]	

(選択ウィンドウ: Disabled / 2 Sectors / 4 Sectors / 8 Sectors / 16 Sectors / 32 Sectors / Maximum)

F1 Help ↑↓ Select Item −/Space Change Values F9 Setup Defaults
Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▸ Sub-Menu F10 Save and Exit

▸マークの付いている設定項目を選択して [↵] を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

＜サブメニュー画面＞

PhoenixBIOS Setup Utility

Main		Item Specific Help
IDE Adapter Master	[3242MB]	Auto = autotypes hard-disk drive installed here. None = force setting no IDE device. CD-ROM = a CD-ROM drive is installed here. User = you enter parameters of hard-disk drive installed at this connection.
Type:	[Auto]	
Cylinders:	[6282]	
Heads	[16]	
Sectors:	[63]	
Maximum Capacity:	3242MB	
Multi-Sector Transfers:	[16 Sectors]	
LBA Mode Control:	[Enabled]	
32 Bit I/O:	[Enabled]	
Transfer Mode:	[Fast PIO 4]	
Ultra DMA Mode:	[Disabled]	

F1 Help ↑↓ Select Item −/Space Change Values F9 Setup Defaults
Esc Exit ←→ Select Menu Enter Select ▸ Sub-Menu F10 Save and Exit

「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。

[Esc] を押すと＜メニュー画面＞に戻ります。

キー操作一覧

キー	操作できる内容
F1 , Alt + H	ヘルプを表示します。
Esc	「EXIT画面」を表示します。 サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑ , ↓	設定を変更する項目を選択します。
← , →	処理メニューを選択します。
Fn + - （スペースキー）	項目の値を変更します。
↵	・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニューを表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
F9	全設定項目の値を初期値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。
PgUp , Home	表示されているメニューの中の最初の項目に移動します。
PgDn , Fn + End	表示されているメニュー画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

初期値に戻す(Load Setup Defaults)

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に変更します。

1 F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation
Load default configuration now ?
[Yes]　　　　[No]

2 BIOSの設定を変更する場合は、[Yes]を選択して ↵ を押します。変更しない場合は[No]を選択して ↵ を押します。

前回保存した設定値に戻す(Discard Changes)

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation
Load previous configuration now ?
[Yes]　　　　[No]

2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes]を選択して ↵ を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

変更した内容を保存し、終了する(Exit Saving Changes)

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2通りの方法があります。

1 Esc を押す、または → ← を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。

2 「Exit Saving Changes」を選択し ↵ を押します。次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation
Save configuration changes and exit now ?
［Yes］　　　　　［No］

3 変更した設定値を保存して終了する場合は[Yes]を選択し、↵ を押します。

変更した内容を破棄し、終了する(Exit Discarding Changes)

1 Esc を押す、または → ← を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。

2 「Exit Discarding Changes」を選択し、↵ を押します。

設定値が変更されていなければ、そのままBIOS Setupユーティリティが終了し、システムが起動します。

3 設定値が変更されている場合は次のメッセージが表示されます。

Setup Warning
Configuration has not been saved! Save before exiting ?
［Yes］　　　　　［No］

変更した設定値を保存せずに終了する場合は[No]を選択し、↵ を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
- Advancedメニュー画面
- Exitメニュー画面
- Securityメニュー画面
- Bootメニュー画面

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、次の設定を行います。

- 日付と時刻の設定
- 起動時の状態の設定

設定項目と詳細は、次のとおりです。

※は表示のみ
（網掛け）は初期値

項目	説明
System Time (hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。
Hard Disk Type※	接続しているHDDの型番を表示します。
Internal Numlock	起動時のNum Lockの状態を設定します。 Enabled　：Num Lockが押された状態にします。 Disabled　：Num Lockが押されていない状態にします。
C3 State	CPUが処理を行っていないときに、消費電力を大幅に抑える機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled　：消費電力を抑える機能を使用します。 Disabled　：消費電力を抑える機能を使用しません。
Quick Boot	システム起動時のメモリチェック等を省略して、起動時間を短縮するかどうかを設定します。 Enabled　：起動時間を短縮します。 Disabled　：起動時間を短縮しません。
CPU Information※	装着しているCPUの情報を表示します。
External Memory※	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。本機はメインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。ビデオメモリの容量を引いた容量が表示されます。
CLKRUN	各デバイスが動作していないときにCPUクロック制御を停止し、消費電力を抑えるかどうかを設定します。 Enabled　：CPUクロック制御を停止して消費電力を抑えます。 Disabled　：CPUクロック制御を停止して消費電力を抑えません。

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、タッチパッドに関する設定を行います。

設定項目と詳細は、次のとおりです。

LPT Port	初期値[Auto]のまま使用してください。
Mode※	LPT Portのモードが表示されます。
Internal Touchpad	本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 外付けマウスのみを使用する場合は、[Disabled]を選択します。 Disabled　：タッチパッドを使用しません。 Enabled　：タッチパッドを使用します。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、次のような内容に関する設定を行います。

- パスワードの設定
- オンボードの各種デバイスに関する設定

Set Supervisor Password Set User Password		[Enter]が表示されている状態で ↵ を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。 User Passwordは、Supervisor Passwordを設定すると、パスワード設定が可能になります。
Password on boot		システム起動時にパスワード入力を要求するかしないかを設定します。 Disabled ：要求しません。 Enabled ：要求します。
Hard Disk boot Sector		HDDのブート領域への書き込みを禁止にするかどうかを設定します。HDDのフォーマットや再インストールを行うときは、[Normal]に設定してください。 Normal ：書き込みを許可します。 Write Protect ：書き込みを禁止します。
Device Configuration	USB Port	USB機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled ：USB機能を使用します。 Disabled ：USB機能を使用しません。
	Audio	サウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled ：サウンド機能を使用します。 Disabled ：サウンド機能を使用しません。
	Modem	FAXモデム機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled ：FAXモデム機能を使用します。 Disabled ：FAXモデム機能を使用しません。
	LAN	メインボード上のLAN機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled ：メインボード上のLAN機能を使用します。 Disabled ：メインボード上のLAN機能を使用しません。
	PC Card/ IEEE1394	PCカード/CFカード/IEEE1394機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled ：PCカード/CFカード/IEEE1394機能を使用します。 Disabled ：PCカード/CFカード/IEEE1394機能を使用しません。
	Wireless LAN	ワイヤレスLAN機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled ：ワイヤレスLAN機能を使用します。 Disabled ：ワイヤレスLAN機能を使用しません。

パスワードの設定

パスワードを設定しておくと、他人に無断でコンピュータを使用されたり、BIOSの設定を変更されたりするのを防ぐことができます。
パスワードの設定は、次の手順で行います。手順はSupervisorパスワードをもとに記載していますが、Userパスワードも同様の手順で行います。

パスワードの設定方法は、次のとおりです。

1 「Set Supervisor Password」項目で、[↵]を押します。次の画面が表示されます。

Setup Supervisor Password:	
Enter New Password	[　　　　　]
Confirm New Password	[　　　　　]

2 「Enter New Password」欄にパスワードを入力し、[↵]を押します。パスワードは8文字まで入力できます。

3 「Confirm New Password」欄に、確認のため手順2と同じパスワードを入力し、[↵]を押します。同じパスワードを入力しないと、エラーになります。

4 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[Continue]が選択されている状態で[↵]を押します。これでパスワードの設定は終了です。

登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。
万一、パスワードを忘れた場合は、修理センターまでご連絡ください。

BIOS Setupユーティリティ起動時に要求されるパスワード入力画面で、User Passwordを入力した場合は、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目が下記の項目に限定されます。

- 「Main」メニュー画面－「System Time」,「System Date」
- 「Security」メニュー画面－「Set User Password」
- 「Exit」メニュー画面－「Exit Saving Changes」,「Exit Discarding Changes」

パスワード入力時の注意

パスワード設定時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

パスワードの変更

パスワードの変更方法は、次のとおりです。

1 「Set Supervisor Password」項目で、[↵]を押します。次の画面が表示されます。

Setup Supervisor Password:		
Enter Current Password	[	]
Enter New Password	[	]
Confirm New Password	[	]

2 「Enter Current Password」欄に今まで使用していたパスワードを入力し[↵]を押します。

3 「Enter New Password」欄に新しく設定したいパスワードを入力し[↵]を押します。

4 「Confirm New Password」欄に、確認のため手順3と同じパスワードを入力し、[↵]を押します。

5 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[Continue]が選択されている状態で[↵]を押します。これでパスワードの変更は終了です。

パスワードの解除

パスワードの解除方法は、次のとおりです。

1. 「Set Supervisor Password」項目で、↵ を押します。次の画面が表示されます。

Setup Supervisor Password:	
Enter Current Password	[ ]
Enter New Password	[ ]
Confirm New Password	[ ]

2. 「Enter Current Password」欄に今まで使用していたパスワードを入力し ↵ を押します。

3. 「Enter New Password」欄に何も入力せずに ↵ を押します。

4. 「Confirm New Password」欄に何も入力せずに ↵ を押します。

5. 「Changes have been saved.」とメッセージが表示されたら、[Continue]が選択されている状態で ↵ を押します。これでパスワードの解除は終了です。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムを起動するドライブの順番を設定します。コンピュータが「Boot Sequence」で設定されたドライブの順番にシステムを検出して、システムが見つかったドライブから起動します。初期設定は、[Hard Disk Drive]、[Floppy Disk Drive]、[CD-ROM Drive]、[Network Boot]です。

ドライブを選択して [ ]（スペースキー）を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して [Fn] + [-] を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

Boot Sequence	Hard Disk Drive	HDDから起動します。
	Floppy Disk Drive	オプションのUSB FDDから起動します。
	CD-ROM Drive	オプションのUSB接続の薄型ドライブから起動します。
	Network Boot	有線LANを使用して、接続しているサーバー上のOSを起動します。
USB FDD		オプションのUSB接続のFDDや薄型ドライブから起動するかどうかを設定します。 Enabled　：Boot Sequenceの設定にしたがって、USB接続のFDDまたは薄型ドライブから起動します。 Disabled　：USB接続のFDDまたは薄型ドライブから起動しません。
LAN Boot		リモートブートを行う場合にEnabledに設定します。 Enabled　：有効にします。 Disabled　：無効にします。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティをどのように終了するかを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	変更した内容(設定値)をBIOS Setupユーティリティを終了させずに保存します。

BIOS Setup ユーティリティの設定値

BIOS Setupプログラムで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定および変更した内容は必ず記録しておいてください。

Mainメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal NumLock	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
C3 State	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
Quick Boot	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
CLKRUN	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled

Advancedメニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Securityメニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Hard Disk boot Sector		Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
Device Config-uration	USB Port	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
	Audio	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
	Modem	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
	LAN	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
	PC Card/IEEE1394	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
	Wireless LAN	Enabled	Disabled	Enabled	Disabled

Bootメニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Sequence	1				
	2				
	3				
	4				
USB FDD		Enabled	Disabled	Enabled	Disabled
LAN Boot		Enabled	Disabled	Enabled	Disabled

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

HDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを、本書では、「リカバリ」と記載します。

リカバリが必要な場合

リカバリはなんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合などに行います。通常は必要ありません。

重要事項

リカバリを行う前に、次の重要事項を必ずお読みください。

- エプソンダイレクト製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、リカバリができなくなります。

- 次のようなことを行うと、HDDからリカバリを実行することができなくなります。絶対に行わないでください。
  - ・別のOSをインストールした場合
  - ・HDDのブート領域の情報を変更できるような市販のアプリケーションを使用して、ブート領域を書き換えた場合
  - ・MS-DOSの「FDISK□/MBR」（□はスペース）コマンドを実行した場合

- Norton AntiVirus2003で、90日経過後に更新権を購入してウィルス定義ファイルの更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新権が無効になります。この場合、再度更新権を購入していただく必要があります。あらかじめご了承ください。

p.140「コンピュータウィルスの検索・駆除」

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

- HDD上の重要なデータはDドライブ、または別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。リカバリを実行すると、HDDをフォーマットするため、Cドライブのデータはすべて消去されます。

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、再インストールの方法について記載しています。

本機では、次のいずれかの方法でリカバリを行うことができます。

● HDDのリカバリイメージからリカバリを実行(推奨)
HDDのリカバリイメージを使用してリカバリを行います。高速にWindowsやデバイスドライバを再インストールすることができます(約15分)。

リカバリイメージからリカバリを実行すると、リカバリCDを作成することはできなくなります。

● リカバリCDからリカバリを実行
「Bootable CD Creator」で作成したリカバリCDからリカバリを実行します。リカバリCDを使用する場合には、本機専用オプションの薄型ドライブが必要です。また、リカバリには約1時間かかります。
リカバリCDを作成していない場合は、リカバリを実行する前にリカバリCDを作成しておいてください。

p.208「リカバリCDの作成」

リカバリCDを作成すると、HDDからのリカバリは実行できなくなります。

必要なメディア

Windowsのインストールに必要なメディアは、リカバリ方法によって異なります。

● HDDのリカバリイメージを使用する場合
Windowsのインストールには、CD-ROMやFDなどの特別なメディアは必要ありません。

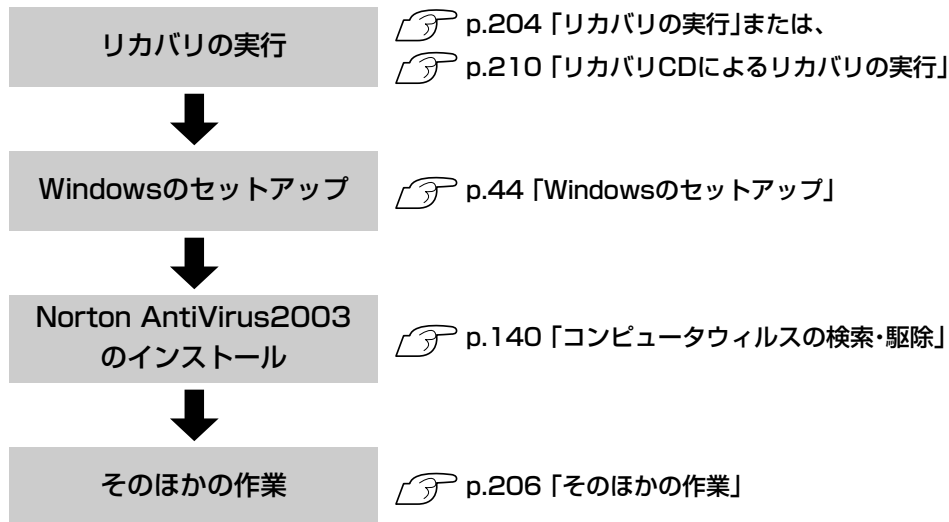
● リカバリCDを使用する場合

「Bootable CD Creator」で作成したリカバリCDを使用します。Windows 2000用は2枚組、Windows XP用は3枚組です。
また、本機専用オプションの薄型ドライブも必要です。

SymphomovieインストールモデルやOffice XPインストールモデルの場合、アプリケーションの再インストールには添付のCD-ROMを使用します。
またお使いのシステム構成によっては、CD-ROMなどのメディアが必要になる場合もあります。詳しくは、アプリケーションや周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
なお、CD-ROMやFDを使用する場合は、オプションの薄型ドライブ、またはUSB FDDが必要です。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

p.204「リカバリの実行」または、
p.210「リカバリCDによるリカバリの実行」
p.44「Windowsのセットアップ」
p.140「コンピュータウィルスの検索・駆除」
p.206「そのほかの作業」

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

リカバリを実行すると、Windowsとドライバ類を同時にインストールします。Windowsのみをインストールすることはできません。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

NTFSを使用して領域を作成し、Windowsをインストールします。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。

Cドライブ:HDD(Windowsがインストールされている領域)

Dドライブ:HDD(残りの領域)

入力文字

インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

管理者権限でログイン

アプリケーションや周辺機器に添付のデバイスドライバのインストール作業などは、「コンピュータの管理者(Administrator)」権限でログインして行ってください。

Windows CD-ROMを要求されたら

デバイスドライバのインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。このような場合には、次のフォルダ名を指定してください。

Windows 2000： C:¥I386（¥I386のIはアルファベット）

Windows XP　： C:¥WINDOWS¥I386（¥I386のIはアルファベット）

各種設定の確認

ネットワークやモデム、インターネットなど使用している場合は、Windowsをインストールすると、再設定が必要になります。設定を書き移しておいてください。

リカバリの実行

ここでは、HDDのリカバリイメージからWindowsを再インストールする手順について説明します。
「Bootable CD Creator」で作成したリカバリCDからリカバリを実行する場合は、p.210「リカバリCDによるリカバリの実行」を参照してください。

1. **コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はコンピュータを再起動します。**

2. **次のメッセージが表示されたら F10 を押します。**
   「EPSON DIRECT」画面が表示された直後にこのメッセージが表示されます。
   Press F10 to Recover

3. **「EasyRestore」画面が表示されたら、[続ける]をクリックします。**

4. **「警告」画面が表示されます。[はい]をクリックします。**

5. **ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーには、数分程かかります。**

6. **「Press any key to continue...」と表示されたら、どれかキーを押します。**

7. **コンピュータが再起動して Windows のセットアップが始まります。これでリカバリの実行は終了です。**

Windowsのセットアップ

Windowsのセットアップを行います。

p.44「Windowsのセットアップ」

Norton AntiVirus2003のインストール

Norton AntiVirus2003をインストールします。

p.140「コンピュータウィルスの検索･駆除」

そのほかの作業

SBSIのインストール(Windows XPのみ)

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「SBSI(ステップバイステップインタラクティブ)」をインストールします。

インストール中に「警告」が表示された場合には

Norton AntiVirus2003がインストールされている場合は、インストール中に「警告」画面が表示されることがあります。このような場合は、p.144「Norton AntiVirus2003使用時の注意」を参照して対処してください。

インストールは、次の手順で行います。

1. [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
2. 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
   C:¥DRIVERS¥WXP¥SBSI¥SETUP¥SETUP
3. 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
4. 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
5. 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
6. 「この登録情報は正しいですか?」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
7. 「セットアップが完了しました。・・・」と表示されたら、[完了]をクリックします。
8. 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら右上にある☒をクリックします。
9. Windowsを再起動します。Windowsが再起動したら、ステップバイステップインタラクティブのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類に添付のマニュアルをご覧ください。

なお、CDやFDのメディアを使用する場合は、オプションの薄型ドライブやUSB FDDが必要です。

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合　:USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　:プリンタに添付のドライバ

アプリケーションのインストール

Symphomovieインストールモデルや Office XPインストールモデルの場合には、アプリケーションのインストールを行います。インストール方法の詳細については、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

これらのアプリケーションのインストール用データは、CD-ROMに登録されています。アプリケーションのインストールを行うには、オプションの薄型ドライブが必要です。

リカバリCDの作成

本機では、「Bootable CD Creator」を使用して、HDDのリカバリイメージをCD-Rにコピーして、リカバリCDを一度だけ作成することができます。リカバリCDは、Windowsを再インストールするために使用します。
本機では、通常HDDのリカバリイメージを使用して、約15分でWindowsを再インストールすることができます。リカバリCDを使用してリカバリを実行すると約1時間かかるため、リカバリCD作成は必要に応じて行ってください。
なお、リカバリCDを作成すると、HDDからのリカバリは実行できません。

- リカバリCDを作成する前に、HDDからリカバリを実行すると、リカバリCDを作成することができなくなります。
- リカバリCDは、一度しか作成できません。
- あらかじめ、すべてのアプリケーションを終了させてから、リカバリCDの作成を行ってください。また、リカバリCD作成中は、他のアプリケーションを実行しないでください。
- リカバリCDを作成する場合や、作成したリカバリCDを使用してリカバリを実行する場合は、必ず本機専用オプションの薄型ドライブを使用してください。
- リカバリCDを作成する際は、必ずACアダプタを接続して行ってください。
- 作成したリカバリCDは、本機以外では使用できません。
- リカバリを実行する場合は、省電力機能をあらかじめ無効に設定してください。

p.134「省電力機能を使う」

リカバリCDの作成方法

リカバリCDの作成には、書き込み可能なCD-Rメディアが、Windows 2000の場合は2枚、Windows XPの場合は3枚必要です。リカバリCD作成を行う前に、あらかじめ準備をしておいてください。

リカバリCDを作成する手順は、次のとおりです。

1. **オプションの薄型ドライブを接続して、書き込み可能なCD-Rメディアをセットします。**
2. **[スタート]－「(すべての)プログラム」－「NetJapan BCDC」をクリックします。**
3. **「Bootable CD Creator SE 1.0」画面が表示されたら、[リカバリCDの作成]をクリックします。**
4. **「リカバリCDは一度しか作成できません。続けますか？」と表示されたら、[はい]をクリックします。**
5. **「空の書き込み可能なCD-Rが２枚(Windows XPの場合は３枚)必要です。続けますか？」と表示されたら、[OK]をクリックします。**

   CD-Rへの書き込みが開始します。
6. **「ブランクディスクを入れてください。」と表示されたら、CD-Rを入れ替えて[OK]をクリックします。**

   Windows XPの場合、2枚目のCD-Rへの書き込みが終了すると、このメッセージが再度表示されます。
7. **「CDの作成が終了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。**
8. **[終了]をクリックして、画面を閉じます。**
9. **Windowsを再起動します。**

   これで、リカバリCD作成は完了です。作成したリカバリCDには、それぞれ「リカバリCD Disc1」、「リカバリCD Disc2」(Windows XPの場合は「リカバリCD Disc3」)と明記して、大切に保管してください。

リカバリCDを利用してリカバリを実行する方法については、p.210「リカバリCDによるリカバリの実行」を参照してください。

リカバリCDによるリカバリの実行

ここでは、「Bootable CD Creator」で作成したリカバリCDを使用してリカバリを実行する手順について説明します。HDDのリカバリイメージからリカバリを実行する場合はp.204「リカバリの実行」を参照してください。

リカバリCDを使用してリカバリを実行する際は、必ず本機専用オプションの薄型ドライブを使用してください。専用オプション以外の薄型ドライブを使用した場合、リカバリCDは動作しません。

リカバリCDを使用して、リカバリを実行する手順は次のとおりです。
リカバリの所要時間は、約1時間です。

1 **オプションの薄型ドライブをコンピュータに接続して、「リカバリ CD Disc1」をセットします。**

2 **コンピュータを再起動します。**

3 **「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、薄型ドライブの起動順位を1番に変更します。**

❶ F2 を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
❷ → を数回押して、「Boot」メニュー画面を表示します。
❸ 「Boot Sequence」を選択して、↵ を押します。
❹ 「CD-ROM Drive」を選択し、 (スペースキー)を押し、「CD-ROM Drive」を一番上に移動します。
❺ Esc を押して「Boot」メニュー画面に戻ります。

4 **「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。**

❶ → を押して、「Exit」メニュー画面に移動し、「Exit Saving Changes」が選択されている状態で ↵ を押します。
❷ 「Setup confirmation」画面が表示されたら、[Yes]が選択されている状態で ↵ を押します。

5 **コンピュータが起動して「EasyRestore」画面が表示されたら、[続ける]をクリックします。**

6 **「警告」画面が表示されます。[はい]をクリックします。**

7 **ファイルのコピーが始まります。**

ファイルのコピーには約1時間かかります。処理が遅いように見えても、不具合ではありません。そのままお待ちください。

「ファイル“XXXX”が入っているメディア2(3)をドライブQに挿入してください。」と表示されたら、「リカバリCD Disc2(Disc3)」をセットして、[OK]をクリックします。

8 **「コンピュータの再起動」画面が表示されたら、薄型ドライブから「リカバリCD」を抜いて[再起動]をクリックし、コンピュータを再起動します。**

9 **コンピュータの再起動時に「BIOS Setup ユーティリティ」を起動し、手順3で変更した「CD-ROM Drive」の起動順をもとに戻します。**

10 **コンピュータが起動するとWindowsのセットアップが始まります。これでリカバリの実行は終了です。**

以降は、インストールの順番に従ってインストールを行ってください。

p.201「インストールの順番」

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法について
説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

ホームページのサポート情報について

エプソンダイレクトホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章の記述とあわせてご覧ください。

〈エプソンダイレクトWebサイト〉

http://www.epsondirect.co.jp/

コンピュータ本体の不具合

電源を切ってからもう一度入れ直す場合には、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象　**起動時に電源ランプが点灯しない。**

確認と対処

- バッテリだけで使用している場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してください。
- バッテリ、ACアダプタが正しく接続されているか確認します。

  p.34「ハードウェアをセットアップしましょう」
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品の電源コードを電源コンセントに接続して確認してください。
- バッテリ、ACアダプタ、電源コンセントに問題がない場合には、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象　**起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。**

確認と対処

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

- 起動時の自己診断テスト終了後（Windowsの起動中）に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、テクニカルセンターまでご連絡ください。

- 起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題が解決できない場合には、テクニカルセンターまでご連絡ください。
  p.232「警告メッセージが表示されたら」

- BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。
  p.186「設定値をもとに戻すには」

- ビープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、テクニカルセンターまでご連絡ください。

- コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。

  Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

  F2 を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Exit Saving Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
  p.183「BIOS Setupユーティリティの操作」
  F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

現象　**起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。**

```
Enter Password [                ]
```

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。

  p.190「Securityメニュー画面」

- パスワードを正しく入力しているか確認します。Num Lkの状態により一部のキーが数値キーとして働きます。

  p.81「キーボードを使う」

- パスワードを忘れてしまった場合には、修理センターにご相談ください。

現象　**起動時に次のようなメッセージが表示されて、Windows が起動しない。**

・Operating System not found
・DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
・Invalid system disk Replace the disk, and then press any key

確認と対処

- システムが登録されていないFDがオプションのUSB FDDにセットしてある場合は、FDを抜いてどれかキーを押してください。

現象　**ハングアップしてしまい、何も反応しない。**

確認と対処

- Ctrl+Alt+Deleteを押してリセットします。
- リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。
- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

  p.52「電源の切り方」

現象　**「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。**

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。修理センターまでご連絡ください。

省電力機能に関する不具合

現象　　**正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない**

確認と対処

- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- バッテリ残量が少なくなり、ローバッテリ省電力モードに入った場合は、ACアダプタを接続してから復帰させてみてください。
- 省電力モードから復帰できない場合は、Ctrl+Alt+Deleteを押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
- 省電力モード時にPCカードやCFカードを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl+Alt+Deleteを押して、本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存データは、すべて消失します。

こんなときは

バッテリパック使用時の不具合

現象　**充電されない**

確認と対処

- バッテリ充電LEDが橙色に点滅している場合は、バッテリが正しく装着されていない可能性があります。バッテリを装着し直してみてください。
- 電源コンセントに電源が供給されているかを確認します。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してみます。
- 本機ではバッテリの温度が上がると充電 LED が消灯して充電を停止します。この場合は、バッテリの温度が下がると充電が再開されます。
- 電源コンセントに問題がない場合は、ACアダプタまたはコンピュータに問題があります。テクニカルセンターにご連絡ください。
- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電し直してください。
  p.65「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

現象　**すぐにバッテリが終ってしまう。バッテリでの使用時間が短い。**

確認と対処

- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。バッテリのリフレッシュを行ってから充電し直してください。
  p.65「バッテリ残量が正しく表示されないときは」
- バッテリのリフレッシュを行っても問題が解消されないときは、バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  p.69「使用済みバッテリの取り扱い」

キーボードの不具合

現象　**どのキーを押しても応答がない。**

確認と対処

- アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。
  p.54「リセット」

現象　**キートップにある文字や記号が入力できない。**

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。
  p.82「文字を入力するには」
- Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。
  Windows上で次のキーボードが選択されていることを確認します。
  101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

  確認方法は、次のとおりです。
  Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「キーボード」アイコンをダブルクリック
  Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「キーボード」をクリック

タッチパッドの不具合

現象　**ポインタの動きが悪い。**

確認と対処

- 手が濡れていたり、湿気を帯びていたりしないか確認してください。
- LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れ直してください。
- タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。
  p.73「タッチパッドユーティリティを使う」

マウスの不具合(オプション)

現象　**マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。**

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。
  p.75「マウスを使う」

現象　**マウスポインタの動きが悪い。**

確認と対処

- マウスのクリーニングを行ってみてください。
  p.234「マウスのお手入れ(オプション)」

LCDの不具合

現象　**LCD画面に何も表示されない。**

確認と対処

- 画面の明るさを調節してください。[Fn]+[F6]/[Fn]+[F7]で調節できます。

p.103「表示装置を使う」

- LCD画面の電源が切れていないか確認します。[Fn]+[F11]を押してみてください。
- 省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。

p.139「復帰方法」

- バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してもそのまま放置すると、スタンバイモードに移行します(購入時の設定)。ACアダプタを接続してください。
- 表示装置の設定がLCD画面を表示する設定になっていない(外付けディスプレイのみに表示)可能性があります。表示装置の設定を変更してください。

p.106「表示装置の切り替え方法」

- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。ビープ音が鳴った場合は、音の種類、音の長さなどを確認した上で、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象　**画面がちらつく。**

確認と対処

- LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生する場合には、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象　画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

● 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動し直し、解像度を正しく選択してください。セーフモードは、Windowsを基本的な設定で起動するモードです。

Windows 2000の場合

Windows 2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1. **コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあとに電源を入れます。**
2. **画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に F8 を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。**
   Windows 2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください。
3. **「Windows 2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、↵ を押します。**
   以降は画面の指示にしたがってください。

Windows XPの場合

Windows XPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1. **コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。**
2. **電源を入れた直後に、F8 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**
3. **「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、↵ を押します。**
   以降は画面の指示にしたがってください。

USB FDDの不具合(オプション)

現象 **FDに正常にアクセスできない。**

確認と対処

● 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

ディスクの挿入
A:ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

● 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか?
[はい] [いいえ]

● 使用しているFDが本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

● 別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、読み書きできないFDに異常があることが考えられます。

● システムが登録されたFDから起動できるか確認してください。起動できない場合、FDDが故障している可能性があります。テクニカルセンターにご連絡ください。

現象　　FDに書き込みできない。

確認と対処

● ライトプロテクトされていないか確認します。
p.90「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象　　FDDから異常な音がする。

確認と対処

● テクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象　　それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処

● HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
p.188「Mainメニュー画面」

現象　　特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処

● ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDD のメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

アプリケーションソフトの不具合

現象 **アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。**

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやホコリ、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDD に対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象 **アプリケーションソフトが起動しない。**

確認と対処

- アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。
- アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FD やCDから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。
- アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象 **メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。**

確認と対処

- Windows 上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。BIOS Setupユーティリティを実行し、「Mainメニュー画面」－「Extended Memory」でメモリ容量を確認してください。
  p.183「BIOS Setupユーティリティの操作」

  本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。

- メモリモジュールを増設または交換した場合は、メモリモジュールのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

- 購入時から不具合がある場合は、テクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合

現象 **PCカードをセットしても、使用できない。**

確認と対処

- 本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。
  p.94「PCカードを使う」

- PCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。
  p.94「PCカードを使う」

- PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

- 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

  詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

CFカードの不具合

現象　**CFカードをセットしても、使用できない。**

確認と対処

- 本機で使用可能なCFカードかどうか確認してください。
  p.99「コンパクトフラッシュカードを使う」
- CFカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。
  p.99「コンパクトフラッシュカードを使う」
- CFカードを使用するためのに必要なドライバやアプリケーションがインストールされているか確認してください。詳しくは、CFカードに添付のマニュアルをご覧ください。

現象　**CFカードをセットすると画面が開いてしまう。**

確認と対処

- CFカードに登録されているデータの種類によっては、自動的に画面が表示されます。Windowsが実行する操作を選択して、[OK]をクリックしてください。

プリンタの不具合

現象　**印刷できない。**

確認と対処

- プリンタの電源および印刷するための準備が完了しているか確認してください。
- プリンタの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。
- Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

内蔵スピーカの不具合

現象　**システムは正常に動作しているのに音がしない。**

確認と対処

- 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている可能性があります。ボリュームを調節してください。

  p.113「サウンド機能を使う」

- 内蔵スピーカの不良が考えられます。テクニカルセンターまでご連絡ください。

インストール時の不具合

現象　**インストールがマニュアルどおりにできない。**

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でHDDのブート領域が書き込み禁止の設定になっていないか、確認してください。

  p.190「Securityメニュー画面」−「Hard Disk boot Sector」

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

FAXモデムの不具合

現象　**「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。**

確認と対処

● 「モデムのプロパティ」で[詳細情報]または[モデムの照会]を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。

Windows XP　：［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。

現象　**インターネットへ接続できない**

確認と対処

● モジュラケーブルが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。

● 次の場所で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。

Windows 2000：［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」－「接続先の名前」－［プロパティ］－［ダイヤル情報］

Windows XP　：［スタート］－「接続」－「接続先の名前」－［プロパティ］－［ダイヤル情報］

● 次の方法でダイヤルの設定を変更してみてください。

Windows 2000： [スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－[プロパティ]－「全般」タブ－「ダイヤルの管理」項目－「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

Windows XP　： [スタート]－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－[プロパティ]－「モデム」タブ－「ダイヤルの管理」項目－「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。

● 接続ユーザー名や、接続パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。

・全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。

・大文字と小文字をきちんと区別しているか。

・数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。

・接続ユーザー名とメールアカウントを混同していないか。

・接続パスワードとメールパスワードを混同していないか。

● DNS（ネーム）サーバの IP アドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でDNS（ネーム）サーバのIPアドレスを確認します。

・Windows 2000の場合

❶ [スタート]－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ」－「接続（任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。

❷「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル」－[プロパティ]でDNS（ネーム）サーバのアドレスを確認します。

・Windows XPの場合

❶［スタート］－「接続」－「接続名(任意の名前)」－［プロパティ］をクリックします。

❷「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル(TCP/IP)」－［プロパティ］でDNS(ネーム)サーバのアドレスを確認します。

● 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

● 接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、アクセスポイントを変更することによってインターネットへ接続できる場合もあります。同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみてください。

● 次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。

・極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。

・極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。

・プロバイダのサーバが停止している。

現象　**V.90通信方式で通信できない。**

確認と対処

● 回線状況によって、V.90 通信方式で接続できない場合があります。V.90 通信方式のほかにはx2方式があります。x2方式のモデムとは、V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。またお使いになっている、最寄りの電話局の交換機からプロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.90通信方式で接続することができます。

● PBX回線では、V.90通信方式では接続できません。V.34通信方式(33600bps)以下で接続します。

現象　**V.90、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。**

確認と対処

● V.90、V.34 通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明
System CMOS checksum bad - configuration used	CMOS RAMのデータが壊れているか、不正な値が設定されています。BIOS Setup ユーティリティを起動して値を再設定してください。
Failure Fixed Disk	HDDが動作していないか、正しく認識されていません。BIOS Setup ユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。
Keyboard error	キーボードにエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Operating system not found	オペレーティングシステムが見つかりません。HDDから起動する場合は、BIOS Setup ユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。FDDから起動する設定になっている場合は、挿入したフロッピーディスクがシステムディスクではない可能性があります。
System RAM Failed at offset	システムRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Extended RAM Failed at address line	拡張メモリに不具合があるか、正しく認識されていません。BIOS Setup ユーティリティを起動してメモリを再検出します。
Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の自己診断テストでのエラーがそのままです。セットアップには前回の値を使用するため、値が不正確な場合、このまま起動しても再度エラーになります。BIOS Setup ユーティリティを起動して設定値を確認します。間違いがあれば訂正します。
System cache error - Cache disabled	キャッシュメモリにエラーが発生しました。テクニカルセンターまでご連絡ください。
System timer error	システムタイマーでエラーが発生しました。テクニカルセンターまでご連絡ください。
Real time clock error	内蔵クロックにエラーが発生しました。テクニカルセンターまでご連絡ください。

付　録

お手入れ方法や仕様などについて説明しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCDパネルのお手入れ

LCDパネルは乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

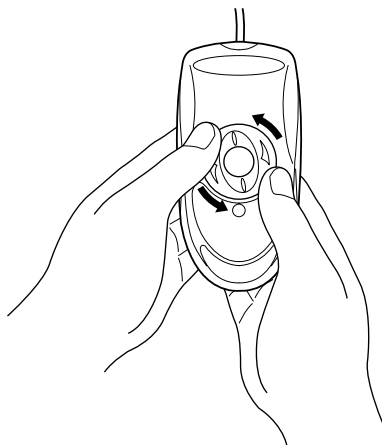
マウスのお手入れ(オプション)

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。
クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。

- 小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。
- マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1 **マウス底面のボールフレームを外します。**

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。

2 **マウスボールを取り出します。**

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

3 **マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。**

- マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
- クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。

4 **マウスボールをマウス底面の穴に入れます。**

5 **ボールフレームをもとどおりに取り付けます。**

右回りに回してマウス本体に装着します。

マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

BIOS セットアップユーティリティで設定した情報は、本体内部のリチウム電池によって保持されています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
修理センターへご連絡ください。

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムではモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。
本機で使えるATコマンドの一覧は、次のフォルダの「index.html」をご覧ください。

C:¥DRIVERS¥MODEM

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア(Internet ExplorerやOutlook Expressなど)でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。
次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

Windows 2000： [スタート]－「設定」－「コントロールパネル」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－[プロパティ]－「詳細」タブの「追加設定」

Windows XP ： [スタート]－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－[プロパティ]－「詳細」タブの「追加設定」

付録

現　象	AT コマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を工場出荷時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線（パルスダイヤル）でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線（トーンダイヤル）でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=V34」（V.34） 「AT+MS=V90」（V.90） 使用したい通信方式に応じて設定。
接続が不安定（10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう）	
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例：ATM0X3　（ATM0+ATX3）

機能仕様一覧

CPU		モバイルインテルCeleron LVプロセッサ
メモリ	ROM	AWARD BIOS
	メインメモリ	内蔵メモリ256MB Micro DIMM（Micro SDRAM）を使用して 最大512MBまで増設可能（Micro DIMMソケット×1）
	ビデオメモリ	メインメモリより最大16MBを使用
ビデオ	コントローラ	インテルi830MG
	バス	AGPバス
画面表示	液晶タイプ	12.1型XGAカラー液晶　1024×768ドット　True Color（32ビット）[*1]
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200ドット、True Color（32ビット）
サウンド	コントローラ	Realtek ALC201 AC'97対応
	バス	PCIバス
キーボード		OADG準拠日本語対応85キー（Windowsキー付き）
ポインティングデバイス		タッチパッド（スクロール機能付き）
記憶装置	HDD	2.5型IDE HDD1基内蔵
インタフェース	VGA	専用コネクタ1 （添付のVGAケーブルを使用してアナログRGB ミニD-SUB　15ピンに変換）
	サウンド	モノラルスピーカ内蔵 ヘッドフォン出力　コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1
	USB	2（USB2.0対応）
	IEEE1394	1（4ピン）
	FAXモデム	1（RJ-11 V.90対応）[*2]
	ネットワーク	1（RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動認識）
	ワイヤレスLAN	ワイヤレスLAN（IEEE802.11b対応、2.4GHz、11Mbps）[*3]
PCカードスロット		1スロット　TypeII×1　PC Card Standard準拠（CardBus対応）
CFカードスロット		1スロット　TypeIまたはTypeII×1　CompactFlash Standard準拠
カレンダ時計		内蔵（内蔵電池によりバックアップ）
電源	ACアダプタ	入力AC100V～240V±10%[*4]、1.0A（50/60Hz）、出力20V、2.0A 重量220g
	1800mAhバッテリパック	容量 1800mAh Li-ion 14.8V 動作時間　約2.5時間　JEITA測定方法Ver1.0
	3600mAhバッテリパック	容量3600mAh Li-ion 14.8V 動作時間　約5.0時間　JEITA測定方法Ver.1.0
温湿度条件		温度：10～35℃ 湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法		本体：約286（幅）× 232（奥行）× 18.5－23.2（高さ）mm（突起部除く）
質量		本体：約1.42Kg（1800mAhバッテリ装着時） 約1.59Kg（3600mAhバッテリ装着時）
消費電力	定格消費電力	40WAC
	待機時消費電力	1.1WAC

[*1] グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。
[*2] 機器名と認証番号は次のとおりです。
機器名　：T60H418
認証番号：財団法人 電気通信 端末機器審査協会 A02-0115JP
[*3] 認証番号ラベルはコンピュータの背面に貼付されています。
[*4] 標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。

オプション

外付けFDD	USB接続3.5型FDD
マウス	USB接続ホイール付きマウス

ワイヤレスLAN

データ転送速度	11M/5.5M/2M/1M(bps)(自動切替)[*1]
準拠規格	ARIB STD-T66(小電力データ通信システム規格) IEEE802.11b(2.4GHzワイヤレスLAN標準プロトコル)
伝送方式	DS-SS方式
伝送距離(理論値)	屋内におけるアクセスポイントとの通信時[*2] 1Mbps ：115m 2Mbps ：40～90m 11Mbps：25～50m
セキュリティ	128/40bit WEP対応
使用無線チャンネル	1～11ch
RF周波数帯域	2.4GHz帯全域(2.4～2.4835GHz)

*1 IEEE802.11b規格による速度(理論値)であり、実効速度とは異なります。
*2 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、OSなどの使用条件によって短くなります。

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

● ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

● AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

● BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

類義語　CMOS RAM

● BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

● Boot（ブート）

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

● CPU

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

● DMA転送

Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

● DMAチャネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャネルを使用するように設定する必要があります。

● DRAM（ディーラム）

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

● FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報（File Allocation Table）を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を１つのドライブとして使用することができます。

● HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができ、それぞれドライブとして利用できます。

● I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

● IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。

● IEEE1394

コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のことです。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

● IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

● IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0〜IRQ15の16種類が用意されています。

● LAN

Local Area Networkの略で、会社内や学校内など比較的限られたエリア内のコンピュータ同士をつなげた状態のことです。

● Micro DIMM

ノートパソコン用の小型のDIMMです。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

● MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

● NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

● OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

● PCIバス

拡張バスの一種。一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されます。

● RAM(Random Access Memory)
RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● ROM(Read Only Memory)
読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● RS232C
シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● SDRAM
外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

● TA(ターミナルアダプタ)
コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

● USB
Universal Serial Busの略。周辺機器をシリアル通信で接続するための規格。USB対応機器を接続します。USB2.0はUSB1.1と完全互換ですが、USB2.0の動作速度で動作するには、コンピュータ、周辺機器の両方がUSB2.0に対応している必要があります。

● アカウント
ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

● アクセス
データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

● アクセスポイント
インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

● アクセスランプ
HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

● アップロード
手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。

● アドレス
メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

● アプリケーションソフト
プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのようにユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

● インストール
ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

● インタフェース
コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

● オフライン
コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

● オンライン
他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

● 解像度
画面表示の細かさのことです。

● 外部キャッシュメモリ
CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。
類義語　キャッシュRAM、L2 キャッシュ、2次キャッシュ

● カーソル
文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

● 起動する
コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。
類義語　立ち上げる。

● キャッシュ処理、キャッシュ機能
一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

● コマンド
コンピュータに与える命令です。命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

● コンパクトフラッシュカード（CFカード）
Compact Flash Cardの略。主にデジタルカメラなどで利用される小型の記録メディアです。小型PCの一部ではデータ交換のメディアとしても利用されています。

● サーバ
ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● システム
コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

● ダイヤルアップ接続
モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するために、プロバイダに接続することを言います。

● ダウンロード
遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

● ディザリング
複数の画素を組み合わせて、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

● ディスプレイ
表示装置のことです。
類義語　CRTディスプレイ、モニタ

● ドット
表示画面のひとつひとつの点の単位です。

● ドライブレター
FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。

● 内部キャッシュ
CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

● バス
コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

● パラメータ
コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

● ハングアップ
コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● ヒートシンク
放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

● ファイル
コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

● 物理ドライブ
HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● ブラウザ
インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

● プラグアンドプレイ
取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。
拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

● プログラム
コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。
類義語　ソフトウェア、アプリケーションソフト

● プロトコル
ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● ポート
コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● ボリュームラベル
HDDやFDにつけた名称のことです。

● メッセージ
コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● メインメモリ
メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことです。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

● メモリ
実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語のことです。

類義語　システム資源

● ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

類義語　ログイン／ログアウト

● 論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

● ワイヤレスLAN

ネットワークケーブルを使わずに、電波などの無線で通信を行うLANのことです。

索　引

け

こ

さ

し

す

せ

そ

た

て

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

め

も

ら

り

ろ

わ

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
(2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点 がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。
当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

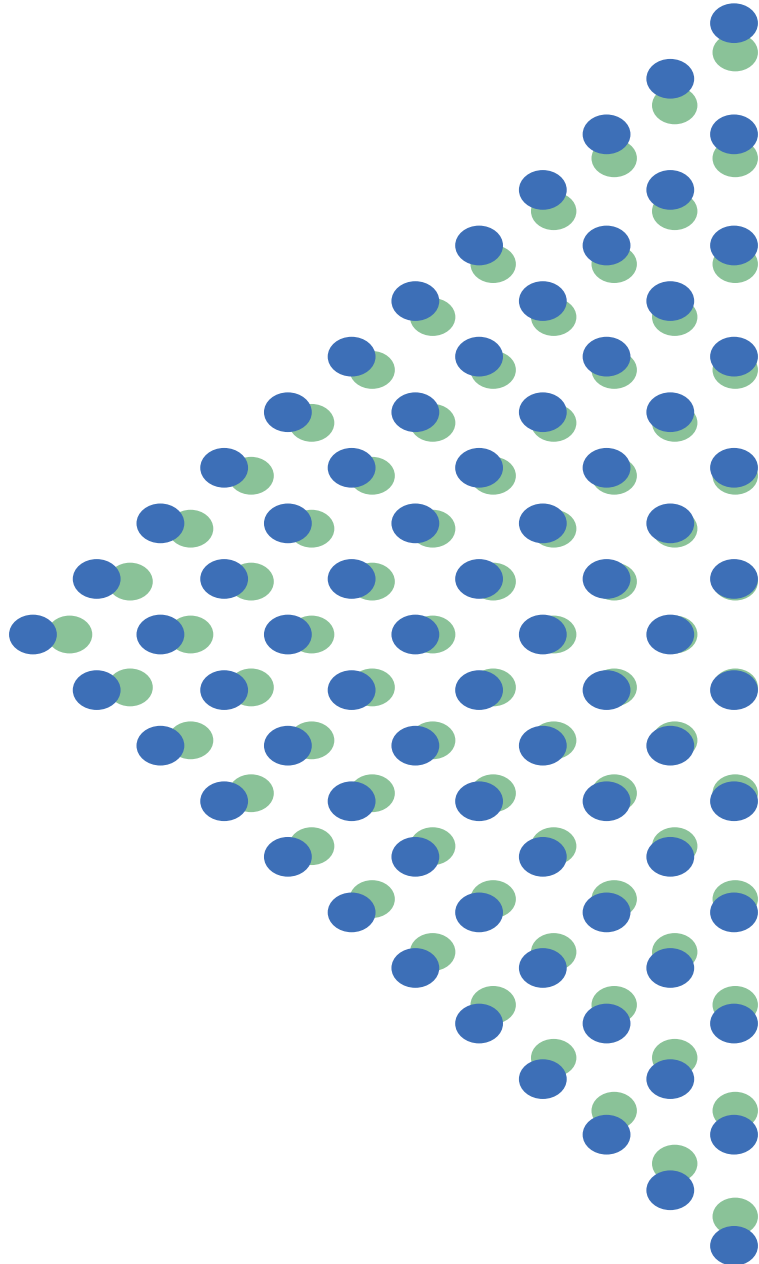
漏洩電流自主規制について

本装置は、(社)電子情報技術産業会((社)日本電子工業振興協会)のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは 米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
インテル、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標 (地域によっては登録商標)です。
そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

EPSON DIRECT CORPORATION

C77245000　03.02-05.00(SO)